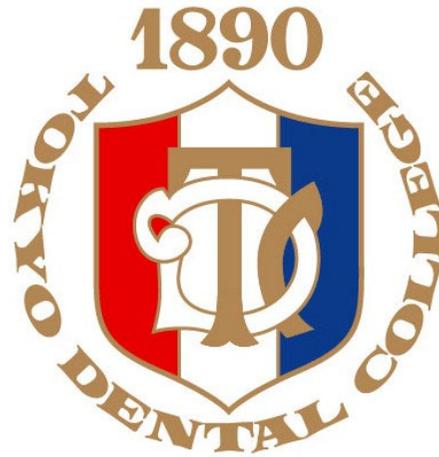


2025 年度 第 1 学年 授業要覧



東京歯科大学短期大学歯科衛生学科

Tokyo Dental Junior College
Department of Dental Hygiene

番号 _____

氏名 _____

目 次

東京歯科大学短期大学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、コンピテンシー	1
心理学	2 - 4
法学	5 - 7
生命倫理	8 - 9
コミュニケーション理論と実際	10 - 12
生物学	13 - 15
情報リテラシー	16 - 19
経済学	20 - 21
国際保健学	22 - 23
統計学	24 - 26
食育論	27 - 28
英語 I (基礎英語)	29 - 31
中国語	32 - 33
韓国語	34 - 36
解剖・口腔解剖学	37 - 39
組織・口腔組織学	40 - 43
生理・口腔生理学	44 - 46
病理・口腔病理学	47 - 49
微生物・口腔微生物学	50 - 52
公衆衛生学	53 - 55
口腔衛生学	56 - 58
生化学	59 - 61
薬理・歯科薬理学	62 - 64
歯科感染予防学	65 - 67
歯科放射線学	68 - 70
歯科材料学	71 - 72
歯内療法学	73 - 74
保存修復学	75 - 77
歯周病学	78 - 79
歯科補綴学	80 - 83
歯科衛生学概論	84 - 86
歯科疾患予防論	87 - 90
小児歯科学	91 - 93
スペシャルニーズ歯科学	94 - 95
高齢者歯科学	96 - 97
実習 I (歯科予防処置)	98 - 101
実習 II (歯科診療補助)	102 - 105
歯科保健指導論	106 - 108
歯科衛生統計学	109 - 111

東京歯科大学短期大学のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、コンピテンシー

1. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- 1) 歯科衛生士業務である歯科疾患の予防処置、歯科診療補助及び歯科保健指導の専門性を高めるために、時代に対応した高度な歯科医療に関する知識及び技能を修得する。
- 2) 高齢社会において、楽しく、美味しく、安全な食事を支援するためには、食べる機能を担う口腔機能の維持増進が重要という考えから、口腔機能の変化や機能障害を把握し、統合して支援を行うための知識と技能と態度を修得する。
- 3) 医学歯学のみならず、福祉など幅広い分野を学び、これらを統合して身につけることによって、医療・福祉の各領域の視点を持ちつつ、多職種と協働しながら、歯科衛生士の立場から総合的な知識と技能を駆使して人々の健康づくりに寄与するための知識と技能と態度を修得する。

2. ディプロマ・ポリシー（卒業認定、学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシーに基づき構築された各授業科目に合格することによりコンピテンシー（学修成果）を修得したものと認定する。一つひとつの授業科目に合格し、コンピテンシーの修得を積み重ねることにより、最終学年において全ての授業科目に合格することにより、本短期大学が示すディプロマ・ポリシーに示した人材に到達した者として学位を授与する。

- 1) 歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材
- 2) 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材
- 3) 医療、介護の総合的な確保が地域包括ケアシステムにおいて推進される中で、専門職として多職種と協働して歯科保健医療が提供できる人材
- 4) 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の様々な場に対応できる人材

3. コンピテンシー（行動特性・能力）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定、学位授与の方針）を満たすための要素として、コンピテンシー（行動特性・能力）を「学修成果」と位置付けてディプロマ・ポリシーと関連付けて示しています。

- 1) **アイデンティティ・人間力**: 建学の精神である「ヒューマニズム」を尊重した教育理念を理解し、幅広い教養と深い感性を身に付け行動する。
- 2) **倫理に基づく行動力**: 医療人として、法と医療倫理を遵守するとともに高い倫理観に価値を置いて行動する。
- 3) **社会貢献力**: 地域社会における保健、医療、福祉、行政等の活動を通じて、国民の健康回復、維持、向上と疾病の予防に貢献する。
- 4) **コミュニケーション能力**: 患者、家族、医療関係者やその他の人々の心理・社会的背景を踏まえながら、状況に応じて相手を尊重して対話する。
- 5) **チーム医療・協働する力**: 歯科医師、医師、連携する全ての医療従事者や患者・家族に関わるすべての人の役割を理解し、チーム医療の担い手として協調・協働する。
- 6) **自己研鑽力**: 主体的に学び、他の医療従事者とともに研鑽しながら生涯にわたって自律的に学び続ける。
- 7) **問題探求力**: 課題の本質に目を向け問題意識を持ち探求する。
- 8) **プロフェッショナリズム・専門的実践能力**: 歯科衛生士としての社会的使命を自覚し、医療人としての適切な態度のもと、統合された知識と基本的技能を身につけ、臨床において実践する。

【ディプロマ・ポリシーとコンピテンシーの対応】

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー（学修成果）							
	①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
1. 歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材	○		○	○				○
2. 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材	○	○				○	○	○
3. 医療、介護の総合的な確保が地域包括ケアシステムにおいて推進される中で、専門職として多職種と協働して歯科保健医療が提供できる人材	○	○		○	○		○	○
4. 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の様々な場に対応できる人材	○		○	○	○	○		○

科目名	心理学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※ 林 百合		
ナンバリング	A0101-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	臨床心理士、公認心理師として実務経験のある教員が、医療機関、臨床心理相談機関等における勤務・業務経験をいかし、心理臨床の実際に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

心理学は、人が生きる上で切り離すことのできないところのしくみと働きを「実証科学的」に解き明かすとともに、その成果を、ひとりひとりがこころ豊かに健やかに生きるため、また、よりよいコミュニティや社会をつくるために活用することを目的とする学問である。

人間のこころの一般性と個性性を探究する心理学の領域は、大変幅広く奥深く多岐にわたる。例えば、乳児期から高齢期のこころの発達や特性、心身の相互作用、自己理解と他者との関係、集団におけるこころの仕組みや行動などを学ぶことは、近年 全身の健康に密接に関連すると関心を集めている口腔内の健康づくりを支援・指導する力、医療の場での円滑な人間関係構築力にもつながる。

心理学にまつわる話題は日常にあふれ、知らず知らずのうちにふれているものであるが、学問としての心理学の基礎知識を学び、同時に、自ら考え、感じ、こころを豊かに働かせて、目に見えない、手でふれることのできないこころと丁寧に関わることを意識することを目指す。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○	○	○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

こころを理解する多角的な視点、深い探究心と洞察力、豊かな感性を養うために心理学の基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 実証科学としての心理学を学ぶ意義について説明する。(20%)
- 2) 心のしくみや働きについて、説明する。(20%)
- 3) 心の発達や心理臨床について説明する。(20%)
- 4) 心理学用語を列挙する。(20%)

- 5) 心の多面性について説明する。(10%)
- 6) 他者を理解するために必要な態度項目を列挙する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方略：講義
- 2) 能動的方略：ディスカッション・リアクションペーパー・グループワーク
- 3) 媒体：教科書・プリント・スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
 - 講義への積極的参加を含む受講態度（発言、疑問点、理解を深めるための質問など）、リアクションペーパー（必須課題と任意：適時フィードバック）、講義ノート
- 2) 総括的評価：
 - 定期試験：講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験にて評価する。(80%)
 - 講義ノートの評価する (20%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：シラバス、教科書『序章（1～18 ページ）』を通読する。心理学とは何か、こころとは何か、自分なりのイメージをつかむ。(10分)
- 第2～14回：教科書の指定部分を通読する。関心のあることがらについて主体的に調べ、疑問や自分なりの考察をもって臨む。(15分)
- 第15回：教科書と配布資料を見なおし、内容を理解しているか、専門用語を正しく理解し適切に使えるかを精査する。質問などを用意する。(10分)

2) 事後学修

- 第1回：当日の講義内容をふりかえり、重要事項について、配布資料をもとに、講義ノートを作成する。(10分)
- 第2～14回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントや専門用語をリストアップしてノートに整理する。講義で扱ったテーマについて、自分の体験や身のまわりの事象に結びつけてみる。毎回、ノートを見直して、これまでの内容や専門用語を正しく理解できているかくりかえし確認する。関心をもったテーマに関しては自分なりの考察を深める(15分)
- 第15回：教科書と配布資料、作成ノート見直す。心理学の基礎知識が身につく、これから生きる上で自分や他者のこころの理解につなげることができる。(10分)

3) 事前学修・事後学修の評価

- 事前学修：教科書指定箇所の音読、質問や考察などの発言にて確認する。
- 事後学修：講義ノート点検、講義時間中、教員からの質問や課題に答える。

7. 教科書

サトウタツヤ, 渡邊芳之 著	心理学・入門ー心理学はこんなに面白い 改訂版 (有斐閣アルマ)	有斐閣
----------------	---------------------------------	-----

8. 参考図書

長谷川寿一, 東條正城, 大島尚, 丹野義彦, 廣中直行 著	『はじめて出会う心理学 第3版』	有斐閣
山村 豊 著	心理学 [カレッジ版]	医学書院

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担 当 者
1	4/10	木	1	こころとは何か、心理学とは何か これからの講義についての説明と質疑応答	講義 リア クシ ョン ペー パー	14 階 教 室	林
2	4/17	木	1	大学生のメンタルヘルス・ストレスマネジメントー 「ストレス学説」 自らの心身の状態を見つめ、ストレス マネジメントについて理解し実践する	講義 リア クシ ョン ペー パー	14 階 教 室	林
3	4/24	木	1	臨床心理学 ①臨床心理学とはなにか	講義	14 階 教 室	林
4	5/8	木	1	臨床心理学 ②臨床心理学におけるさまざまな支援の 方法について知る ③近年の臨床心理学の実践 (予防や健康 の増進) について知る 臨床の場で機能するために、チーム医 療、多職種協働について理解する	講義	14 階 教 室	林
5	5/15	木	1	性格と個人差の心理学 ①性格とは、性格心理学とは ②性格をとらえる枠組み ③さまざまな性格理論 自身の性格・こころを多面的に観察する	講義 リア クシ ョン ペー パー	14 階 教 室	林
6	5/22	木	1	身近な社会的行動の心理学 ①社会的行動をつくり出すもの ②他者の「心」がわかるしくみ ③コミュニケーション 相手の話を聴くことの大切さ、むずか しさを知る	講義 グル ープ ワー ク	14 階 教 室	林

7	5/29	木	1	身近な社会的行動の心理学 ④人を好きになるのは、なぜ ⑤人を助ける、人を傷つける ⑥集団が人を変える 個と集団におけるこころの働きを知る	講義 ディスカッション	14 階 教室	林
8	6/5	木	1	発達心理学 ①新生児・乳幼児期から 高 齢 期 までの 心の発達 ②愛着理論	講義	14 階 教室	林
9	6/12	木	1	③こころの発達理論 発達のグランドセオリー ピアジェの認知発達理論 エリクソンの心理社会的発達理論	講義	14 階 教室	林
10	6/19	木	1	③こころの発達理論 発達のグランドセオリー マラーの分離個体化発達理論 ひとのこころの発達を理解し、発達段 階に応じた関わりを意識する	講義	14 階 教室	林
11	6/26	木	1	心を測るー臨床心理アセスメント ①臨床心理アセスメントの歴史 ②心理学的測定の考え方	講義 リア クシ ョン ペー パー	14 階 教室	林
12	7/3	木	1	心を測るー臨床心理アセスメント ③さまざまな臨床心理アセスメント 臨床心理査定面接法・検査法	講義	14 階 教室	林
13	7/10	木	1	知覚・認知・記憶の心理学 ①環境をとらえるしくみ ②知覚のシステム ③記憶のしくみ ④認知のバイアス	講義	14 階 教室	林

14	7/17	木	1	行動と学習の心理学 ①行動とは何か、学習とは何か ②生得的行動 ③学習される行動	講義	14 階 教室	林
15	9/4	木	1	これまでの講義のふりかえりと補遺 質疑応答。	講義	14 階 教室	林

科目名	法学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	萩原 伸介		
ナンバリング	A0102-1A		
実務経験	なし		
実務経験と教育内容 の関連性			

1. 教科の特徴

入学したばかりのみなさんにとっては、法律は遠い世界の問題であると考えられるかもしれない。たしかに、実際に法律が問題となるのは、さまざまなめごとやトラブルに巻き込まれたときであり、あまり関わりたくないものと思っているであろう。しかし、「社会あるところ法あり」といわれているように、何らかの人間社会が形成されれば、そこには必ずその社会を規律する法秩序が存在し、それに拘束される。法学は、社会で果たしている法秩序の役割を評価・分析し、さらによりよい社会を築くために機能する。

本講義では、これから歯科衛生士として社会活動をする際に要請されている、法的知識やものの考え方を修得することを目標とする。すなわち、教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、総合的な視点から、地域社会の様々な場に対応できる前提となる、法的な基本的知識や思考力の修得をめざすものである。あえて、簡潔に言い換えれば、「歯科衛生士として修めおくべき法学」である。

そこで、まず法学一般の基礎知識を解説し、いわゆる医療行為が、法的にどのように捉えられているか、また、事故が起こった場合どのような責任が生ずるかを、具体的な事例をとり上げつつ検討する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○				○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

将来、歯科衛生士として社会活動をするために必要となる法的知識・法的思考を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 法学を学ぶことの意義について説明する（5%）。
- 2) 法的概念の「医療と治療」を説明する（10%）。
- 3) 法的評価としての患者の同意の意義について説明する（15%）。
- 4) 各種コ・メディカルに関する法について説明する（10%）。
- 5) 医療従事者の民事責任について説明する（15%）。
- 6) 医療従事者の刑事責任について説明する（15%）。
- 7) 個人情報に関する法関係を理解し説明する（15%）。
- 8) 法における医療従事者の社会的役割について説明する（5%）。
- 9) 法学と医療の関わりについて説明する（10%）。

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ケース・スタディ（受講者による事例の分析・解釈・評価）
- 3) 媒体：教科書、六法、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義開始時にプレテスト、終了時にポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
評価は定期試験の成績とする（100%）。
定期試験は、講義内容の理解度を、多肢選択式、論述式、で行う。

6. 事前学修・事後学修

法学では、古典的な表現・用語も慣習として使用されるので、国語辞典（電子辞書も可）を準備すること。

全15回、各回の事前準備・事後学修は、以下の通りである。

1. はじめにー法学とはー
事前準備：シラバスを事前にプリントアウトし通読しておくこと（10分）
事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること（20分）
2. 治療行為と法
事前準備：教科書3ー17頁を通読しておくこと（15分）
事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること（30分）

3. 治療行為と同意(1)

事前準備：教科書18-24頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

4. 治療行為と同意(2)

事前準備：教科書25-32頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

5. コ・メディカルと法

事前準備：教科書35-92頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

6. 医療過誤と民事責任(1)ー医療は契約

事前準備：教科書95-122頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

7. 医療過誤と民事責任(2)ー債務不履行

事前準備：教科書95-122頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

8. 医療過誤と民事責任(3)ー不法行為

事前準備：教科書95-122頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

9. 医療過誤と民事責任(4)ー医事紛争の処理

事前準備：教科書95-122頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

10. 医療従事者と刑事責任

事前準備：教科書123-135頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

11. 医療過誤と刑事責任

事前準備：教科書123-135頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

12. 患者の人権と個人情報の保護

事前準備：教科書150-175頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

13. 守秘義務と根拠法令

事前準備：教科書150-175頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

14. 法学と法歯学

事前準備：事前配布のプリントを通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

15. 総括ー医療と法学との関わり

事前準備：教科書1-175頁を通読しておくこと(15分)

事後学習：授業内容を再度見直し、重要なポイントをノートにまとめること(30分)

7. 教科書

野崎 和義 著	コ・メディカルのための医事法学入門(第2版)	ミネルヴァ書房
池田真朗ほか編	法学六法25	信山社

8. 参考図書

伊藤正己ら編	現代法学入門(第4版)	有斐閣
--------	-------------	-----

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/14	月	3	1. はじめに――法学とは―― ・法学を学ぶことの意義について説明する	講義	14階教室	萩原
2	4/21	月	3	2. 治療行為と法 ・法的概念の「医療と治療」を説明する	講義	14階教室	萩原
3	4/28	月	3	3. 治療行為と同意 (1) ・法的評価としての患者の同意の意義について説明する	講義	14階教室	萩原
4	5/12	月	3	4. 治療行為と同意 (2)	講義	14階教室	萩原
5	5/19	月	3	5. コ・メディカルと法 ・各種コ・メディカルに関する法を説明する	講義	14階教室	萩原
6	5/26	月	3	6. 医療過誤と民事責任 (1) ――医療は契約 ・医療従事者の民事責任について説明する	講義	14階教室	萩原
7	6/2	月	3	7. 医療過誤と民事責任 (2) ――債務不履行	講義	14階教室	萩原
8	6/9	月	3	8. 医療過誤と民事責任 (3) ――不法行為	講義	14階教室	萩原

9	6/16	月	3	9. 医療過誤と民事責任 (4) ――医事紛争の処理	講義	14階教室	萩原
10	6/23	月	3	10. 医療従事者と刑事責任 ・医療従事者の刑事責任について説明する	講義	14階教室	萩原
11	6/30	月	3	11. 医療過誤と刑事責任	講義	14階教室	萩原
12	7/7	月	3	12. 患者の人権と個人情報の保護 ・個人情報に関する法関係を説明する	講義	14階教室	萩原
13	7/14	月	3	13. 守秘義務と根拠法令 ・歯科衛生士、歯科医師、医師の守秘義務について説明する	講義	14階教室	萩原
14	9/1	月	3	14. 法学と法歯学	講義	14階教室	萩原
15	9/8	月	3	15. 総括 ・法学と医療の関わりについて説明する	講義	14階教室	萩原

科目名	生命倫理	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※新島典子		
ナンバリング	A0103-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	損害保険に関する実務経験のある教員が、契約当事者や事故被害者からの各種相談を傾聴した経験を活かして講義を行っている。		

1. 教科の特徴

本教科は、以下を育むことを目的とした教科である。

- 1) 超高齢化の進む現代日本社会の倫理・道徳についての基本的教養と真摯な態度
- 2) 日々変化する社会における生命倫理的諸問題を理解し、他職種と連携して種々な場に対応できる自己開発能力
- 3) 現代社会の情報倫理（ネットリテラシー）を理解し、社会変化に対応する力

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○		○	○		○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

生命倫理的な諸問題を理解するためにこれらに関わる基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 現代社会の倫理・道徳にかかわる諸問題を説明する。（20%）
- 2) 様々な理論、概念、事例を用いて、倫理・道徳的知識を説明する。（15%）
- 3) 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を幅広く説明する。（15%）
- 4) 生と死にかかわる倫理的問題について幅広く説明する。（20%）
- 5) 患者を理解し、信頼関係を築くための方法を説明する。（20%）
- 6) 現代社会の情報倫理（ネットリテラシー）を説明する。（10%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方略：講義
- 2) 能動的方略：ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：スライド、プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：原則各回講義開始時にディスカッション、終了時に Google Forms によるポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（70%）
ディスカッション、ポストテストの結果を評価する。（30%）

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
第1回～第15回：シラバス記載テーマをウェブ検索し、重要ポイントを予測する。（10分）
- 2) 事後学修
第1回～第15回：当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。（15分）
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第1回～第14回：
事前学修：講義当日の開始時にディスカッションで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、ポストテストを行う。
第15回：
事前学修：講義当日の開始時にディスカッションで確認する。
事後学修：講義内で半年分のまとめを行い、各自で理解度を自己評価する。

7. 教科書

必要に応じて資料を配布。		
--------------	--	--

8. 参考図書

講義で適宜提示する。		
------------	--	--

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合でも、証明となる書類（遅延証明書等）を添えて、自分の学生番号と名前を書いた紙を当日授業終了時まで教員に提出しなかった学生は欠席扱いとする。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	10/2	木	3	歯科衛生士に必要な倫理・道徳 (1) 1.倫理の基本概念・歴史 2.医の倫理と生命倫理の歴史と諸問題	講義	14階教室	新島
2	10/9	木	3	生と死を数値化する 1.死亡率、死因、平均寿命 2.現代社会の生きづらさ、さまざまな障害と病い	講義	14階教室	新島
3	10/16	木	3	生と死を定義する 1.死の社会的・物理的定義 2.脳死判定・臓器移植の諸問題	講義	14階教室	新島
4	10/23	木	3	これまでのまとめ (1)	講義	14階教室	新島
5	10/30	木	3	生と死を操作する 1.安楽死について、誰がいつ決めるか 2.決定のプロセスとインフォームドコンセント	講義	14階教室	新島
6	11/6	木	3	死を迎える 1. 老い衰えゆくこと、家族の死 2. 終末期医療とホスピス	講義	14階教室	新島
7	11/13	木	3	死を受け入れる 1. 喪失体験と回復 2. 葬儀の意義と多様化	講義	14階教室	新島
8	11/20	木	3	これまでのまとめ (2)	講義	14階教室	新島
9	11/27	木	3	インターネットとメールの倫理 1. インターネットを用いた情報収集とモ	講義	14階	新島

				ラル 2. 電子メールのモラルとマナー 3. トラブル回避のために			教室	
10	12/4	木	3	ネット上の個人情報と倫理 1. 携帯電話やパソコンの個体識別と本人追跡性 2. 情報セキュリティ 3. トラブル回避のために	講義	14階教室	新島	
11	12/11	木	3	ソーシャルメディア利用の倫理 1. ソーシャルメディア利用のリスク 2. ソーシャルメディア利用上のモラルとマナー 3. トラブル回避のため	講義	14階教室	新島	
12	12/18	木	3	歯科衛生士に必要な倫理・道徳 (2) 1. 道徳的正しさとは： 正義論 2. 実験動物をめぐる倫理・道徳的議論	講義	14階教室	新島	
13	1/8	木	3	歯科衛生士に必要な倫理・道徳 (3) 1. 技術と実践のせめぎあい： いのちの操作と優性思想 2. 高度生殖医療の現状をめぐる倫理・道徳的議論	講義	14階教室	新島	
14	1/15	木	3	歯科衛生士に必要な倫理・道徳 (4) 1. 患者理解と患者への配慮 2. 患者の家族や家庭への配慮 終末期医療におけるケア	講義	14階教室	新島	
15	1/22	木	3	これまでのまとめ (3)	講義	14階教室	新島	

科目名	コミュニケーション理論と実際	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※保坂 誠		
ナンバリング	A0104-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院などでの勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

歯科衛生士として人々の健康づくりを支援するためには、人間関係の構築が重要になる。コミュニケーションの基本的理論を学び、コミュニケーション能力を高めることでディプロマポリシーに準拠した人材育成を行う。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○	○	○			

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士として患者のみならず、他の医療職種や介護職種や地域の人たちとの良好な交流ができるようになるために、コミュニケーションの基本姿勢と技法を学修し医療面接の知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) コミュニケーションの意義を説明する。(20%)
- 2) 対人関係における自己理解について説明する。(20%)
- 3) 人の行動とコミュニケーション情報の概念を説明する。(20%)
- 4) 効果的なコミュニケーションを行う要点を説明する。(20%)
- 5) 医療面接の基本的技能を列挙する。(20%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

1) 受動的方法：

講義の内容に基づいた配布資料を用いて行う。

2) 能動的方法：

「PBL」：個人もしくは、小グループに分けて課題に取り組んだ結果に対してディスカッションを行う。

3) 媒体：

配布資料、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

1) 形成的評価：

講義内を行う課題提出物により理解度を確認しフィードバックする。

2) 総括的評価：

定期試験については、シラバスに記載した範囲で行い、講義内容の理解度を記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修（提出後、返却された資料は、各自保管し定期試験対策に用いる）

1) 事前学修

- 第1回： 配布資料 P1～8 を読んでおく。(15分)
- 第2回： 配布資料 P9～12 を読んでおく。(15分)
- 第3回： 配布資料 P13～18 を読んでおく。(15分)
- 第4回： 配布資料 P19～24 を読んでおく。(15分)
- 第5回： 配布資料 P25～28 を読んでおく。(15分)
- 第6回： 配布資料 P29～34 を読んでおく。(15分)
- 第7回： 配布資料 P35～39 を読んでおく。(15分)
- 第8回： 配布資料 P40～47 を読んでおく。(15分)
- 第9回： 配布資料 P48～50 を読んでおく。(15分)
- 第10回： 配布資料 P51～53 を読んでおく。(15分)
- 第11回： 配布資料 P54～61 を読んでおく。(15分)
- 第12回： 配布資料 P62～65 を読んでおく。(15分)
- 第13回： 配布資料 P66～69 を読んでおく。(15分)
- 第14回： 配布資料 P70～75 を読んでおく。(15分)
- 第15回： 配布資料 P76～84 を読んでおく。(15分)

2) 事後学修

第1～15回： 講義で学んだ重要ポイントや気づきなどをリストアップする。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第1～14回： 次回講義開始時にリストアップ資料（A4判 800字以内）を提出する。

第15回： 講義の終わりに、理解度の評価を質問により行う。

7. 教科書

指定なし		
資料を配布する		

8. 参考図書

高江洲儀矩 編	保健医療におけるコミュニケーション・行動科学	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生シリーズ 歯科医療倫理学 第1版	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場 所	担 当 者
1	4/14	月	1	コミュニケーションの語源と意味 人間におけるコミュニケーション 対人関係とコミュニケーション	講義	14 階 教 室	保坂
2	4/21	月	1	コミュニケーションの代表的原理 コミュニケーションの特徴 ジョハリの窓	講義	14 階 教 室	保坂
3	4/28	月	1	習慣行動と学習の関係 言語使用ニーズ コミュニケーションの表出 学習理論 習慣とは	講義	14 階 教 室	保坂
4	5/12	月	1	これからのコミュニケーションの課題 対人援助の考え方 観察法の意義 言語と非言語表現 身体は語る	講義	14 階 教 室	保坂
5	5/19	月	1	援助者の態度 患者の行動特性 自己抑制型行動特性 (イイコ行動特性)	講義 演習	14 階 教 室	保坂
6	5/26	月	1	コミュニケーションにみられる態度 概念フィルターについて 傾聴を妨げるブロッキング リスニング (傾聴) の効果 確認法の意義	講義	14 階 教 室	保坂
7	6/2	月	1	アサーショントレーニング (1) 非主張的自己表現 攻撃的自己表現 アサーティブ自己表現	講義	14 階 教 室	保坂
8	6/9	月	1	アサーショントレーニング (2) 自己カウンセリングとアサーション アサーション度チェック	講義 演習	14 階 教 室	保坂

9	6/16	月	1	患者さんの行動特性 共感について 行動変容支援カウンセリング 期待と感情の理解	講義 演習	14 階 教室	保坂
10	6/23	月	1	臨床現場におけるコミュニケーション コンプライアンス行動 お任せ医療 コンプライアンスとセルフケアの援助と倫理 医療現場におけるコミュニケーション	講義 演習	14 階 教室	保坂
11	6/30	月	1	医療面接で重要な空間位置関係 対人距離 パーソナルスペースの定義 距離ではかる人間関係	講義 演習	14 階 教室	保坂
12	7/7	月	1	医療面接における質問法	講義	14 階 教室	保坂
13	7/14	月	1	医療情報を得るためのコミュニケーション法（質問法の違い） 沈黙の技法 効果的な沈黙を学ぶ	講義 演習	14 階 教室	保坂
14	9/1	月	1	症状と心理的要因 共感的な繰り返し 保健行動における動機と負担 保健信念モデルにおける自己効力感	講義	14 階 教室	保坂
15	9/8	月	1	歯科におけるコミュニケーションの特徴 カウンセリングとコーティング 医療面接技法の例題 多職種との連携 口腔を通じた健康支援	講義	14 階 教室	保坂

科目名	生物学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※橋本貞充、佐藤正樹		
ナンバリング	A0201-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院等での勤務経験を活かし、これから学ぶ専門科目に学修する上で必要な生物学の基礎知識について講義を行っている。		

1. 教科の特徴

本学のディプロマポリシーにある、1. 歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材を育成するために、生命としての生物、そして、ヒトのからだや口腔組織について、基本的な構造や機能を理解することで、これから学んでいく、基礎・臨床科目へと繋いでいくための科目である。

歯科衛生士として、ひとり一人のからだの変化をつかみ、さまざまな病気に対応していくためには、正常な人間の基本的な構造や細胞・組織の機能、成長と加齢にともなう変化、そしてなぜ病気が起きるのかを理解する必要がある。生物学では、多細胞生物として進化してきた人間の組織構造や機能について広く学ぶことを通じて、ひとに興味を持ち、考えるきっかけを提供することを目的としている。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○					○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士としてさまざまな病気に対応していくために必要な人間の組織構造や機能に関する基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 生物とは何か？について概説する。(5%)
- 2) 細胞とは何か？について概説する。(10%)
- 3) 細胞核と核酸、染色体について概説する。(5%)
- 4) 細胞膜と細胞小器官について概説する。(5%)
- 5) 細胞骨格と細胞接着について概説する。(5%)
- 6) 上皮組織と結合組織について概説する。(5%)
- 7) 筋組織と神経組織について概説する。(5%)

- 8) 消化器官と消化液について概説する。(5%)
- 9) 循環器について概説する。(5%)
- 10) 血液・骨髄組織について概説する。(5%)
- 11) 免疫について概説する。(5%)
- 12) 細胞と個体の加齢と死について概説する。(5%)
- 13) 顔面と口腔の組織について概説する。(5%)
- 14) 唾液の機能と、唾液腺の構造と機能について概説する。(10%)
- 15) 口腔粘膜の構造と機能について概説する。(10%)
- 16) 歯と歯周組織の構造と機能について概説する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、プリント、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
 - 各回の講義の開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
 - 定期試験において、講義の内容を、筆記試験・多肢選択式のマークシート試験によって評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
 - 第1回～15回 事前にシラバスに記載されている項目について、教科書の担当箇所を目を通しておく。(10分)
- 2) 事後学修
 - 第1回～15回 教科書および配付資料の各回の講義範囲について、ノートに整理する。(15分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
 - 各回の講義の開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。

7. 教科書

嶋田 正和ら監修	新課程 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録	数研出版
----------	-------------------------	------

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織 発生学・生理学	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・ 口腔組織発生学・口腔生理学	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/9	水	4	1) 生物とは何か。 細胞を構成している物質 からだを構成している物質 からだの組織と器官と成り立ち	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
2	4/16	水	4	2) 細胞の基本構造 ① 細胞とは何か。その構造と機能 染色体と遺伝子 DNA・RNAとセントラルドグマ	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
3	4/23	水	4	3) 細胞の基本構造 ② 細胞膜の構造と機能 細胞小器官の構造と機能	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
4	5/7	水	4	4) 細胞の基本構造 ③ 細胞骨格の構造と機能 細胞間接着装置の構造と機能	講義 演習	14 階 教 室	橋本 (貞)
5	5/14	水	4	5) からだの構造 ① 上皮組織の構造と機能 結合組織の構造と機能	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
6	5/21	水	4	6) からだの構造 ② 骨組織の構造と機能 骨格筋と平滑筋の構造と機能	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
7	5/28	水	4	7) からだの構造 ③ 中枢神経と末梢神経の構造と機能 内分泌組織の構造と機能 ホルモンの機能	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)
8	6/4	水	4	8) からだの構造 ④ 消化管の構造と機能 消化管の分泌液の機能 摂食と嚥下	講義	14 階 教 室	橋本 (貞)

9	6/11	水	4	9) からだの構造 ⑤ 血液循環の仕組み 心臓の構造と機能 動脈と静脈の構造と機能 リンパ循環の仕組み	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
10	6/18	水	4	10) からだの構造 ⑥ 血液の成分 血球の種類と機能 自然免疫と獲得免疫	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
11	6/25	水	4	11) からだの構造 ⑤ 加齢と死 細胞・組織の加齢変化と細胞死 ひとの加齢変化と死	講義 演習	14 階 教室	橋本 (貞)
12	7/2	水	4	12) 顔と口の構造 ① 唾液と唾液腺 唾液の成分と機能 唾液腺の構造と機能	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
13	7/8	火	4	13) 顔と口の構造 ② 口腔粘膜の構造と機能 舌の構造と機能 味覚	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
14	7/9	水	4	14) 顔と口の構造 ③ 顔面と口腔の発生 歯の構造と機能	講義	14 階 教室	橋本 (貞)
15	9/3	水	4	15) 顔と口の構造 ④ 歯周組織の構造と機能 まとめ	講義 演習	14 階 教室	橋本 (貞)

科目名	情報リテラシー	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	江口貴子、EHSAN BESHAL <small>エーサン ビシャール</small>		
ナンバリング	A0202-1A		
実務経験	なし		
実務経験と教育内容 の関連性			

1. 教科の特徴

本教科は、情報機器を用いて、そこから得られた情報の活用能力(倫理の実態や法規制、検索・処理・発信方法)を修得し、情報社会に必要な教養と自己開発能力(知識・技能)を養う科目である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー (○を付してください。)

コンピテンシー (学修成果)							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○					○		

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

情報社会の中で歯科衛生士として適切な情報の検索・処理・発信を行うために必要な情報活用能力(知識・技能)を修得する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 情報技術の有用性および情報倫理の重要性を説明する。(10%)
- 2) SNSを含めた情報発信の責任について説明する。(5%)
- 3) 情報収集の方法を説明する。(5%)
- 4) 情報を収集する。(5%)
- 5) Wordを用いて基本的な文章を作成する。(10%)
- 6) 実データを活用しExcelを用いて表・グラフを作成する。(30%)
- 7) 収集した情報を処理する。(30%)
- 8) 処理した情報をプレゼンテーションする。(5%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方略：講義、示説
- 2) 能動的方略：プレテスト・ポストテスト、演習、実習
- 3) 媒体：スライドやプリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

1) 形成的評価：

- ①講義2回目はプレテスト・ポストテストを行う。
- ②適宜、課題を提示し、提出物の内容を評価、フィードバックする。

2) 総括的評価：

- ①定期試験は講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。
- ②実能試験は指定課題の作成状況を評価する。
(①+②で100%とする。)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1、2回：PCに電源を入れ、正常に起動するか確認する。(10分)
- 第3回：東京歯科大学図書館のホームページを確認する。(10分)
- 第4回：Wordが正常に起動するか、文字が入力できるか確認する。(10分)
- 第5、6回：Excelが正常に使用できるかを確認する。(10分)
- 第7、8回：講義プリント(事前配布、もしくはダウンロード)を読んでおく。(10分)
- 第9回：課題発表に関する準備を行う。(10分)
- 第10回：Excel、PowerPointが正常に起動するかを確認する。(10分)
- 第11回：検索エンジンを用いてインターネット検索ができるか確認する。(5分)
図書館ホームページからリンクしているデータベースを確認する。(10分)
- 第12回：第11回目の講義内容を踏まえ、論文検索に必要な事項を確認する。
- 第13回：Excel、PowerPointが正常に使用できるか確認する。(5分)
これまでに修得したExcel、PowerPointに関する技能を確認する。(10分)
- 第14回：第13回の講義内容を十分に確認する。(15分)
- 第15回：各自発表に関する準備を行う。(10分)

2) 事後学修

- 第1～3回：講義資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(10分)
- 第4回：講義で修得したWord操作に関する技能を確認する。(10分)
- 第5回：講義で修得したExcel操作に関する技能を確認する。(10分)
- 第6回：講義で修得したExcel操作に関する技能を確認する。(10分)
- 第7回：第6回目と同様。(課題が進んでいない場合には、課題を進める。)(10分)
- 第8回：各自で課題発表に関する振り返りを行う。(10分)
- 第9回：講義で修得したExcel操作に関する技能を確認する。(10分)
- 第10回：講義で修得したPowerPoint操作に関する技能を確認する。(10分)
- 第11回：講義資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(10分)

第 12 回：選択した論文を読んでおく。(10 分)

第 13 回：講義で修得した Excel、PowerPoint に関する技術を確認する。(10 分)

第 14 回：第 14 回で作成した課題の振り返りを各自で行う。(10 分)

第 15 回：第 15 回で行った発表に関する振り返りを各自で行う。(5 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第 1、2 回：

事前：各自の PC を起動させ、正常に起動するかを確認する。

事後：次回講義開始前に、第 1、2 回に関する質問を行い、理解度を確認する。

第 3 回：

事前：図書館のホームページに関する質問を行い、理解度を確認する。

事後：次回講義開始前に、第 3 回に関する質問を行い、理解度を確認する。

第 4、5、6 回：

事前：Word, Excel が正常に使用できているか確認する。

事後：次回講義開始前に第 4、5、6 回に関する質問を行い、理解度を確認する。

第 6、7 回：

事前：講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後：次回講義の開始時にポストテストで確認する。

第 9 回：

事前：当日の発表の様子で評価する。

事後：次回講義開始前に、第 9 回に関する質問を行い、理解度を確認する。

第 10 回：

事前：Excel、PowerPoint が正常に使用できているか確認する。

事後：次回講義開始時に、第 10 回に関する質問を行い、理解度を確認する。

第 11 回：

事前：図書館ホームページからリンクしているデータベースに関する質問を行う。

事後：次回講義開始時に、第 11 回に関する質問を行い、理解度を確認する。

第 12 回：

事前：論文検索に関する質問を行い、理解度を確認する。

事後：どのような論文を検索したかを質問する。

第 13,14 回：

事前：Excel、PowerPoint が正常に使用できているか確認する。

事後：課題についての振り返り状況を質問する。

第 15 回：

事前：当日の発表の様子で評価する。

事後：次回講義がないため行わない。

7. 教科書

教科書は用いず、プリントを配布もしくは配信を行う。

学生は、毎講義時に PC を持参する。

8. 参考図書

梶 大輔 著	学生時代に学びたい情報倫理	共立出版
魚田勝臣ほか編著	IT テキスト基礎情報リテラシ	共立出版
大谷卓史編著	情報倫理入門	アイ・ケイコーポレーション
眞木吉信 監著	卒業研究 HAND BOOK	クインテッセンス出版株式会社

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/11	金	3	オリエンテーション(PC接続確認) ・コンピューター利用の基本事項を知る。 ・ハードウェアの構成を説明する。	講義	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN
2	4/18	金	3	情報リテラシー・情報倫理 ・情報リテラシーについて説明する。 ・情報倫理について説明する。 ・医療情報の開示に関する注意点を説明する。 ・SNS を含めた情報発信の責任について説明する。 (SB0s1)、2)	講義	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN
3	5/8	木	3	情報リテラシー・情報倫理 ・情報収集における図書館の役割と、その仕組み 図書館の種類 図書館のサービス 図書館蔵書検索 目的の図書を探し出す ・著作権について概要を説明する。 (SB0s3)、4)	講義 演習	14階教室	阿部 江口 ミユサキ EHSAN
4	5/9	金	1	コンピューターによる情報処理 1 ・ID とパスワード管理、アカウントの概念、ネットワーク・メールについて ・Word での文章ファイル作成、保存する。 (SB0s5)	講義 示説 実習	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN
5	5/16	金	3	コンピューターによる情報処理 2 ・TDC ポータルへの接続 ・Gmail の活用 ・Excel の説明 ・Excel による表の作成と計算 (セル・列・行の説明、計算式の入力方法) (SB0s6)	講義 示説 実習	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN

6	5/22	木	3	コンピューターによる情報処理 3 ・4 回目の課題実施 ・Excel によるフィルター機能の活用 (SB0s6)	講義 示説 実習	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN
7	5/30	金	4	コンピューターによる情報処理 4 ・保健情報について ・質問紙(アンケート)の作成について (SB0s5)、6)	講義 示説 実習	オンライン	江口 ミユサキ EHSAN
8	6/6	金	3	コンピューターによる情報処理 5 ・個人による質問紙作成 ・集計フォーマットの作成 (SB0s5)、6)	講義 実習	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN
9	6/13	金	3	コンピューターによる情報処理 6 ・7 回目に作成した課題の発表 コンピューターによる情報処理 7 ・Excel によるグラフの作成 ・実データの活用 ・Excel による表計算やグラフ作成 (SB0s6)	講義 示説 実習	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN
10	6/20	金	3	コンピューターによる情報処理 8 ・Excel によるグラフの作成 ・PowerPoint でのスライド作成 (SB0s6)、7)	講義 示説 実習	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN
11	6/27	金	1	コンピューターによる情報の収集 1 ・図書館での情報収集や学術文献を検索する。 ・学術文献の検索 研究と図書館 学術情報データベース インターネット情報の特徴 学術情報流通の現状 (SB0s3)、4)	講義 演習	14階教室	阿部 江口 ミユサキ EHSAN
12	6/27	金	3	PowerPoint を用いたプレゼンテーション 1 ・選択した論文を要約する。 ・PowerPoint でのスライド作成 (SB0s7)、8)	講義 示説 実習	14階教室	江口 ミユサキ EHSAN

13	7/4	金	3	<u>コンピューターによる情報処理まとめ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的文章を作成する。 ・収集した情報、データを処理することができる。SB0s1～7) 	講義	14階教室	江口 ミューサン EHSAN
14	7/11	金	3	<u>コンピューターの技能まとめ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・指定課題の提示 	講義 示説 実習	14階教室	江口 ミューサン EHSAN
15	9/5	金	3	<u>PowerPointを用いたプレゼンテーション2</u> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointにて発表を行う。 <u>情報リテラシーまとめ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシーについて説明する。 ・情報倫理について説明する。 ・医療情報の開示に関する注意点を説明する。 ・文章作成、図表作成、プレゼンテーションスライド作成の実際。SB0s7)、8) 	講義 実習	14階教室	江口 ミューサン EHSAN

科目名	経済学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	野口 尚洋		
ナンバリング	A0203-1A		
実務経験	なし		
実務経験と教育内容の関連性			

1. 教科の特徴

経済の仕組みについて理論と現実の両面から説明しく。経済学を学ぶことは、地域社会の中で直面する様々な問題に対して、人として、また、歯科衛生士として、自律性をもって行動するための一助となるものである。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
						○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

将来の生活の中で起こる様々な経済的な課題に対して、その仕組みを理解し、自ら考えて行動するための経済学的な考え方の基礎知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 日常生活に関する経済に対する関心を示す。（40％）
- 日常生活に関する経済の諸問題を説明する。（20％）
- 日常生活に必要な経済の仕組みを説明する。（30％）
- 物価、景気などの基本的事項を理解し、経済ニュースを列挙する。（10％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 受動的方法：講義
- 能動的方法：ポスト・テスト
- 媒体：プリント・classroom

5. 評価（EV：Evaluation）

- 形成的評価：
各回の講義終了時にポスト・テストを行う。
- 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度をグラフの読み取り、計算問題、論述等の記述試験により評価する。（80％）ポスト・テスト（20％）

6. 事前学修・事後学修

- 事前学修

第1回： シラバスを読んでおく。（5分）

第2回以降： 前回のプリントを読み、ポスト・テストの間違えた問題を解きなおす。（15分）

2) 事後学修

第1回以降： 配布資料を再確認し演習問題を解きなおす。（15分）

3) 事前学修・事後学修の評価

第1回以降： ポスト・テストを行う。

7. 教科書

教科者は指定しません。

8. 参考図書

参考書は適宜、指示します。

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/10	木	4	オリエンテーション ・授業内容と進め方について 経済学独特の考え方 (1) ・インセンティブ	講義	14階教室	野口
2	4/17	木	4	経済学独特の考え方 (2) 経済学独特の考え方を理解する。 1 機会費用 2 トレード・オフ 3 比較優位・交換の利益	講義	14階教室	野口
3	4/24	木	4	経済学独特の考え方 (3) 「限界」の考え方を理解する。 1 限界費用 2 企業の生産量の求め方	講義	14階教室	野口
4	5/8	木	4	企業の利潤最大化 企業の利潤最大化について理解する。 1 利潤最大化の条件 2 損益分岐点と操業停止点	講義	14階教室	野口
5	5/15	木	4	需要と供給 需要と供給の関係と余剰を理解する。 1 均衡と余剰 2 課税と価格弾力性	講義	14階教室	野口
6	5/22	木	4	情報の経済学 情報の非対称性について理解する。 1 保険について 2 モラル・ハザードと逆選択	講義	14階教室	野口
7	5/29	木	4	ゲーム理論 ゲーム理論について理解する。 1 ナッシュ均衡 2 色々なゲーム	講義	14階教室	野口
8	6/5	木	4	日本経済 日本経済の現状を理解する。 1 GDP と戦後日本経済 2 産業連関表と経済効果	講義	14階教室	野口
9	6/12	木	4	財市場 財市場と財政政策の効果を理解する。 1 GDP の決まり方 2 乗数効果と財源	講義	14階教室	野口

10	6/19	木	4	金融政策 (1) 金融市場の仕組みを理解する。 1 貨幣とは? 2 銀行の役割 3 金利について	講義	14階教室	野口
11	6/26	木	4	金融市場 (2) 金融政策について理解する 1 日本銀行について 2 金融政策	講義	14階教室	野口
12	7/3	木	4	金融市場 (3) 資産について理解する。 1 割引の考え方 2 債券と株式	講義	14階教室	野口
13	7/10	木	4	労働市場 労働市場について理解する。 1 雇用量の決定 2 歯科衛生士の労働市場	講義	14階教室	野口
14	7/17	木	4	国の財政 国の財政状態について理解する。 1 現在の財政状況 2 社会保障制度について 3 消費税の使い道	講義	14階教室	野口
15	9/4	木	4	為替 日本と海外の経済的な関係を理解する。 1 円高と円安と GDP の関係 2 為替レートの決定	講義	14階教室	野口

科目名	国際保健学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※小川祐司、※遠藤弘良、※安達奈穂子、※小野智子		
ナンバリング	A0204-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師、医師、歯科衛生士、国連職員として国際保健実務経験のある教員が、勤務経験を活かし、最前線の国際保健に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域（国際）社会の様々な場に対応できる人材を養成する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○	○	○	○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域（国際）社会の様々な場に対応するために必要な基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 先進国や途上国の人々の健康に関する現状や問題を列挙する。(10%)
- 2) 世界の人々の歯科も含めた健康の現状を説明する。(30%)
- 3) 健康問題改善のための課題と取り組みを説明する。(30%)
- 4) 国際協力の仕組みと活動を説明する。(30%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ディスカッション、レポート、ポストテスト
- 3) 媒体：
スライドおよびプリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義終了時にレポート提出またはポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回、必要に応じて適宜指示する。
- 2) 事後学修
毎回、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。
- 3) 事前学修・事後学修の評価
原則として、講義終了時にポストテストまたはレポート提出を行う。

7. 教科書

指定なし		
------	--	--

8. 参考図書

田村やよひ 編	国際看護学	メヂカルフレンド社
日本国際保健医療学会 編	国際保健医療学 第3版	杏林書院
泉福英信 編	デンタルスタッフの口腔衛生学・歯科衛生統計	医歯薬出版
安井利一ほか 編	口腔保健・予防歯科学	医歯薬出版
安井利一ほか 編	新編衛生学・公衆衛生学	医歯薬出版
一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	6/6	金	4	オリエンテーション 講義概要について 国際保健の定義とその役割	講義 ポスト テ スト	14 階 教 室	小川
2	6/13	金	4	世界が抱える健康問題とその対応① こどもの健康 女性と健康	講義 ポスト テ スト	14 階 教 室	遠藤
3	6/20	金	4	世界が抱える健康問題とその対応② 非感染性疾患と口腔疾患 コモンリスクファクター	講義 ポスト テ スト	14 階 教 室	小川
4	7/1	火	4	世界が抱える健康問題とその対応③ 感染性疾患 (COVID-19含めて)	講義 ポスト テ スト	14 階 教 室	小川
5	7/4	金	4	世界が抱える健康問題に対処するための 主な国際機関やパートナー UN WHO UNICEF UNEP FDI IADR	講義 ポスト テ スト	14 階 教 室	小川
6	7/11	金	4	日本の国際協力の仕組みと保健活動 政府開発援助、二国間協力、多国間協 力 JICAの貢献	講義 ポスト テ スト	14 階 教 室	小野
7	7/16	水	4	国際歯科保健の展望と歯科衛生士への期待 2030年に向けての歯科保健の潮流のなか で、国際的に活躍するために解決すべき課 題と目標の設定	講義 ポスト テ スト	14 階 教 室	小川
8	9/5	金	4	国際社会で活躍できる歯科衛生士を目指して 国際歯科保健における歯科衛生士の役 割	講義 ポスト テ スト	14 階 教 室	安達

科目名	統計学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	高際 睦		
ナンバリング	A0205-1B		
実務経験	なし		
実務経験と教育内容 の関連性			

1. 教科の特徴

あらゆる分野において、データを活用することは必要不可欠な技能の一つである。もちろん、歯科衛生士にとっても、様々な場面において、データを活用しなくてはならない状況が起こりうるであろう。この統計学の授業においては、データを扱うために必要な最低限の知識、例えば、データの抽出、データの要約、データからの推論などの基本を学修する。この教科を通して、教養と自己開発能力を有する自立性が身につくであろう（ディプロマポリシー 3, 4）。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
② 人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
					○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科医療の現場や歯科医学の研究において、その知識を応用できる能力を身につけるために、統計学の基礎知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 度数分布表、ヒストグラムを使って、データ処理を行う。(10%)
- 2) 中心、広がりを表す代表値について説明し、それらに関する計算を行う。(30%)
- 3) 確率や確率分布の概念を説明し、それらに関する計算が行う。(20%)
- 4) 二項分布、正規分布を説明する。(10%)
- 5) 区間推定、仮説検定の概念を説明し、その結果を解釈する。(30%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方略：講義
- 2) 能動的方略：ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：プリント、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：各回の講義終了時にポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：定期試験については、講義内容の理解度を記述試験で評価する。(80%)
また、ポストテストなどの提出状況も評価する。(20%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回： 「統計学」について調べる。(15分)
- 第2回： 「度数分布表」について調べる。(15分)
- 第3回： 「ヒストグラム」について調べる。(15分)
- 第4回： 「代表値」について調べる。(15分)
- 第5回： 「散らばりの代表値」について調べる。(15分)
- 第6回： 「相関関係」について調べる。(15分)
- 第7回： 「回帰直線」について調べる。(15分)
- 第8回： 「確率」について調べる。(15分)
- 第9回： 「二項分布」について調べる。(15分)
- 第10回： 「正規分布」について調べる。(15分)
- 第11回： 「中心極限定理」について調べる。(15分)
- 第12回： 「標本抽出」について調べる。(15分)
- 第13回： 「信頼区間について調べる。(15分)
- 第14回： 「検定」について調べる。(15分)
- 第15回： 「検定の過誤」について調べる。(15分)

2) 事後学修

- 第1回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第2回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第3回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第4回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第5回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第6回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第7回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第8回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第9回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第10回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第11回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)
- 第12回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)

第13回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)

第14回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)

第15回： 当日配付資料を読み返し、自分用のノートにまとめる。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学習、事後学修は毎回のポストテストで確認する。

7. 教科書

指定しない

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み 3 保健情報統計学	医歯薬出版
--------------------	--	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/3	金	2	ガイダンス	講義	14 階 教 室	高際
2	10/10	金	2	度数分布表 ・統計学の基本用語を説明できる。 ・度数分布表を説明し、作成することができる。	講義	14 階 教 室	高際
3	10/17	金	2	ヒストグラム ・ヒストグラムを説明し、作成することができる。 ・データの分布の特徴を説明できる。	講義	14 階 教 室	高際
4	10/24	金	2	中心を表す代表値 ・中心を表す代表値を説明し、計算することができる。 ・中心を表す代表値の使い分けができる。	講義	14 階 教 室	高際
5	10/31	金	2	広がりを表す代表値(散布度) ・広がりを表す代表値を説明し、計算することができる。 ・散布度の使い分けができる。	講義	14 階 教 室	高際
6	11/7	金	2	相関係数 ・散布図を説明し、作成できる。 ・相関係数を説明し、計算することができる。	講義	14 階 教 室	高際
7	11/14	金	2	線形回帰 ・回帰直線を説明し、計算することができる。	講義	14 階 教 室	高際
8	11/21	金	2	確率論 ・確率論の基礎的な概念を説明できる。	講義	14 階 教 室	高際

9	11/28	金	2	二項分布 ・ 離散型確率分布を説明できる。 ・ 二項分布を説明できる。	講義	14 階 教室	高際
10	12/5	金	2	正規分布（その1） ・ 連続型確率分布を説明できる。 ・ 正規分布を説明できる。	講義	14 階 教室	高際
11	12/12	金	2	正規分布（その2） ・ 正規分布の確率計算ができる。 ・ 中心極限定理が説明できる。	講義	14 階 教室	高際
12	12/19	金	2	標本抽出と点推定 ・ 母集団と標本を説明できる。 ・ 標本抽出について説明できる。 ・ 点推定について説明できる。	講義	14 階 教室	高際
13	1/9	金	2	区間推定 ・ 区間推定について説明できる。 ・ 母平均の信頼区間を計算できる。	講義	14 階 教室	高際
14	1/16	金	2	仮説検定（その1） ・ 仮説検定の概念を説明できる。 ・ 帰無仮説、対立仮説を説明できる。 ・ 片側検定、両側検定を説明できる。	講義	14 階 教室	高際
15	1/23	金	2	仮説検定（その2） ・ 検定結果を適切に解釈できる。 ・ 検定における過誤を説明できる。	講義	14 階 教室	高際

科目名	食育論	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※鈴木亜夕帆		
ナンバリング	A0206-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	管理栄養士として実務経験のある教員が、勤務経験（病院：栄養指導、給食委託会社：衛生管理・研修等）を活かし講義を行っている。		

1. 教科の特徴

食育は、子どもだけでなく、大人にも重要な活動である。歯科衛生士が、専門性を生かしながら他(多)職種と協働して行う楽しい食育を考え、食育で使用できる教材作成を目標に授業を行う。そのために「食育とは何か」から始まり、食事についての基礎、食育の実践方法に加えて、実際に「食育」を体験しながら学ぶ。他(多)職種と連携した食育を理解し実践できることを目的に、食育、食の現状、健康との関わり、食の背景・文化、日本人の食べ物（食品成分表）及び食べる基準（食事摂取基準）について基礎的な内容を理解し、専門性を生かした食育を考え、伝える能力を育むための教科である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
		○	○	○	○		

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士の専門性を生かし多職種連携で食育を実践するために必要な食に関わる基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 食育とは何かを説明する。(20%)
- 2) 食習慣の現状、食と健康の関わり、食の背景を説明する。(20%)
- 3) 日本人の食べ物（食品成分表）及び食べる基準（食事摂取基準）を説明する。(20%)
- 4) 自分自身に必要な食育を考察する。(20%)
- 5) 専門性を生かし他(多)職種と連携した食育を考察する。(20%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：個人研究、グループ討議、発表
- 3) 媒体：スライド、プリント、テキスト

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：授業態度及び各回の「学びの振り返り」記入状況。授業態度は、授業に向かう意欲、討議への参加の様子等について評価を行う。毎講義終了時に自己の学びの振り返りを行い、次回授業時にフィードバック等を行う。
- 2) 総括的評価：定期試験及び最終課題（100%）
 - ・定期試験は、講義内容の理解度を空欄補充、論述等で評価する。
 - ・最終課題は、授業内容を踏まえた取り組みについて評価する。

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
シラバスから各回のテーマを確認し、授業前の自分の考え、知識等を整理しておく。（第1回授業時に手順を説明します）
- 2) 事後学修
各回の授業で事前学修と授業内容を踏まえた自分の学びについて、振り返りシートに整理する。15回終了時に自身の学びを振り返る。
- 3) 事前学修・事後学修の評価
各回の学びの振り返りの記述内容で評価する。

7. 教科書

香川明夫 監修	八訂 食品成分表 2025	女子栄養大学出版部
---------	---------------	-----------

8. 参考図書

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修	食べ物と健康 食事設計と栄養・調理	南江堂
伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修	日本人の食事摂取基準 2025年版	第一出版
文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会	日本食品標準成分表（八訂）増補 2025年（仮）	オンラインのみ
渡邊智子、鈴木亜夕帆	ちば型食生活実践ガイドブック	千葉県
渡邊智子、鈴木亜夕帆	ちば型食生活実践ガイドブック資料編	千葉県
渡邊智子、鈴木亜夕帆	ちば型食生活実践ガイドブック概要版	千葉県

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。
ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	10/3	金	4	ガイダンス ●食育とは何か ●この授業の目標 □自分の食習慣を分析する	講義	14階教室	鈴木
2	10/10	金	4	食習慣の現状 ●日本の現状 ●自分の現状 □箸、割りばしの扱い	講義	14階教室	鈴木
3	10/17	金	4	食育と健康 ●健康日本21 ●SDGs □茶碗、椀の扱い	講義	14階教室	鈴木
4	10/24	金	4	食の文化的背景 ●世界、日本、地域の食文化 □食事のマナーを考えよう①	講義	14階教室	鈴木
5	10/31	金	4	和食と食育 ●「和食」の特徴 ●和食の理解と食育への応用 □日本・地域の食事	講義	14階教室	鈴木
6	11/7	金	4	現在とこれからの食と健康 I ●「日本人の食事摂取基準」と食育 □食事のマナーを考えよう②	講義	14階教室	鈴木
7	11/14	金	4	現在とこれからの食と健康 II ●「日本食品標準成分表」と食育 □食品成分表の観察	講義	14階教室	鈴木
8	11/21	金	4	他(多)職種が連携する食育 ●食育で行う自己紹介(★) ●「食」を通して考えたいこと □食育教材の観察	講義	14階教室	鈴木

9	11/28	金	4	他(多)職種が連携する食育を考える ●連携するとは何か ●食育教材作成のポイント □食品表示の観察	講義	14階教室	鈴木
10	12/5	金	4	健康に過ごすための食育の実際 I ●食事バランスガイド ●グー・パー食生活 □食育教材の体験(1)	講義	14階教室	鈴木
11	12/12	金	4	健康に過ごすための食育の実際 II ●ダイエットデザインハウス ●その他の食事アドバイスの方法 □食育教材の体験(2)	講義	14階教室	鈴木
12	12/19	金	4	他(多)職種が協働する食育 I ●自分への食育を考える(★) □教材のテーマを考え、具体的な教材をイメージする	講義	14階教室	鈴木
13	1/9	金	4	他(多)職種が協働する食育 II ●食育教材の視点の整理 □教材を作成する	講義	14階教室	鈴木
14	1/16	金	4	他(多)職種が協働する食育 III ●発表ガイダンス □食育の実践	講義	14階教室	鈴木
15	1/23	金	4	食育教材の発表、まとめ □食育教材発表(★) ●まとめ	講義	14階教室	鈴木

科目名	英語Ⅰ（基礎英語）	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	森田 雅義		
ナンバリング	A0301-1C		
実務経験	なし		
実務経験と教育内容 の関連性			

1. 教科の特徴

英語の4技能の向上を図る総合英語の学習を通じて、日本や多様な外国の言語・文化を尊重する心を養い、教養を深めるとともに、医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を身につける。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○			○	○			

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

英語でのコミュニケーション能力の向上を図るために、中学校・高等学校で学習した英語を基礎として、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの英語の4技能を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 様々な英語の文章を聞いたり、読んだりして、その内容を正しく説明する。(40%)
- 2) 英語を書いたり、話したりすることを通じて、自分の考え等を伝える。(40%)
- 3) 日本や外国の言語や文化に興味をもち、大切にする姿勢を示す。(5%)
- 4) プリント等を使った活動において、積極性を示す。(15%)
- 5) ペアやグループ活動において、積極性を示す。(5%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション、ペアワーク、グループワーク
- 3) 媒体：教科書、プリント、スライド、ビデオ

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 定期試験及び中間試験等（総括的評価）80～90%
講義内容の空欄補充、多肢選択、記述式問題等で評価する。
中間テスト（前後期1回実施）5～10%、定期試験75～80%
- 2) 平常点評価（総括的評価）5～10%
課題提出状況、実技テスト、授業出席状況

6. 事前学修・事後学修

事前学修：瞬間英作文の教科書の、当日実施する部分を確認しておくこと。
事後学修：授業で使用したプリント等を確実に仕上げる。

7. 教科書

山崎祐一著 瞬時に話せる英会話フレーズ大特訓 Jリサーチ出版
自主作成教材（プリント）

8. 参考図書

必要に応じて授業にて紹介

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/11	金	2	Introduction	講義 演習	14階 教室	森田
2	4/18	金	2	英語レベルチェックテスト	講義 演習	14階 教室	森田
3	4/25	金	2	瞬間英作文についての説明 発音記号演習	講義 演習	14階 教室	森田
4	5/9	金	2	瞬間英作文 演習 (1)	講義 演習	14階 教室	森田
5	5/16	金	2	瞬間英作文 演習 (2)	講義 演習	14階 教室	森田
6	5/23	金	2	瞬間英作文 演習 (3)	講義 演習	14階 教室	森田
7	5/30	金	2	瞬間英作文 演習 (4)	講義 演習	14階 教室	森田
8	6/6	金	2	瞬間英作文 演習 (5)	講義 演習	14階 教室	森田

9	6/13	金	2	瞬間英作文 前期中間テスト	講義 演習	14階 教室	森田
10	6/20	金	2	リスニング練習法	講義 演習	14階 教室	森田
11	6/27	金	2	課題作成演習 「自己紹介文を作ろう (1)」	講義 演習	14階 教室	森田
12	7/4	金	2	課題作成演習 「自己紹介文を作ろう (2)」	講義 演習	14階 教室	森田
13	7/11	金	2	課題グループ内発表	演習 演習	14階 教室	森田
14	7/18	金	2	和訳課題	演習 演習	14階 教室	森田
15	9/5	金	2	前期のまとめ 定期試験について	講義 演習	14階 教室	森田
16	10/1	水	2	日本の昔話の英訳に挑戦!	講義 演習	14階 教室	森田
17	10/8	水	2	瞬間英作文 演習 (7)	講義 演習	14階 教室	森田

18	10/15	水	2	瞬間英作文 演習（8）	講義 演習	14 階 教室	森田
19	10/22	水	2	瞬間英作文 演習（9）	講義 演習	14 階 教室	森田
20	10/29	水	2	瞬間英作文 演習（10）	講義 演習	14 階 教室	森田
21	11/5	水	2	瞬間英作文 演習（11）	講義 演習	14 階 教室	森田
22	11/12	水	2	瞬間英作文 後期中間テスト	講義 演習	14 階 教室	森田
23	11/19	水	2	Special Program	講義 演習	14 階 教室	森田
24	11/26	水	2	Special Program	講義 演習	14 階 教室	森田
25	12/3	水	2	課題作成演習 「私の故郷紹介（1）」	講義 演習	14 階 教室	森田
26	12/10	水	2	課題作成演習 「私の故郷紹介（2）」	講義 演習	14 階 教室	森田

27	12/17	水	2	「私の故郷紹介」課題グループ内発表	講義 演習	14 階 教室	森田
28	12/24	水	2	和訳課題	講義 演習	14 階 教室	森田
29	1/14	水	2	日本語になった外来語 リスニング：私の職業は？	講義 演習	14 階 教室	森田
30	1/21	水	2	後期のまとめ 定期試験について	講義 演習	14 階 教室	森田

科目名	中国語	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	盧 暁敏		
ナンバリング	A0303-1A		
実務経験	無し		
実務経験と教育内容 の関連性			

1. 教科の特徴

短期間で、中国語の正確な発音ができ、簡単な日常会話ができるようになることを目指し、中国語学習の基本を身につける。教養ある歯科衛生士としてグローバルに活躍できる人材を目指す。また、中国語の発音の基本となるピンインと4つの声調および初歩的な文法をしっかり身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○	○	○	○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

中国語による簡単な会話をするために必要な初歩的な知識と技能を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1) 子音、母音、4つの声調を説明する。 | } (10%) |
| 2) 子音、母音、4つの声調の正確な発音を模倣する。 | |
| 3) 複雑なピンインのつづり方を模倣する。(10%) | |
| 4) ピンインを用いて辞書を活用する。(10%) | |
| 5) 基本的な文法を説明する。 | } (70%) |
| 6) 基本的な文法を用いて簡単な会話を実践する。 | |

4. 方略（LS：Learning Strategy）

1) 受動的方法:

正確な発音ができるように、授業中に繰り返し発音練習をし、ピンインのつづりを反復練習する。

2) 能動的方法:

簡単なセンテンスが書けるようにし、言えるようにする。

3) 媒体:

教材に付いているCDを聞いて、正しい発音に慣れる。

5. 評価（EV：Evaluation）

1) 形成的評価

各回の講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。

2) 総括的評価

定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(90%)

なお、小テストは、シラバスに記載した範囲で行い、評価する。(10%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1～15回:各回に関連した教科書の内容を読んでおく。(10分)

2) 事後学修

第1～15回:各回のポストテストをもとに授業内容を復習する。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

各回のプレテスト、ポストテストで確認する。

毎回新しいレッスンを始める前に、小テストを行い、学習した内容を身につけたかどうかをチェックする。

7. 教科書

大石智良・凌志偉ほか	『ポイント学習 中国語初級』	東方書店
------------	----------------	------

8. 参考図書

必要に応じて紹介する		
------------	--	--

9. オフィスアワー

講義実施日の講義前後、それぞれ30分程度

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/9	水	3	第1課 発音 単母音、4つの声調	講義	14階教室	盧
2	4/16	水	3	第2課 発音(2) 子音(前半)	講義	14階教室	盧
3	4/23	水	3	第2課 発音(2) 子音(後半)	講義	14階教室	盧
4	5/7	水	3	第3課 発音(3) 複合母音	講義	14階教室	盧
5	5/14	水	3	第3課 発音(3) ピンインのつづり方	講義	14階教室	盧
6	5/21	水	3	第4課 発音(4) 二音節の20パターン	講義	14階教室	盧
7	5/28	水	3	第5課 自己紹介 人称代名詞、名字の尋ね方、答え方	講義	14階教室	盧
8	6/4	水	3	小テスト。 発音の総復習をする	講義	14階教室	盧

9	6/11	水	3	第6課 何を勉強していますか 中国語の4文型1動詞述語文	講義	14階教室	盧
10	6/18	水	3	第7課 北京大学はとても大きい 中国語の4文型2形容詞述語文	講義	14階教室	盧
11	6/25	水	3	第8課 わたしは18歳 中国語の4文型3名詞述語文	講義	14階教室	盧
12	7/2	水	3	第9課 どこが具合が悪いですか? 中国語の4文型4主述述語文	講義	14階教室	盧
13	7/9	水	3	第10課 一年生は皆外国語を勉強する 連体修飾語と構造助詞「的」	講義	14階教室	盧
14	7/16	水	3	今まで習ったものをすべて練習、復習する	講義	14階教室	盧
15	9/3	水	3	総復習する。	講義	14階教室	盧

科目名	韓国語	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	富所 明秀		
ナンバリング	A0304-1B		
実務経験	なし		
実務経験と 教育内容の関連性			

1. 教科の特徴

韓国語も他の言語同様、習得には暗記が必須であるが、個々の事項との関連を意識することで知識はより定着する。このことは韓国語の習得のみならず、他の教科においても必要とされるスキルであるため、各事項の関連付けや知識の整理をおこないながら学習することが望ましい。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
			○		○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

韓国語でコミュニケーションを図ることができるようになるために、韓国語の基本的知識と技能を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- | | | |
|------------------------|---|-------|
| 1) 韓国語の文字を読み書きする。(20%) | } | (20%) |
| 2) 韓国語の発音の変化について説明する。 | | |
| 3) 韓国語の正確な発音を模倣する。 | | |
| 4) 韓国語で氏名を筆記する。(10%) | } | (50%) |
| 5) 韓国語の基本的な文法を説明する。 | | |
| 6) 韓国語で簡単な文章を作成する。 | | |

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：講義中に学生を指名し、発音の確認をおこなう。
- 3) 媒体：教科書

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：各回の講義開始時に前回学んだ部分について的小テストを行い、フィードバックする。
- 2) 総括的評価：定期試験については空欄補充、和訳、韓国語訳などの記述試験をもって50%で評価する。なお、中間試験については30%で評価する。平常点（小テスト）を20%で評価する。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書第1課、第2課の前半を読んでおく。(15分)
- 第2回：教科書第2課の後半を読んでおく。(15分)
- 第3回：教科書第3課を読んでおく。(15分)
- 第4回：教科書第4課の前半を読んでおく。(15分)
- 第5回：教科書第4課の後半を読んでおく。(15分)
- 第6回：教科書第5課を読んでおく。(15分)
- 第7回：教科書第6課を読んでおく。(15分)
- 第8回：教科書第7課を読んでおく。(15分)
- 第9回：教科書の中間試験の範囲を音読し、書けるようにしておく。(60分)
- 第10回：教科書第8課を読んでおく。(15分)
- 第11回：教科書第9課を読んでおく。(15分)
- 第12回：教科書第10課の前半を読んでおく。(15分)
- 第13回：教科書第10課の後半を読んでおく。(15分)(15分)
- 第14回：教科書第1課～第5課を復習しておく。(15分)
- 第15回：教科書第6課～第10課を復習しておく。(15分)

2) 事後学修

- 第1回～14回：その日に学んだ部分をノートに書いて音読し小テストに備える。(20分)
但し第8回は第9回に実施される中間試験に備える。(60分)
- 第15回：学んだ部分をノートに書いて音読し定期試験に備える。(60分)

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第1～14回：次回講義の開始時に小テストを行う。
但し第9回は中間試験を行う。
- 第15回：講義当日の終了時に小テストを行う。

7. 教科書

内山 政春	しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版	白水社
-------	-----------------	-----

8. 参考図書

油谷 幸利ほか	韓日辞典	小学館
---------	------	-----

9. オフィスアワー

講義実施日の開始時刻 30 分前から終了まで。

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/2	木	2	第1課 基本母音字 第2課 子音字・その1 (前半)	講義	14 階 教 室	富所
2	10/9	木	2	第2課 子音字・その1 (後半)	講義	14 階 教 室	富所
3	10/16	木	2	第3課 子音字・その2	講義	14 階 教 室	富所
4	10/23	木	2	第4課 子音字・その3 (前半)	講義	14 階 教 室	富所
5	10/30	木	2	第4課 子音字・その3 (後半)	講義	14 階 教 室	富所
6	11/6	木	2	第5課 用言の「ですます形」	講義	14 階 教 室	富所
7	11/13	木	2	第6課 7つの終声	講義	14 階 教 室	富所
8	11/20	木	2	第7課 激音	講義	14 階 教 室	富所

9	11/27	木	2	中間試験（予定）	講義	14 階 教室	富所
10	12/4	木	2	第8課 合成母音字	講義	14 階 教室	富所
11	12/11	木	2	第9課 濃音	講義	14 階 教室	富所
12	12/18	木	2	第10課 連音・指定詞（前半）	講義	14 階 教室	富所
13	1/8	木	2	第10課 連音・指定詞（後半）	講義	14 階 教室	富所
14	1/15	木	2	第1課～第5課の復習	講義	14 階 教室	富所
15	1/22	木	2	第6課～第10課の復習	講義	14 階 教室	富所

科目名	解剖・口腔解剖学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※阿部伸一、※松永 智、※廣内英智、※石束 叡		
ナンバリング	B0401-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

歯科衛生士が対象とする顎・顔面・口腔および歯の形態と組織構造を学ぶことにより、歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導などの臨床において理論的な裏付けに基づき理解することを目的とする。(本授業はオムニバス方式により行い、主に石束 叡が担当するが、頭蓋を構成する骨および、頭蓋骨の各部の名称(上顎骨)については実務経験に基づき松永智が担当する。)

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー(〇を付してください。)

コンピテンシー(学修成果)							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○					

2. 一般目標(GIO: General Instructional Objective)

歯科衛生士の役割を的確に果たすために、顎・顔面・口腔・歯の形態および構造を理解することを目的とし、①顎・顔面の骨・筋・神経・脈管・口腔内臓および摂食嚥下の解剖 ②歯の形態 ③歯・歯周組織の構造について理解する。

3. 行動目標(SBOs: Specific Behavioral Objectives)

- 1) 頭蓋を構成する骨について説明する。(10%)
- 2) 顎顔面を構成する骨の各部の名称について説明する。(10%)
- 3) 顎・顔面の筋(顔面筋・咀嚼筋・舌骨上筋)について説明する。(10%)
- 4) 顎・顔面に分布する脈管について説明する。(10%)
- 5) 顎・顔面に分布する神経について説明する。(10%)
- 6) これまで学んだ頭部の構造について統合的に説明する。
- 7) 口腔内臓について説明する。(10%)
- 8) 歯の基本的名称について説明する。(10%)
- 9) 永久歯の形態について説明する。(10%)
- 10) 乳歯の形態について説明する。(10%)

- 11) 口腔・咽頭の構造、摂食・嚥下のメカニズムについて説明する。(10%)
- 12) これまで学んだ解剖学的構造についてご遺体を用いて統合的に説明する。

4. 方略(LS: Learning Strategy)

- 1) 受動的方法:
講義
- 2) 能動的方法:
ディスカッション
- 3) 媒体:
教科書、スライド

5. 評価(EV: Evaluation)

- 1) 形成的評価:
ポストテスト
- 2) 総括的評価:
中間試験(50%)、期末試験(50%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
予習としてテキストを熟読のこと。(10~15分)
- 2) 事後学修
復習にはノートおよび、テキストの見直しを推奨。(20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
次回講義の開始時に、ディスカッションを行う。

7. 教科書

①一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	①歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 第1版	①医歯薬出版株式会社
②井出吉信 監修	②口腔顎顔面解剖ノート 第2版	②株式会社学建書院
③阿部伸一 著	③全身骨学 学習サイドノート	③わかば出版

8. 参考図書

なし		
----	--	--

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/14	月	4	歯の総論 歯の基本的名称 歯の交換	講義	14 階 教 室	石束
2	4/21	月	4	骨(1) 頭蓋を構成する骨	講義	14 階 教 室	阿部 廣内
3	4/28	月	4	骨(2) 頭蓋骨の各部の名称(上顎骨)	講義	14 階 教 室	松永
4	5/12	月	4	骨(3) 頭蓋骨の各部の名称(副鼻腔・下顎骨)	講義	14 階 教 室	石束
5	5/19	月	4	筋 顎顔面の筋(咀嚼筋)	講義	14 階 教 室	石束
6	5/26	月	4	筋 顎顔面の筋(舌骨上筋・顔面筋)	講義	14 階 教 室	石束
7	6/2	月	4	脈管 顎顔面に分布する脈管	講義	14 階 教 室	石束
8	6/9	月	4	神経 顎顔面に分布する神経 (脳神経12対と通る孔の名称)	講義	14 階 教 室	石束

9	6/16	月	4	中間試験	講義	14 階 教室	石束
10	6/23	月	4	口腔内臓 口腔前庭・固有口腔 唾液腺・舌	講義	14 階 教室	石束
11	6/30	月	4	永久歯の形態 前歯・臼歯の形態	講義	14 階 教室	石束
12	7/7	月	4	乳歯の形態 乳歯総論	講義	14 階 教室	石束
13	7/14	火	4	乳歯の形態 乳前歯・乳臼歯の形態	講義	14 階 教室	石束
14	9/1	月	4	総復習 口腔内臓、永久歯・乳歯の形態および 血管・神経の走行に関する総復習	講義	14 階 教室	石束
15	9/8	月	4	摂食・嚥下の解剖 口腔・咽頭の構造 摂食・嚥下のメカニズム	講義	14 階 教室	石束

科目名	組織学・口腔組織学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※山本 仁		
ナンバリング	B0402-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が診療所等での勤務経験を活かし、臨床に有用な基礎科目としての講義を実施する		

1. 教科の特徴

組織学・口腔組織学は、人体の構造と機能の単位である細胞、細胞と細胞間物質からなる諸組織、さらにそれらが組み合わさった人体諸器官について、肉眼では見極めることの出来ない微細な形態と構造を顕微鏡（光学顕微鏡、電子顕微鏡）を用いて明らかにする学問で、特に正常構造を対象とする。本教科は他の基礎科目だけではなく臨床科目とも関連し、歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図り、かつ高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握、対応するために必要な基礎的な知識の根幹となるものである。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○					○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

人体の構造と機能、特に口腔領域の構造と機能を理解するために、4大組織および歯と歯周組織を含む口腔顎顔面領域の構造と発生に関する基本的な知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 4大組織を列挙する。(2%)
- 2) 上皮組織を分類し、それぞれの特徴と分布について説明する。(10%)
- 3) 支持組織を分類し、それぞれの特徴や構成する細胞などを説明する。(10%)
- 4) 筋組織を分類し、それぞれの特徴と神経細胞の構造を説明する。(5%)
- 5) 歯を構成する組織を列挙し、それぞれの特徴を説明する。(35%)
- 6) 唾液腺を分類し、それぞれの特徴を説明する。(6%)
- 7) 口腔粘膜を機能的に分類し、それぞれの特徴を説明する。(5%)
- 8) 顔面と口蓋の発生について説明する。(15%)
- 9) 歯と歯周組織の発生過程を説明する。(12%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的の方法：
 - 講義
- 2) 能動的の方法：
 - ブレ・ポストテスト（事前・事後学修の確認を含む）
 - ディスカッション
- 3) 媒体：
 - 教科書、参考図書、プリント、スライドなど

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
 - 各回の授業時にブレ・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
 - ①定期試験（90～100%）
 - 定期試験では講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述などの記述試験で評価する。
 - ②平常点評価（0～10%）
 - 日常的な授業中の態度、質問事項に対する回答状況や授業の出席状況などを評価する。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
22～25 ページを読んでおくこと（10分）
- 第2回：教科書「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
25、28、116～118 ページを読んでおくこと（10分）
- 第3回：教科書「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
25～27 ページを読んでおくこと（10分）
- 第4回：教科書「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
28～31 ページ と教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」 218～225 ページを読んでおくこと（15分）
- 第5回：教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」
225～239 ページを読んでおくこと（15分）
- 第6回：教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」
240～249 ページを読んでおくこと（15分）
- 第7回：教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」
136、250～251 ページを読んでおくこと（10分）
- 第8回：教科書「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学、口腔生理学」

2～6、208～217 ページを読んでおくこと (15分)

2) 事後学修

- 第1回：講義内容(教科書、ノート、プリントなど)を見直し、重要なポイントを整理する (15分)
- 第2回：講義内容(教科書、ノート、プリントなど)を見直し、重要なポイントを整理する (15分)
- 第3回：講義内容(教科書、ノート、プリントなど)を見直し、重要なポイントを整理する (15分)
- 第4回：講義内容(教科書、ノート、プリントなど)を見直し、重要なポイントを整理する (15分)
- 第5回：講義内容(教科書、ノート、プリントなど)を見直し、重要なポイントを整理する (15分)
- 第6回：講義内容(教科書、ノート、プリントなど)を見直し、重要なポイントを整理する (15分)
- 第7回：講義内容(教科書、ノート、プリントなど)を見直し、重要なポイントを整理する (15分)
- 第8回：講義内容(教科書、ノート、プリントなど)を見直し、重要なポイントを整理する (15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第1回：第1回目の授業内でのプレテストとポストテストによる形成的評価
- 第2回：第2回目の授業内でのプレテストとポストテストによる形成的評価
- 第3回：第3回目の授業内でのプレテストとポストテストによる形成的評価
- 第4回：第4回目の授業内でのプレテストとポストテストによる形成的評価
- 第5回：第5回目の授業内でのプレテストとポストテストによる形成的評価
- 第6回：第6回目の授業内でのプレテストとポストテストによる形成的評価
- 第7回：第7回目の授業内でのプレテストとポストテストによる形成的評価
- 第8回：第8回目の授業内でのプレテストとポストテストによる形成的評価

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	医歯薬出版

8. 参考図書

田畑 純	口腔の発生と組織 (改訂第4版)	南山堂
------	------------------	-----

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時 本館10階 組織・発生学講座で行う。

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	6/17	火	2	組織学総論、上皮組織 ・組織学の特徴を説明できる。 ・4大組織を列挙できる。 ・上皮組織を分類し、それぞれの特徴を説明できる。	講義 ・デ イス カッ ショ ン・ プ レ・ ボス トテ スト	14階教室	山本仁
2	6/24	火	2	支持組織1 (結合組織、血液) ・支持組織の特徴を説明できる。 ・結合組織の細胞成分を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 ・結合組織の線維成分を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 ・血液の成分を説明できる。 ・血球の種類を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。	講義 ・デ イス カッ ショ ン・ プ レ・ ボス トテ スト	14階教室	山本仁
3	7/1	火	2	支持組織2 (軟骨組織、骨組織) ・軟骨の種類を列挙し、それぞれの特徴と分布について説明できる。 ・骨組織の構造を説明できる。 ・骨組織の細胞成分を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。	講義 ・デ イス カッ ショ ン・ プ レ・ ボス トテ スト	14階教室	山本仁

4	7/8	火	2	筋組織 ・筋組織を分類し、その特徴を説明できる。 神経組織 ・神経細胞の構造を説明できる。 口腔組織学総論、エナメル質 ・口腔組織学の特徴を説明できる。 ・エナメル質の特徴を説明できる。	講義 ・デ イス カッ ショ ン・ プ レ・ ボス トテ スト	14階教室	山本仁
5	7/15	火	2	象牙質・歯髄複合体 ・象牙質の特徴を説明できる。 ・象牙質を分類し、その特徴を説明できる。 ・歯髄に存在する細胞を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 歯周組織1 (セメント質) ・セメント質の特徴を説明できる。 ・セメント質に観察される構造を説明できる。	講義 ・デ イス カッ ショ ン・ プ レ・ ボス トテ スト	14階教室	山本仁
6	9/2	火	2	歯周組織2 (歯肉、歯根膜、歯槽骨) ・歯肉の構造を説明できる。 ・歯根膜の構造と機能について説明できる。 ・歯槽骨を分類し、その特徴を説明できる。	講義 ・デ イス カッ ショ ン・ プ レ・ ボス トテ スト	14階教室	山本仁
7	9/2	火	4	唾液腺、口腔粘膜 ・大唾液腺を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。	講義 ・デ イス	14階教	山本仁

				<ul style="list-style-type: none"> ・口腔粘膜の構造を説明できる。 ・口腔粘膜を機能的に分類して、それぞれの特徴を説明できる。 	カッ ショ ン・ ブ レ・ ボス トテ スト	室	
8	9/9	火	2	顔面の発生、口蓋の発生、歯と歯周組織の発生 <ul style="list-style-type: none"> ・顔面の発生の概要を説明できる。 ・口蓋の発生過程を説明できる。 ・歯と歯周組織の発生過程を説明できる。 	講義 ・デ イス カッ ショ ン・ ブ レ・ ボス トテ スト	14 階 教室	山本仁

科目名	生理・口腔生理学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※安松 啓子		
ナンバリング	B0403-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、臨床につながる生理学の講義を行っている。		

1. 教科の特徴

生理学とは人体の機能とその仕組みを明らかにする学問で、主に物理的手法が用いられる。正常な機能を知ることで、機能異常とバランスの破綻による疾患や、治療薬・治療法についての専門的知識の基礎となる。この知識は歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上に寄与し、多職種と協働して歯科保健医療を提供するために不可欠である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
		○		○	○		○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

人体内で行われている生命現象と、人体を構成する器官の構造とその機能を理解するために、基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 体を構成する細胞と組織の機能を説明する。(5%)
- 2) 運動・感覚とそれらの統合について説明する。(5%)
- 3) 自律機能（循環，呼吸，消化，排泄，分泌，体温，生殖など）を説明する。(35%)
- 4) 生体の情報伝達（神経系、内分泌系）の機能を説明する。(10%)
- 5) 顔面・口腔・咽頭の構造と機能を説明する。(10%)
- 6) 咀嚼・嚥下時の諸器官の運動およびその調節機構を説明する。(10%)
- 7) 口腔感覚・味覚・嗅覚の機能を説明する。(10%)
- 8) 唾液分泌機序およびその機能を説明する。(10%)
- 9) 発声・発音の原理および口腔諸器官の関連を説明する。(5%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

1) 受動的方法：講義の実施

教科書の図に対する説明文のつながりの理解とノートの作成

2) 能動的方法：

講義始めに疑問点を明確にするディスカッション

講義内容のポイントについてディスカッション

3) 媒体：教科書、スライド、ノート

5. 評価（EV：Evaluation）

1) 形成的評価：ポストテスト

2) 総括的評価：定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P1-10,114 を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第2回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P64-82（筋と運動）202-212（神経系）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第3回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P84-108（消化・吸収）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第4回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P109-140（循環）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第5回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P179-203（神経系）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第6回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P213-233（呼吸）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第7回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P156-177（感覚）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第8回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P234-245（腎機能と排尿），269-374（体温）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第9回：教科書（解剖学・組織発生学・生理学）P246-258（内分泌）259-268（生殖）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第10回：教科書（口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学）P192-199（歯・口腔，顔面の感覚），200-212（味覚と嗅覚）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第11回：教科書（口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学）P213-230（咬合と咀嚼・吸啜）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第12回：教科書（口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学）P230-232（咬合と咀嚼・吸啜），233-242（嚥下と嘔吐）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第13回：教科書（口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学）P242-247（嚥下と嘔吐），248-

259（発声・発語）を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第14回：教科書（口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学）P260-269を読み、疑問点にアンダーラインを記すこと。

第15回：14回までの教科書やノートを読み、疑問点や覚えていない箇所を記して質問できるようにすること。

2) 事後学修

第1-15回：教科書とノートを再確認し、重要ポイントを整理する。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義始めのディスカッション

事後学修：次回講義開始時のポストテスト

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協会 監修	歯科衛生学シリーズ ① 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・組織発生学・生理学	医歯薬出版
-------------------	--	-------

8. 参考図書

「一歩一歩学ぶ生命科学」	http://life-science-edu.net/	生命科学教育 シェアリング グループ
--------------	---	--------------------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/15	火	3	生理学とは 内部環境とホメオスタシス (恒常性) バイタルサイン	講義	14階教室	安松
2	4/15	火	4	筋と運動 筋の構造・機能・収縮メカニズム 運動・筋電図	講義	14階教室	安松
3	4/22	火	3	消化・吸収 唾液腺・唾液 胃、小腸、大腸の機能 消化液の役割・消化管運動	講義	14階教室	安松
4	5/13	火	3	循環 血管の機能 血液凝固・血液型 循環の生理	講義	14階教室	安松
5	5/20	火	3	神経系 神経の基本的機能 中枢神経・末梢神経 神経の伝導路	講義	14階教室	安松
6	5/27	火	3	呼吸 換気の仕組み、肺気量と換気量 体内のガス交換、O ₂ とCO ₂ の運搬 呼吸の調節	講義	14階教室	安松
7	6/3	火	3	感覚 感覚の性質と種類 感覚情報の伝達、感覚野、感覚器 特殊感覚	講義	14階教室	安松
8	6/10	火	3	腎機能と排尿・体温 腎臓の働き、排尿の仕組み 体熱の産生と放散 体温調節・体温変動	講義	14階教室	安松

9	6/17	火	3	内分泌 内分泌器官の機能 ホルモンの作用機序・分泌調節 生殖	講義	14 階 教室	安松
10	6/24	火	3	歯・口腔、顔面の感覚・味覚と嗅覚 感覚神経・口腔顔面痛 触圧覚・温度感覚 味覚と嗅覚	講義	14 階 教室	安松
11	7/1	火	3	咬合・咀嚼 下顎位・下顎運動 顎反射 咀嚼能力	講義	14 階 教室	安松
12	7/8	火	3	吸啜・嚥下 吸啜 嚥下時の筋・食塊・神経	講義	14 階 教室	安松
13	7/15	火	3	嘔吐・発声・発語 嘔吐の機序と神経 声の生成、構音のメカニズム 歯・口腔の病態と構音	講義	14 階 教室	安松
14	9/2	火	3	唾液 唾液の分泌機構 唾液の性状・成分と機能 唾液と疾患	講義	14 階 教室	安松
15	9/9	火	3	まとめと追加 高齢化への対応 全体の復習	講義	14 階 教室	安松

科目名	病理・口腔病理学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※松坂賢一、※國分克寿、※中島啓、※明石良彦、※山本圭		
ナンバリング	B0404-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験がある教員が、全身および口腔の疾患を正しく認識するためにその原因と病態について、講義を行う。		

1. 教科の特徴

病理・口腔病理学は、疾患を正しく認識するために、その原因と病態を解明する学問である。前半の病理学では、病理学総論として、臓器の違いを超えて共通にみられる疾患について、その原因、発病、経過、転帰という一連の変化を学ぶ。後半の口腔病理学では、口腔疾患を病理学総論に基づいて確認するとともに、口腔疾患特有の病態を学ぶ。本科目は、歯科衛生士として歯科疾患の予防および口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材となるための根幹となるものである。(ディプロマ・ポリシー1)

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○	○				○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

全身および口腔の疾患がどのような原因で発病し、どんな変化、経過をとっていくのか、そして最終的にはどのような転帰をとるのかについて、自分から積極的に考えていくために必要な知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

I編 病理学総論

- 1) 病気の原因について、内因と外因から説明する。(5%)
- 2) 遺伝性疾患と先天異常について説明する。(5%)
- 3) 循環障害が関連する疾患について説明する。(5%)
- 4) 代謝障害と退行性病変が関連する疾患について説明する。(5%)
- 5) 増殖と修復が関連する疾患について説明する。(5%)
- 6) 抜歯創の治癒機転とその異常について説明する。(5%)
- 7) 炎症と免疫応答異常の概念、分類、病態および関連する疾患について説明する。(7%)
- 8) 腫瘍の概念、分類、病態について説明する。(7%)

II編 口腔病理学

- 1) 歯の発育異常の種類、原因、好発部位、特徴について説明する。(5%)
- 2) 歯の損傷と着色・付着物の分類と原因について説明する。(5%)
- 3) う蝕の発生機序、原因、分類、好発部位について説明する。(5%)
- 4) 象牙質・歯髄複合体に発生する疾患の特殊性を踏まえ、原因、分類、病理所見について説明する。(7%)
- 5) 歯周組織に発生する疾患の原因、分類、病理所見について説明できる。(7%)
- 6) 口腔粘膜の病変の種類と好発部位、臨床所見、病理所見について説明する。(7%)
- 7) 口腔領域の嚢胞と腫瘍の分類、臨床所見、成り立ち、病理所見について説明する。(10%)
- 8) 顎骨の病変について説明する。(5%)
- 9) 唾液腺の病変について説明する。(5%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
板書を中心とした講義
- 2) 能動的方法：
ディスカッション
プレテスト、ポストテスト
- 3) 媒体：
教科書、スライド、プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の授業における重要ポイントを把握するため、学生自身が自己の理解度を把握するために行う。次回授業開始時にフィードバックを行う。
- 2) 総括的評価：
(1) 定期試験（90～100%）
講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。
(2) 平常点評価（0～10%）
日常的な授業中の態度、質問事項に対する回答状況、授業の出欠状況等を評価する。

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回の講義内容について教科書の該当部分を読んでおく。(10～15分)

I編 病理学総論

- 第1回(4/9) : 1章 病理学序論と病因論
2章 遺伝性疾患と先天異常
- 第2回(4/16) : 3章 循環障害
- 第3回(4/23) : 4章 代謝障害と退行性病変
- 第4回(5/7) : 5章 増殖と修復
- 第5回(5/14) : 6章 炎症と免疫応答異常① 炎症
- 第6回(5/21) : 6章 炎症と免疫応答異常② 免疫応答異常
- 第7回(5/28) : 7章 腫瘍

II編 口腔病理学

- 第8回(6/4) : 8章 口腔癌
- 第9回(6/11) : 6章 口腔粘膜の病変
- 第10回(6/18) : 1章 歯の発育異常
2章 歯の損傷と着色・付着物
- 第11回(6/25) : 3章 う蝕
4章 象牙質・歯髄複合体の病態
- 第12回(7/2) : 5章 歯周組織の病態
- 第13回(7/9) : 7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍
- 第14回(7/16) : 9章 顎骨の病変
- 第15回(9/3) : 10章 唾液腺の病変

2) 事後学修

教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(10~15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

一般社団法人全国歯科衛生士 教育協議会 監修 前田健康・眞木吉信・松田裕子 編集	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学	医歯薬出版
---	---	-------

8. 参考図書

特になし		
------	--	--

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時/本館9階 病理学講座内

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/9	水	1	I編 病理学総論 1章 病理学序論と病因論 病理学とは、病因論 (内因、外因) 2章 遺伝性疾患と先天異常 遺伝性疾患、先天異常	講義	14階教室	松坂明石
2	4/16	水	1	I編 病理学総論 3章 循環障害 虚血、充血とうっ血、出血、浮腫 (水腫)、ショック、血栓症、塞栓症と梗塞、動脈硬化症	講義	14階教室	明石
3	4/23	水	1	I編 病理学総論 4章 代謝障害と退行性病変 変性と物質代謝障害、萎縮、細胞死	講義	14階教室	明石
4	5/7	水	1	I編 病理学総論 5章 増殖と修復 肥大と増生 (過形成)、化生、再生と修復、創傷治癒、異物処理	講義	14階教室	明石
5	5/14	水	1	I編 病理学総論 6章 炎症と免疫応答異常① 総論 (定義、経過、分類)、滲出性炎、特異性炎	講義	14階教室	明石
6	5/21	水	1	I編 病理学総論 6章 炎症と免疫応答異常② 免疫応答、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植免疫	講義	14階教室	明石
7	5/28	水	1	I編 病理学総論 7章 腫瘍 総論 (定義、発生機序と原因)、発生母組織と腫瘍の各型、悪性度による分類、前がん病変	講義	14階教室	明石

8	6/4	水	1	II編 口腔病理学 8章 口腔癌 口腔潜在的悪性疾患、口腔上皮性異形成と上皮内癌、扁平上皮癌	講義	14階教室	明石
9	6/11	水	1	II編 口腔病理学 6章 口腔粘膜の病変 白色病変、黒色病変、水疱形成病変、潰瘍形成病変	講義	14階教室	明石
10	6/18	水	1	II編 口腔病理学 1章 歯の発育異常 歯の大きさ・数・形・構造・萌出時期・位置の異常、咬合の異常 2章 歯の損傷と着色・付着物 物理的損傷、化学的損傷、歯の着色、プラークと歯石	講義	14階教室	明石
11	6/25	水	1	II編 口腔病理学 3章 う蝕 う蝕の病因、分類、組織学的変化 4章 象牙質・歯髄複合体の病態 歯髄炎、歯髄の退行性変化、象牙質の増生、象牙質知覚過敏症	講義	14階教室	明石
12	7/2	水	1	II編 口腔病理学 5章 歯周組織の病態 根尖部歯周組織の病変、辺縁部歯周組織の病変、エプーリス、セメント質増生、セメント (質) 粒	講義	14階教室	明石
13	7/9	水	1	II編 口腔病理学 7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 口腔領域の嚢胞、口腔領域の腫瘍 (歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍)	講義	14階教室	明石
14	7/16	水	1	II編 口腔病理学 9章 顎骨の病変 顎骨骨髄炎、腫瘍様病変、顎関節の疾患	講義	14階教室	明石
15	9/3	水	1	II編 口腔病理学 10章 唾液腺の病変 流行性耳下腺炎、シェーグレン (Sjögren) 症候群、唾石症、粘液嚢胞、唾液腺腫瘍	講義	14階教室	

科目名	微生物・口腔微生物	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※米澤 英雄、※国分 栄仁		
ナンバリング	B0405-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

微生物学では、病原体の特徴・病原性、その感染経路や疾患発症に関する基本的な知識、そしてそれに対してどのように対処するかについて習得する。特に歯科衛生士は、臨床の現場での歯科予防処置や診療介助で感染性のサンプルへの接触が多いことから、実践的な感染予防の知識が必要である。これらについて理解を深める。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○				○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

- ・ 歯科衛生士として感染予防を実践するため、一般病原微生物学と免疫学の基礎知識から感染成立とその予防についての知識を修得する。
- ・ 歯科衛生士として適切な歯科予防処置を実践するために、日常的に治療に携わる齲蝕や歯周病の原因となるう蝕原性細菌および歯周病原性細菌とバイオフィーム形成に関する知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 細菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫、ウイルスの特徴を説明する。(5%)
- 2) 感染症の成立について説明する。(10%)
- 3) 細菌の分類、形態・構造、代謝・増殖、病原因子を説明する。(10%)
- 4) 細菌および真菌の培養法と観察方法を説明する。(5%)
- 5) 消毒と滅菌の定義、および具体的な方法を説明する。(10%)
- 6) 化学療法薬の種類とその作用機序、耐性菌について説明する。(5%)
- 7) 生体の防御機構、細胞性免疫、体液性免疫について説明する。(10%)
- 8) アレルギーについて説明する。(5%)
- 9) 細菌、真菌、ウイルスによる口腔疾患について説明する。(10%)
- 10) デンタルプラークバイオフィームの特性やそのコントロールの意義を説明する。(10%)

- 11) 齲蝕とその原因細菌について説明する。(10%)
- 12) 歯周病とその原因細菌について説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的的方法：講義
- 2) 能動的的方法：講義中のディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：教科書、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
ポストテスト
- 2) 総括的評価：
①定期試験（90～100%）
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。
平常点評価（0～10%）
授業中の態度、質問事項に対する回答状況や授業の出欠状況などを評価する。

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
 - 第1回： 2-12、192-196 ページを読んでおく（10分）
 - 第2回： 13-31 ページを読んでおく（10分）
 - 第3回： 32-39 ページを読んでおく（10分）
 - 第4回： 40-61 ページを読んでおく（10分）
 - 第5回： 162-170 ページを読んでおく（10分）
 - 第6回： 171-174 ページを読んでおく（10分）
 - 第7回： 174-180 ページを読んでおく（10分）
 - 第8回： 181-191 ページを読んでおく（10分）
 - 第9回： 108-130 ページを読んでおく（10分）
 - 第10回： 131-153 ページを読んでおく（10分）
 - 第11回： 154-160 ページを読んでおく（10分）
 - 第12回： 64-82 ページを読んでおく（10分）
 - 第13回： 83-90 ページを読んでおく（10分）
 - 第14回： 91-100 ページを読んでおく（10分）
 - 第15回： 101-105 ページを読んでおく（10分）

2) 事後学修

- 第1回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第2回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第3回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第4回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第5回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第6回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第7回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第8回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第9回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第10回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第11回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第12回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第13回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第14回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)
- 第15回：講義内容を見直し、重要点をまとめる (15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学習：講義当日の開始時にディスカッションで確認する。

事後学習：次回講義の開始時に、ディスカッションで確認する。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進 微生物学 第2版	医歯薬出版社
--------------------	--	--------

8. 参考図書

村上英明 他 監修	イラストでわかる歯科医学の基礎	永末書店
-----------	-----------------	------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/10	木	2	微生物学総論 ・ 微生物の分類と一般性状を説明する。 ・ 感染の成り立ちを説明する。	講義	14 階 教 室	米澤
2	4/17	木	2	微生物の構造と病原性(1) ・ 微生物の形態と構造、病原性を説明する。	講義	14 階 教 室	米澤
3	4/24	木	2	微生物の構造と病原性(2) ・ 細菌の分類と一般性状を説明する。 ・ 細菌培養・顕微鏡観察について説明する。	講義	14 階 教 室	米澤
4	5/8	木	2	消毒と滅菌 ・ スタンダードプリコーションを説明する。 ・ 消毒と滅菌の定義、方法を説明する。 化学療法 ・ 化学療法薬の種類と作用機序、副作用を説明する。 ・ 耐性菌を説明する。	講義	14 階 教 室	米澤
5	5/15	木	2	免疫(1) ・ 生体の防御機構の概略を説明する。 ・ 免疫担当細胞、抗原、抗体、補体を説明する。	講義	14 階 教 室	米澤
6	5/22	木	2	免疫(2) ・ 体液性免疫を説明する。 ・ 抗体の種類と産生機構を説明する。 ・ 抗原抗体反応を利用した感染症の診断について説明する。	講義	14 階 教 室	米澤
7	5/29	木	2	免疫(3) ・ 細胞性免疫を説明する。 ・ 粘膜免疫を説明する。	講義	14 階 教 室	国分

8	6/5	木	2	アレルギー ・ アレルギーの分類と成立機序を説明する。	講義	14階教室	米澤
9	6/12	木	2	感染症(1) ・ 細菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア感染症を説明する。	講義	14階教室	米澤
10	6/19	木	2	感染症(2) ・ ウイルス感染症を説明する。	講義	14階教室	米澤
11	6/26	木	2	感染症(3) ・ 真菌、原虫感染症を説明する。	講義	14階教室	米澤
12	7/3	木	2	口腔微生物学概論 ・ 口腔感染症の特性を説明する。 ・ 口腔微生物叢の成立と生態について説明する。	講義	14階教室	米澤
13	7/10	木	2	齶蝕の細菌学・免疫学 ・ 齶蝕症の細菌学を説明する。 ・ 口腔レンサ球菌を説明する。	講義	14階教室	米澤
14	7/17	木	2	歯周病の細菌学・免疫学 ・ 歯周病原細菌を説明する。 ・ 歯周病原細菌の諸因子・宿主の抵抗性を説明する。 歯周組織破壊の機序・歯周病のリスクファクターを説明する。	講義	14階教室	米澤
15	9/4	木	2	口腔感染症 ・ 口腔内ウイルス感染症を説明する。 ・ 口腔領域を中心とした宿主の抵抗性を説明する。 ・ 口腔ケアの意義について説明する。	講義	14階教室	米澤

科目名	公衆衛生学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※杉原直樹		
ナンバリング	B0406-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

公衆衛生学は、医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的な知識の根幹となり、歯科衛生士として公衆衛生活動および福祉活動を実践するために必須である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
	○					○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

健康と環境についての関係や地球規模の環境保全、感染症や食中毒の予防や栄養学の重要性を理解する。人間の健康の科学である衛生学の知識を身につけ、歯科衛生士として歯科医療の現場や公衆衛生活動の中で、たえず思考し、広い視野と社会的洞察力で展開できる能力を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 健康および予防医学の概念について説明する。(20%)
- 2) 疫学の定義および目的について理解し、研究方法について説明する。(10%)
- 3) 人口について人口静態、人口動態および生命表を説明する。(10%)
- 4) 健康と環境についての関係および地球規模の環境保全を説明する。(20%)
- 5) 感染症の3要因を理解し、その予防について説明する。(10%)
- 6) 食中毒の疫学、分類および食品の安全性について説明する。(10%)
- 7) 公衆衛生における栄養学の重要性を説明する。(20%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方略：講義
- 2) 能動的方略：プレテスト・ポストテスト、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、参考図書、プリント、コンピュータ画像

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
 - プレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
 - 定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(90%)
 - 課題の提出状況、授業の出欠状況、日常的な授業の取組状況などを評価する。(10%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第2回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第3回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第4回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第5回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第6回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第7回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第8回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）

2) 事後学修

- 第1回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第2回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第3回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第4回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第5回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第6回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第7回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第8回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）

3) 事前学修・事後学修の評価

- 事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
- 事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み 1 保健生態学	医歯薬出版
杉原直樹、福田雅臣、川戸貴 行、小松崎 明、有川量崇 監 修	口腔衛生学 2024	一世出版

8. 参考図書

一般財団法人 厚生労働統計協会	国民衛生の動向・厚生 の 指 標 2024/2025	厚生労働統計 協会
--------------------	-------------------------------	--------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階衛生学研究室

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/8	火	2	(1) 公衆衛生総論 公衆衛生学とは 健康の概念 疾病の自然史と疾病予防 健康政策の概念 健康日本 21 (第 3 次) ハイリスクアプローチと ポピュレーションアプローチ コモンリスクファクターアプローチ	講義	14 階 教 室	杉原
2	4/15	火	2	(2) 疫学 定義および概念 疾病や異常の発生要因 有病と罹患 (発病) 疫学の調査方法 疫学研究の時間的流れによる分類 疫学の研究方法	講義	14 階 教 室	杉原
3	4/22	火	2	(3) 人口統計 人口静態 人口動態 生命表	講義	14 階 教 室	杉原
4	5/13	火	2	(4) - 1 健康と環境 I 環境の概念 空気・水と健康 放射線と健康 住居・衣服と健康	講義	14 階 教 室	杉原
5	5/20	火	2	(4) - 2 健康と環境 II 地球環境の変化と健康への影響 公害と健康への影響 廃棄物処理	講義	14 階 教 室	杉原
6	5/27	火	2	(5) 感染症 感染症の成り立ち 感染症の予防 主な感染症の動向 感染症の医療体制	講義	14 階 教 室	杉原

7	6/3	火	2	(6) - 1 食品と健康 I 食中毒とは 食中毒の分類 食中毒の統計（食中毒の疫学） 食中毒の予防 食品の安全性確保	講義	14 階 教 室	杉原
8	6/10	火	2	(6) - 2 食品と健康 II 日本人の食事摂取量 食事摂取基準の基準値と現状 食生活指針と食事バランスガイド 「食育」の推進	講義	14 階 教 室	杉原

科目名	口腔衛生学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※杉原直樹		
ナンバリング	B0407-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

口腔衛生学は、医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的な知識の根幹となるものであり、歯科疾患予防のためのセルフケア、パブリックケア、プロフェッショナルケアを実践するために必須である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
	○					○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科疾患を予防するために、個人における口腔の健康と機能の維持増進のための全身的要因、生活習慣、社会経済的要因および環境要因のリスク評価について理解し、リスク評価およびライフステージに基づいた保健指導および予防処置を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 口腔衛生学および口腔ケアを概説する。(10%)
- 2) 歯・口腔の健康について概説する。(10%)
- 3) う蝕の疫学と根拠に基づいた予防法について概説する。(10%)
- 4) う蝕の発病要因を説明する。(10%)
- 5) う蝕の発病要因の評価方法（う蝕活動性試験）を説明する。(10%)
- 6) う蝕の保健指導と予防処置を説明する。(10%)
- 7) 歯周疾患の保健指導と予防処置を説明する。(10%)
- 8) 口腔清掃の方法を説明する。(10%)
- 9) その他の歯科疾患の予防方法を説明する。(10%)
- 10) ライフステージにおける口腔保健管理について説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：プレテスト・ポストテスト、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、参考図書、プリント、コンピュータ画像

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
プレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(90%)
課題の提出状況、授業の出欠状況、日常的な授業の取組状況などを評価する。(10%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第2回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第3回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第4回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第5回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第6回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第7回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第8回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第9回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第10回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第11回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第12回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第13回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第14回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第15回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）

2) 事後学修

- 第1回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第2回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第3回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第4回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第5回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第6回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）

- 第7回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
 第8回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
 第9回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
 第10回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
 第11回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
 第12回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
 第13回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
 第14回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
 第15回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み 1 保健生態学	医歯薬出版
杉原直樹、福田雅臣、 川戸貴行、小松崎 明、 有川量崇 監修	口腔衛生学 2024	一世出版

8. 参考図書

一般財団法人 厚生労働統計協会	国民衛生の動向・厚生指標 2024/2025	厚生労働統計 協会
--------------------	---------------------------	--------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階衛生学研究室

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/8	火	1	(1)-1 口腔衛生学 総論 講義の概要について 口腔衛生学の定義	講義	14 階 教室	杉原
2	4/15	火	1	(1)-2 口腔衛生学 総論 口腔ケアの概念と分類 疾病の自然史と疾病予防 8020 運動 (2)-1 歯・口腔の健康についての基本的 知識 歯・口腔の健康 (歯・口腔の構造、歯・口腔の発生 成長・発育、歯・口腔の機能)	講義	14 階 教室	杉原
3	4/22	火	1	(2)-2 歯・口腔の健康についての基本的 知識 口腔の健康と全身の健康 歯・口腔の付着物・沈着物	講義	14 階 教室	杉原
4	5/13	火	1	(3) 歯科疾患の疫学 歯科疾患に対する疫学 的アプローチの意義 う蝕の疫学 歯周疾患の疫学 歯の喪失の疫学 その他の疾患の疫学	講義	14 階 教室	杉原
5	5/20	火	1	(4) 口腔清掃法と口腔清掃指導 口腔清掃と口腔清掃法の分類 人工的清掃法 口腔清掃による為害作用 歯磨剤と洗口剤	講義	14 階 教室	杉原
6	5/27	火	1	(5) う蝕の病因論 う蝕発生のメカニズム う蝕の発生要因 う蝕の第一次予防、第二次予防、 第三次予防 P T C と P M T C	講義	14 階 教室	杉原

7	6/3	火	1	(6) う蝕発病因子の評価法 う蝕活動性とは う蝕活動性試験の目的 う蝕活動性試験の具備すべき条件 う蝕活動性試験の臨床における使用目的 う蝕活動性試験の分類と種類	講義	14階教室	杉原
8	6/10	火	1	(7) - 1 う蝕予防 -非う蝕誘発性甘味料と間食指導- う蝕発病と食事要因との関係 糖質の種類とう蝕発病性 Stephan's curve (ステファン・カーブ) 非う蝕誘発性甘味料の種類と特徴	講義	14階教室	杉原
9	6/17	火	1	(7) - 2 う蝕予防 -小窩裂溝填塞法(う蝕予防填塞法)- 小窩裂溝填塞法(う蝕予防填塞法)とは 填塞材の種類と特徴 填塞術式 酸処理	講義	14階教室	杉原
10	6/24	火	1	(7) - 3 う蝕予防 -フッ化物によるう蝕予防法Ⅰ- フッ化物の基本知識 フッ化物の計算問題1 フッ化物摂取量とその基準 フッ素の代謝 オーラル・ケアの分類とフッ化物応用	講義	14階教室	杉原
11	7/1	火	1	(7) - 4 う蝕予防 -フッ化物によるう蝕予防法Ⅱ- フッ化物応用におけるう蝕予防方法 フッ化物の局所応用 フッ化物の全身応用 フッ化物の計算問題2	講義	14階教室	杉原
12	7/8	火	1	(7) - 5 う蝕予防 -フッ化物によるう蝕予防法Ⅲ- フッ化物によるう蝕予防メカニズム フッ化物の毒性	講義	14階教室	杉原

				フッ化物の計算問題3			
13	7/15	火	1	(8) 歯周疾患の予防 歯周疾患の症状と分類 歯周疾患の発症機序 歯周疾患の全身に与える影響 歯周疾患の予防手段と処置 禁煙支援・指導	講義	14階教室	杉原
14	9/2	火	1	(9) その他の疾患・異常の予防 不正咬合の予防 口臭症の予防 その他の疾患・異常の予防	講義	14階教室	杉原
15	9/9	火	1	(10) まとめ	講義	14階教室	杉原

科目名	生化学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	荒井 昭雄		
ナンバリング	B0408-1A		
実務経験	なし		
実務経験と教育内容 の関連性			

1. 教科の特徴

個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援するのに必要な人体と栄養の理解を可能にする教科である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○			○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

人の健康と食事との関係を理解できる歯科衛生士になるために、以下の4つを一般目標とする。

- 1) 人体を構成する物質の分子構造や化学反応の基礎知識を修得する。
- 2) 1) の代謝過程と調節機構、恒常性、遺伝子発現、細胞内情報伝達まで生命現象に関する知識を修得する。
- 3) 口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラークの構成成分やそこに生じるう蝕と歯周病の生化学的な知識を修得する。
- 4) 3大栄養素とビタミン、ミネラル、水の働きの学習から、健康と食生活の関係を物質、化学反応、エネルギーのレベルで体系的に修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 物質、溶液、酸・アルカリ、酸化・還元について説明する。(20%)
- 2) 生体内の化学反応や酵素作用、緩衝作用について説明する。(5%)
- 3) 栄養素の消化・吸収・代謝や機能、遺伝子発現について説明する。(30%)
- 4) 結合組織の特徴と代謝を説明する。(10%)
- 5) 歯の構造と組成、カルシウム代謝について説明する。(10%)
- 6) 骨吸収、骨リモデリング、歯の脱灰、再石灰化について説明する。(5%)
- 7) 唾液の組成と機能について説明する。(5%)
- 8) プラークによるう蝕とその影響因子、歯周病発生の仕組みを説明する。(5%)
- 9) 糖質、脂質、タンパク質、ビタミンなどの栄養の意味を説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的の方法：
講義
- 2) 能動的の方法：
ディスカッション、ポストテスト、PBL
- 3) 媒体：
教科書、パワーポイント、ホワイトボード、プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義開始時にポストテストを行い、その結果をフィードバックする
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、図を書かせる試験で評価する。(100%) ポストテストの内容は試験範囲に入る。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：プリントを読んでおくこと。(20分)
- 第2回：プリントを読んでおくこと。(20分)
- 第3回：プリント、「生化学」p10-12を読んでおくこと。(25分)
- 第4回：プリント、「生化学」p12-13を読んでおくこと。(25分)
- 第5回：「生化学」p13-16, 24-28 「栄養学」p13-14を読んでおくこと。(30分)
- 第6回：「生化学」p27-36, 49-52 「栄養学」p14-17, 43-49を読んでおく。(40分)
- 第7回：「生化学」p16-19, 37-39 「栄養学」p18-22を読んでおく。(40分)
- 第8回：「生化学」p19-23, 39-43 「栄養学」p23-24を読んでおく。(40分)
- 第9回：「生化学」p44-48を読んでおく。(30分)
- 第10回：「生化学」p54-61を読んでおく。(30分)
- 第11回：「生化学」p61-67を読んでおく。(40分)
- 第12回：「生化学」p68-81を読んでおく。(30分)
- 第13回：「生化学」p82-87, 88-101, 105-106, 109-119を読んでおく。(50分)
- 第14回：「栄養学」p13-22を読んでおく。(30分)
- 第15回：「栄養学」p23-42, 52-60を読んでおく。(40分)

2) 事後学修

- 第1回：元素記号、イオン式、分子式、構造式をリストアップする。(30分)
- 第2回：指数・単位に留意して物質量や濃度計算と化学反応式を作る練習をする。(40分)

- 第3回：酸と塩基の電離式、pHの計算、中和反応の化学式をリストアップする。(30分)
- 第4回：酸化還元の定義を確認、酸化剤と還元剤、官能基をリストアップする。(30分)
- 第5回：グルコース、スクロース、アミロースなどの構造を書き出す。様々な消化酵素とその基質・生成物をリストアップする。(40分)
- 第6回：解糖、クエン酸回路、電子伝達系の代謝経路やATPの構造を図式化する。血液の緩衝能と血糖調節に関与するホルモンをリストアップする。(40分)
- 第7回：単純脂肪と生体膜の構造、飽和・不飽和脂肪酸をリストアップする。(30分)
- 第8回：アミノ酸の構造とペプチド結合、タンパク質の構造を図式化する。(30分)
- 第9回：転写・翻訳の仕組みを理解してDNAを鋳型としてmRNAを作る。(40分)
- 第10回：コラーゲン分子種をリストアップする。コラーゲンの原線維からα鎖までの構造を確認する。プロテオグリカンとグリコサミノグリカンの構造を確認する。(40分)
- 第11回：ヒドロキシアパタイトの組成と石灰化の仕組みを理解する。(30分)
- 第12回：骨芽・破骨細胞、血清カルシウム調節ホルモンをリストアップする。(30分)
- 第13回：唾液の組成と機能、グルカンとフルクタン生成反応、歯周疾患の原因となる細菌活性と生体防御の関係、リポ多糖の作用、人工甘味料をリストアップする。(50分)
- 第14回：糖質・脂質の種類と栄養的意味をリストアップする。(40分)
- 第15回：タンパク質・ビタミン・ミネラル・食物繊維の種類と栄養的意味、水の役割をリストアップする。栄養素別に消化・吸収をまとめる(40分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第1回：事前学修の評価を講義はじめの時間にPBL形式で行う。事後学修の評価を次回講義の開始時に前回の講義内容のポストテストで行う。第2回～15回も同じ

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能 2 生化学・口腔生化学 第1版	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能 3 栄養学 第1版	医歯薬出版

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 化学 第1版	医歯薬出版
	高校の化学基礎、生物基礎、生物の教科書	

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/9	水	2	化学基礎 (Ⅰ) 物質の構成 (混合物と純物質、元素と原子、原子構造、価電子、イオン) 化学結合 (イオン結合、共有結合、配位結合)、極性	講義	14階教室	荒井
2	4/16	水	2	化学基礎 (Ⅱ) アボガドロ定数・物質質量 (原子量、分子量、モル)、溶液の濃度 (質量%濃度とモル濃度)、化学反応式の係数とモル比、浸透圧	講義	14階教室	荒井
3	4/23	水	2	化学基礎 (Ⅲ) 電離 (電解質と非電解質)、酸と塩基、水の電離と水素イオン濃度、中和反応と塩、体液の緩衝作用と重炭酸イオン	講義	14階教室	荒井
4	5/7	水	2	化学基礎 (Ⅳ) 酸化と還元の定義 (酸素、水素、電子の享受)、還元剤と脱水素酵素、官能基 (アルデヒド基、アミノ基、カルボキシ基)	講義	14階教室	荒井
5	5/14	水	2	糖質の代謝 (Ⅰ) 生体構成成分、糖質の構造、消化と吸収 (単糖類、二糖類、多糖類、消化酵素とその基質・生成物、酵素の基質特異性)	講義	14階教室	荒井
6	5/21	水	2	糖質の代謝 (Ⅱ) 糖質の分解と代謝、ATP、血糖値 (エネルギー代謝の全体像、解糖、クエン酸回路、電子伝達系、ホメオスタシス)	講義	14階教室	荒井
7	5/28	水	2	脂質の代謝 脂質の構造、消化吸収、脂質の分解・代謝 (中性脂肪、リン脂質、ステロール、脂肪酸の酸化、飽和脂肪酸、必須脂肪酸)	講義	14階教室	荒井
8	6/4	水	2	タンパク質の代謝 タンパク質の構造・消化吸収、タンパク質の分解・代謝 (アミノ酸の基本構造、ペプチド結合、脱アミノ反応、脱炭酸反応)	講義	14階教室	荒井

9	6/11	水	2	遺伝子とタンパク質合成 核酸・遺伝子 (DNA・RNA の基本構造、複製)、タンパク質合成 (転写・翻訳)、二重らせん構造、コドン表、ペプチド鎖	講義	14階教室	荒井
10	6/18	水	2	歯・口腔生化学 (Ⅰ) 結合組織、線維状タンパク質、コラーゲン分子と線維の構造、エラスチン、プロテオグリカン、コラーゲンの合成と分解	講義	14階教室	荒井
11	6/25	水	2	歯・口腔生化学 (Ⅱ) 歯の構造と組成 (ヒドロキシアパタイトと単位胞)、石灰化の仕組み (基質小胞によるコラーゲン性石灰化)、骨リモデリング	講義	14階教室	荒井
12	7/2	水	2	歯・口腔生化学 (Ⅲ) 骨の生成と吸収 (骨芽細胞と破骨細胞、血清カルシウム調節ホルモン)、歯の脱灰と再石灰化	講義	14階教室	荒井
13	7/9	水	2	歯・口腔生化学 (Ⅳ) 唾液の組成と機能 (無機質と有機質) プラークの形成、菌体外多糖 (グルカンとフルクタンの生成反応)、歯周疾患と生体防御、リポ多糖の作用、代用甘味料	講義	14階教室	荒井
14	7/16	水	2	栄養素の種類とはたらき (Ⅰ) 糖質・脂質の種類とはたらき、糖質とその他の栄養素との関係、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸、必須脂肪酸、エネルギー源	講義	14階教室	荒井
15	9/3	水	2	栄養素の種類とはたらき (Ⅱ) タンパク質の種類とはたらき、必須アミノ酸、ビタミン・ミネラル・水・食物繊維の働き、多く含む食品、栄養素別消化吸収	講義	14階教室	荒井

科目名	薬理・歯科薬理学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※笠原 正貴, ※高橋 有希, ※徳山彰秀		
ナンバリング	B0409-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行う。		

1. 教科の特徴

歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材を育成する。

(当該科目)に合格することで修得できるコンピテンシー (○を付してください。)

コンピテンシー (学修成果)							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
		○			○	○	○

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯科医師の行う薬物療法について、その指示に適切に対応でき、かつ、適切な薬物の取り扱いを行うために、薬物および生体の反応について基本的な知識を修得する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 薬物の作用形式を説明する。(10%)
- 2) 生体内での薬物の動態を説明する。(10%)
- 3) 薬物の併用によって生ずる現象を説明する。(8%)
- 4) 薬物の連用によって生ずる現象を説明する。(8%)
- 5) 薬物の管理の方法を説明する。(8%)
- 6) 中枢神経系に作用する薬物を説明する。(8%)
- 7) 自律神経系に作用する薬物を説明する。(8%)
- 8) 局所麻酔薬の種類と特徴を説明する。(8%)
- 9) 鎮痛薬の種類と作用を説明する。(8%)
- 10) 抗炎症薬の種類と使用目的を説明する。(8%)
- 11) 抗菌薬の種類と使用目的を説明する。(8%)
- 12) 主要疾患に用いられる代表的な治療薬を説明する。(8%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的の方法 :
講義
- 2) 能動的の方法 :
ディスカッション
- 3) 媒体 :
教科書、スライド、プリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価 :
ポストテスト
- 2) 総括的評価 :
筆記試験 (100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書の該当ページを読んでおく。(15分)
- 第2回：教科書の該当ページを読んでおく。(15分)
- 第3回：教科書の該当ページを読んでおく。(15分)
- 第4回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第5回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第6回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第7回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第8回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第9回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第10回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第11回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第12回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第13回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第14回：教科書の該当ページを読んでおく。(10分)
- 第15回：配布資料を読んでおく。(60分)

2) 事後学修

- 第1～15回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする (15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

- 事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協会 監修	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学第2版	医歯薬出版
-------------------	---	-------

8. 参考図書

医療情報科学研究所 編	薬がみえる vol.1	メディックメディア
医療情報科学研究所 編	薬がみえる vol.2	メディックメディア
医療情報科学研究所 編	薬がみえる vol.3	メディックメディア
医療情報科学研究所 編	薬がみえる vol.4	メディックメディア

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時（事前アポイントが望ましい）/新館6階薬理学講座

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SBOsなど)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/3	金	3	総論(1) ・薬理作用の考え方 ・薬物の作用形式(受容体、トランスポーター、酵素など) ・薬理作用に影響する因子	講義	14階教室	笠原
2	10/10	金	3	総論(2) ・薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)	講義	14階教室	笠原
3	10/17	金	3	総論(3) ・薬物連用 ・薬物併用(協力作用・拮抗作用) ・副作用(有害作用)	講義	14階教室	笠原
4	10/24	金	3	総論(4) ・医薬品管理(毒薬・劇薬・麻薬・覚せい剤) ・剤形	講義	14階教室	笠原
5	10/31	金	3	中枢神経系に作用する薬物(1) ・中枢神経系のまとめ ・全身麻酔薬、催眠薬	講義	14階教室	笠原

6	11/7	金	3	中枢神経系に作用する薬物（2） ・向精神薬、抗精神病薬、抗不安薬、 抗うつ薬、抗けいれん薬 ・中枢神経興奮薬	講義	14 階 教室	笠原
7	11/14	金	3	末梢神経系に作用する薬物（1） ・神経伝達物質 ・自律神経系に作用する薬物	講義	14 階 教室	徳山
8	11/21	金	3	末梢神経系に作用する薬物（2） ・局所麻酔薬	講義	14 階 教室	徳山
9	11/28	金	3	鎮痛薬 ・麻薬性鎮痛薬 ・非麻薬性鎮痛薬 ・解熱性鎮痛薬	講義	14 階 教室	笠原
10	12/5	金	3	抗炎症薬 ・ステロイド性抗炎症薬 ・非ステロイド性抗炎症薬 ・抗アレルギー薬	講義	14 階 教室	笠原
11	12/12	金	3	血液に作用する薬物・消毒薬 ・止血薬 ・抗凝固薬 ・消毒薬	講義	14 階 教室	高橋

12	12/19	金	3	呼吸・循環に作用する薬物 ・呼吸器に作用する薬物 ・循環器に作用する薬物	講義	14 階 教室	笠原
13	1/9	金	3	感染と薬物（1） ・抗菌薬	講義	14 階 教室	徳山
14	1/16	金	3	感染と薬物（2） ・抗ウイルス薬	講義	14 階 教室	高橋
15	1/23	金	3	まとめ	講義	14 階 教室	高橋

科目名	歯科感染予防学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※平田創一郎		
ナンバリング	B0410-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験（外来、病棟、手術室）のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。また、厚生労働省での行政勤務経験を活かし、制度や手続について詳細な講義を行っている。		

1. 教科の特徴

歯科衛生士は、歯科予防処置、歯科診療補助および歯科予防処置を業務とし、歯科診療、公衆衛生、検診、介護等様々な状況において乳幼児・妊産婦から高齢者まで有病者から健康な者まで多様な人々を相手とする。その際にチームとして感染予防に努めることは医療従事者として必須の能力であり、感染予防の手法のみならずその法的規制から科学的背景まで、現場に即して応用可能な能力として修得する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○		○	○	○		○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

主に外来において、観血的小外科処置を中心に行う歯科医療現場における感染症の伝播を予防・管理し、患者および医療従事者の健康・安全上の問題に対処するため、安全管理・感染予防に関する知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 安全管理の考え方を説明する。(5%)
- 2) 歯科医療現場における安全管理の具体的手法を列挙する。(5%)
- 3) 標準予防策を説明する。(15%)
- 4) 感染経路別予防策を説明する。(15%)
- 5) 接触感染のリスクを低減する。(10%)
- 6) 飛沫感染のリスクを低減する。(10%)
- 7) 歯科医療機器と環境表面の清掃、消毒、滅菌法を説明する。(20%)
- 8) 抗菌薬の適正使用を説明する。(10%)
- 9) 廃棄物の処理を説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的の方法：
講義
- 2) 能動的の方法：
プレ・ポストテスト
- 3) 媒体：
教科書、配付資料、スライド、Web サイト

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義開始時に前回のポストテストのフィードバックとその回のプレテスト、終了時にポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、多肢選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第2回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第3回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第4回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第5回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第6回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第7回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)
- 第8回：講義範囲の教科書を読み、疑問点を整理する。(15分)

2) 事後学修

- 第1回：講義資料、プレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第2回：講義資料、プレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第3回：講義資料、プレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第4回：講義資料、プレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第5回：講義資料、プレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第6回：講義資料、プレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第7回：講義資料、プレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)
- 第8回：講義資料、プレ・ポストテストを参考に重要事項を覚える。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第1回

事前学修：第1回のプレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第2回講義開始時に第1回のポストテストのフィードバックを行う。

第2回

事前学修：第2回のプレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第3回講義開始時に第2回のポストテストのフィードバックを行う。

第3回

事前学修：第3回のプレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第4回講義開始時に第3回のポストテストのフィードバックを行う。

第4回

事前学修：第4回のプレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第5回講義開始時に第4回のポストテストのフィードバックを行う。

第5回

事前学修：第5回のプレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第6回講義開始時に第5回のポストテストのフィードバックを行う。

第6回

事前学修：第6回のプレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第7回講義開始時に第6回のポストテストのフィードバックを行う。

第7回

事前学修：第7回のプレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第8回講義開始時に第7回のポストテストのフィードバックを行う。

第8回

事前学修：第8回のプレ・ポストテストによる形成的評価を行う。

事後学修：第8回講義終了時に第8回のポストテストのフィードバックを行う。

教育委員会	http://www.kankyokansen.org/modules/education/index.php?content_id=1	
満田年宏、丸森英史 監訳	歯科医療における感染管理のための CDC ガイドライン	サラヤ株式会社
	https://med.saraya.com/themes/gakujutsu@medical/guideline/pdf/dentalcdc.pdf	
Centers for Disease Control and Prevention	Dental Infection Prevention and Control	Centers for Disease Control and Prevention
	https://www.cdc.gov/dental-infection-control/hcp/index.html	

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階社会歯科学講座

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

7. 教科書

ICHG 研究会編	歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄	医歯薬出版
-----------	---------------------------------	-------

8. 参考図書

石川雅彦・平田創一郎・中島丘 編著	すぐに使える！ 歯科診療室での医療安全実践ガイド 起こりやすいエラーの予防と対応策	医歯薬出版
一般社団法人日本環境感染学会	日本環境感染学会教育ツール Ver. 4	一般社団法人日本環境感染学会

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SBOs など）	方略（LS）	場所	担当者
1	9/30	火	2	1) 安全管理の考え方を説明する。 ・事故の発生要因	プレ テス ト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
2	10/7	火	2	2) 歯科医療現場における安全管理の具 体的手法を列挙する。 ・事故の防止対策	プレ テス ト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
3	10/14	火	2	3) 標準予防策を説明する。 4) 感染経路別予防策を説明する。	プレ テス ト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
4	10/21	火	2	5) 接触感染のリスクを低減する。 6) 飛沫感染のリスクを低減する。	プレ テス ト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田

5	10/28	火	2	7) 歯科医療機器と環境表面の清掃、消 毒、滅菌法を説明する。 ・滅菌・消毒・洗浄の基本	プレ テス ト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
6	11/4	火	2	7) 歯科医療機器と環境表面の清掃、消毒、 滅菌法を説明する。 ・器具・器械の滅菌・消毒・洗浄の実際	プレ テス ト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
7	11/11	火	2	8) 抗菌薬の適正使用を説明する。	プレ テス ト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田
8	11/18	火	2	8) 歯科医療現場における安全管理の具 体的手法を列挙する。 ・医療従事者の感染予防対策 9) 廃棄物の処理を説明する。 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律	プレ テス ト・ 講 義・ ポス トテ スト	14 階 教 室	平田

科目名	歯科放射線学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※ 小高研人		
ナンバリング	B0411-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

放射線学は近年、画像診断学ともよばれている。エックス線などの放射線をはじめとして、超音波、磁気などのように被曝を伴わないものも歯学部で日常診療で活躍している。

学修内容はエックス線画像、CT、CBCT、MRI、超音波検査、嚥下造影、唾液腺造影、核医学検査、放射線治療、と多彩で、歯科のほぼ全ての科に関わる。画像診断を通じて、放射線に関する幅広い教養と自律性を培い、高齢化の進展する我が国における歯科疾患の特徴を理解したうえで、画像検査を含むチーム医療における歯科衛生士の役割を確認することで、画像検査を活用して人々の健康づくりを支援できる専門的能力を修得する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
	○	○		○	○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科診療補助を適切に行うために、画像検査に必要な知識と技術、およびその背景となる科学を理解する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯科診療においてエックス線検査が果たす役割を概説する。(10%)
- 2) エックス線画像の形成について概説する。(10%)
- 3) 歯科における画像線検査の種類と方法について概説する。(30%)
- 4) 歯科のエックス線撮影における歯科衛生士の役割について概説する。(30%)
- 5) 歯科診療における放射線防護について概説する。(20%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：教科書、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義中にディスカッションを、講義終了後にポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験にて、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述などの記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書 1～19 ページを読んでおく。(10分)
- 第2回：教科書 20～26、108-120 ページを読んでおく。(10分)
- 第3回：教科書 27～44 ページを読んでおく。(10分)
- 第4回：教科書 45～61 ページを読んでおく。(10分)
- 第5回：教科書 62～96 ページを読んでおく。(10分)
- 第6回：教科書 97～107 ページを読んでおく。(10分)
- 第7回：教科書 121～126 ページを読んでおく。(10分)
- 第8回：全範囲の復習をしておく。(30分)

2) 事後学修

- 第1回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15分)
- 第2回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15分)
- 第3回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15分)
- 第4回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15分)
- 第5回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15分)
- 第6回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15分)
- 第7回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15分)
- 第8回：講義中に説明した内容について理解し、整理する。(15分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学習：講義中のディスカッションで確認する。

事後学修：講義後のポストテストで確認し、次回フィードバックを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版	医歯薬出版
--------------	-------------------------	-------

8. 参考図書

有地榮一郎、笹野高嗣、馬嶋秀行、湯浅賢治、代居 敬 監修	歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第2版	学建書院
------------------------------	-------------------------------	------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0sなど)	方略(LS)	場 所	担当者
1	11/27	木	4	歯科医療と放射線 ・歯科診療においてエックス線検査が果たす役割を概説する。 ・エックス線の性質と生体への影響を概説する。 ・歯科診療における放射線防護を概説する。	講義	14階教室	小高
2	12/1	月	4	エックス線画像の形成 ・エックス線画像の成り立ちを概説する。 ・エックス線と生体物質との相互作用を概説する。 ・エックス線フィルムとエックス線センサーを概説する。	講義	14階教室	小高
3	12/4	木	4	口内法エックス線撮影 ・口内法エックス線撮影に用いる装置の構造とフィルムの種類を述べる。 ・口内法エックス線撮影法の種類を列挙し、それぞれの特徴を述べる。	講義	14階教室	小高
4	12/12	金	1	パノラマエックス線撮影 ・パノラマエックス線撮影原理、撮影手順を概説する。	講義	14階教室	小高
5	12/19	金	1	歯科用コーンビーム CT ・コーンビーム CT の基本的概念、撮影原理と適応疾患について概説する。	講義	14階教室	小高
6	1/9	金	1	エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 ・口内法、パノラマおよびCBCTの撮影の準備手順と留意点を述べる。 ・正常な口内法およびパノラマエックス線像について概説する。	講義	14階教室	小高

7	1/16	金	1	放射線治療と口腔管理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔癌の放射線治療について説明する。 ・ 放射線治療患者の口腔管理について説明する。 	講義	14階教室	小高
8	1/23	金	1	放射線の生物学的作用と術者・患者の防護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線の生物学的作用について概説する。 ・ 歯科診療における放射線防護を概説する。 ・ 歯科医療における放射線被曝を概説する。 	講義	14階教室	小高

科目名	歯科材料学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※服部雅之、※武本真治、※笠原正彰、※染屋智子		
ナンバリング	B0412-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した教育を行っている。		

1. 教科の特徴

歯科疾患を予防または治療する過程では、種々の道具・器材を使用し、金属、セラミックス、レジンなど多種類の材料を駆使して歯の欠損を補い、口腔機能の回復を図る。その治療に用いられる種々の歯科材料は、口腔内で短時間に使用するものから、口腔内で長期に機能を維持するものまでである。これに使用される材料の理論と応用に関する学問が歯科材料学である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○	○				○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士として歯科材料を最も有効に利用し、かつ、正しい選択と取り扱い方法を身につけるために、歯科予防処置や歯科診療の補助を行う上で必要な歯科材料の基礎的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 一連の歯科診療補助で扱う歯科材料の種類と用途を説明する。(5%)
- 2) 歯科材料の機械的、物理的、化学的及び生物学的所要性質ならびに安全性の評価を説明する。(5%)
- 3) 印象材の種類と所要性質、用途を説明する。(20%)
- 4) 模型材の種類と所要性質、用途を説明する。(5%)
- 5) ワックスの種類と用途を説明する。(5%)
- 6) 歯科用レジン、成形修復材、予防填塞材の種類と用途、使用方法を説明する。(20%)
- 7) 歯冠修復材料の種類と成分及び特性を説明する。(15%)
- 8) 歯科用セメントの種類と成分および特性を説明する。(15%)
- 9) 歯科用インプラント材料の種類と構造を説明する。(5%)
- 10) 切削・研磨用材料の種類、用途を説明する。(5%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション、ポストテスト
- 3) 媒体：スライド、プリント、教科書

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
日常的な授業における取組状況
各回の講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行うことがある。
- 2) 総括的評価：
講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
毎回：該当する教科書部分を読んで、ポイントを掴んだ上で授業に臨むこと。(1回10分)
- 2) 事後学修
毎回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(1回15分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
毎回：
事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認することもある。
事後学修：講義当日の終了時にポストテストを行うこともある。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科材料	医歯薬出版
--------------------	----------------	-------

8. 参考図書

編集 服部雅之／武本真治	新編歯科理工学 第7版	学建書院
--------------	-------------	------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過後までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	9/29	月	2	歯科材料学概論／修復物・補綴装置の製作過程 ・歯科材料の種類、歯科材料がどのような目的で、どのように用いられているかを説明する。 ・修復物・補綴装置の製作過程を説明する。	講義	14階教室	服部
2	10/6	月	2	歯科材料の科学 ・歯科材料の理解に必要な諸性質を説明する。	講義	14階教室	服部
3	10/20	月	2	印象材 1 ・印象材の種類と組成、特性を説明する。	講義	14階教室	染屋
4	10/27	月	2	印象材 2／模型材／ワックス ・印象材の用途を説明する。 ・模型材の種類と特性、用途を説明する。 ・歯科用ワックスの種類、性質、取り扱い法を説明する。	講義	14階教室	染屋
5	11/10	月	2	歯冠修復材料 ・歯冠修復材料の種類を説明する。 ・歯科用合金の種類と組成、用途を説明する。 ・歯科用セラミックスの種類と組成、用途を説明する。	講義	14階教室	武本
6	11/17	月	2	歯科用セメント／接着材 ・歯科用セメントの種類、組成、性質、取り扱い法を説明する。	講義	14階教室	笠原
7	12/1	月	2	歯科用レジン／成形修復材／予防填塞材 ・歯科用レジン／成形修復材／予防填塞材の種類、組成、性質、取り扱い法を説明する。	講義	14階教室	笠原
8	12/8	月	2	切削・研磨／歯科インプラント材 ・切削・研磨に用いる道具、器具の種類と取り扱い法を説明する。 ・歯科インプラント材の種類と構造を説明する。	講義	14階教室	武本

科目名	歯内療法学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※吉田 隆		
ナンバリング	B0413-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

歯内療法学は、歯の内部である髄腔・根管、さらに根尖部周囲組織という肉眼では直視できない領域を処置対象とする臨床歯学の一分野である。一般歯科医師や歯科衛生士が、日常臨床で遭遇する確率は極めて高く、歯科治療の中心であると言っても過言ではない。また、使用する器材も細かく多岐にわたるため、診療を行なうにあたっては十分な知識を身につけておく必要がある教科である。(ディプロマポリシー1)

コンピテンシー (学修成果)							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題解決力	⑧専門的実践能力
		○		○		○	○

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

歯内療法領域疾患の診察・検査および治療において適切な介補業務を実施するために、必要な関連事項の知識を修得する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 歯内療法領域疾患の分類を説明する。(10%)
- 2) 歯内療法における診察・検査に必要な項目を説明する。(10%)
- 3) 歯髄疾患の原因・症状・処置方針を説明する。(15%)
- 4) 根尖性歯周組織疾患の原因・症状・処置方針を説明する。(15%)
- 5) 歯内療法領域疾患の治療に必要な器具を説明する。(10%)
- 6) 外傷歯の分類と処置方針を説明する。(10%)
- 7) 幼若永久歯の処置方針を説明する。(10%)
- 8) 外科的歯内療法の分類と処置方針を説明する。(10%)
- 9) 偶発症の種類と安全対策について説明する。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法 :
講義

- 2) 能動的方法 :
ポストテスト

- 3) 媒体 :
教科書、スライド、配布資料

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価 :
各講義で実施するポストテスト
- 2) 総括的評価 :
定期試験で実施する空欄補充、論述などの筆記試験 (80%)
ポストテストを評価する (20%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回に行う内容について、講義前に教科書を読むこと。(15分)
- 2) 事後学修
講義終了後に教科書・配布資料を読み、講義内容を整理、必要があればノートに追加記載しておくこと。(15分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
講義終了前にポストテストを行うことがある。

7. 教科書

古澤成博、斎藤隆史、菅野亜紀、林 美加子、村松 敬、山本一世、吉田 隆	歯科衛生士講座 保存修復学・歯内療法学	永末書店
-------------------------------------	------------------------	------

8. 参考図書

勝海一郎・興地隆史・石井信之・中田和彦 [編著]	歯内治療学第5版	医歯薬出版
--------------------------	----------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時まで

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	11/20	木	1	歯内療法概論 歯科保存治療概論 対象となる疾患 SB0s 1)2)	講義	14階教室	吉田
2	11/27	木	1	歯内療法の概要 I 歯髄疾患 分類と症状・処置方針 SB0s 1)2)3)5)	講義	14階教室	吉田
3	12/ 4	木	1	歯内療法の概要 II 根尖性歯周疾患 分類と症状・処置方針 SB0s 1)2)4)5)	講義	14階教室	吉田
4	12/11	木	1	処置の前準備・歯髄保存療法 除痛法 防湿法 仮封法 歯髄鎮痛消炎療法 覆髄法各種 SB0 2)3)5)	講義	14階教室	吉田
5	12/18	木	1	歯髄除去療法 生活断髄法 直接(麻酔)抜髄法 SB0s 2)3)5)	講義	14階教室	吉田
6	1/ 8	木	1	根管治療 I 感染根管治療 根管治療用器具 根管治療用薬剤 SB0s 4) 5)	講義	14階教室	吉田
7	1/15	木	1	根管治療 II 根管形成法 根管充填法 SB0s 3)4)5)	講義	14階教室	吉田
8	1/22	木	1	外傷歯・幼若永久歯・外科的歯内療法 ・偶発症 外傷歯・幼若永久歯の分類と対応、外科的歯内療法処置の種類、偶発症の種類と対応 SB0s 3)4)5)6)7)8)9)	講義	14階教室	吉田

科目名	保存修復学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※村松 敬、※石塚久子		
ナンバリング	B0414-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現代の歯科医療の現場に即した保存修復治療に関する講義を行っている。		

1. 教科の特徴

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○			○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科診療の補助と歯科保健指導を行うために、歯の硬組織疾患と治療を理解する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯の硬組織の常態を説明する。
- 2) 歯の硬組織疾患の病因・病態について説明する。
- 3) 歯の硬組織疾患の診断および治療計画の立案に必要な診査項目を説明する。
- 4) 修復処置における歯科衛生士の役割と業務を説明する。
- 5) 修復処置の臨床的意義と方法について説明する。
- 6) 修復処置に必要な器具の使用法および目的を説明する。
- 7) 修復処置に必要な歯科材料の特性、成分および構造を説明する。
- 8) 修復処置後の口腔内の健康管理と健康づくり支援の方法について説明する。

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
 - 講義
- 2) 能動的方法：
 - 課題、前回の講義内容の質問
- 3) 媒体：
 - 教科書、参考図書、スライド、プリント、動画など

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
 - 講義開始時に行う前回の復習（質問形式）
- 2) 総括的評価：
 - 定期試験については講義内容の理解度を空欄補充、論述、図説などの記述試験で評価する（100%）。

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書 1-2, 22-29 ページを読んでおく（10分）。
- 第2回：教科書 3-11, 24, 29-41 ページを読んでおく（10分）。
- 第3回：教科書 41-57 ページを読んでおく（10分）。
- 第4回：教科書 58-75 ページを読んでおく（10分）。
- 第5回：教科書 76-87 ページを読んでおく（10分）。
- 第6回：教科書 88-104 ページを読んでおく（10分）。
- 第7回：教科書 104-118 ページを読んでおく（10分）。
- 第8回：教科書 119-145 ページを読んでおく（10分）。

2) 事後学修

- 第1回：講義内容を教科書、配布プリントで確認する（15分）。
- 第2回：講義内容を教科書、配布プリントで確認する（15分）。
- 第3回：講義内容を教科書、配布プリントで確認する（15分）。
- 第4回：講義内容を教科書、配布プリントで確認する（15分）。
- 第5回：講義内容を教科書、配布プリントで確認する（15分）。
- 第6回：講義内容を教科書、配布プリントで確認する（15分）。
- 第7回：講義内容を教科書、配布プリントで確認する（15分）。
- 第8回：講義内容を教科書、配布プリントで確認する（15分）。

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第1回：なし
- 第2回：講義開始時に前回の講義内容を確認する（5分）。
- 第3回：講義開始時に前回の講義内容を確認する（5分）。
- 第4回：講義開始時に前回の講義内容を確認する（5分）。
- 第5回：講義開始時に前回の講義内容を確認する（5分）。
- 第6回：講義開始時に前回の講義内容を確認する（5分）。
- 第7回：講義開始時に前回の講義内容を確認する（5分）。
- 第8回：講義開始時に前回の講義内容を確認する（5分）。

7. 教科書

古澤成博、斎藤隆史、菅野亜紀、林美加子、村松敬、山本一世、吉田隆	歯科衛生士講座 保存修復学・歯内療法学	永末書店
----------------------------------	---------------------	------

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会監修	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法(初版)	医歯薬出版
----------------	---------------------------------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	10/3	金	1	保存修復学概論 目的、意義、対象疾患 保存修復学総論 1 歯の硬組織疾患 分類 う蝕 (分類、病因、病態、好発部位、進行、リスクファクター) 非う蝕性の硬組織疾患 (分類、病因、病態)	講義	14 階教室	村松
2	10/10	金	1	保存修復学総論 2 診断のための検査 修復法の分類 前準備 minimal intervention dentistry (MID)	講義	14 階教室	村松
3	10/17	金	1	保存修復学総論 3 歯の切削 う蝕除去 窩洞 (構成、分類、条件) 象牙質・歯髄複合体の保護	講義	14 階教室	村松
4	10/24	金	1	保存修復学各論① (直接修復) コンポジットレジン修復 特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助 歯質との接着メカニズム	講義	14 階教室	石塚
5	10/31	金	1	保存修復学各論① (直接修復) グラスアイオノマーセメント修復 特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助 アマルガム修復 水銀と余剰アマルガムの取り扱い	講義	14 階教室	石塚
6	11/7	金	1	保存修復学各論② (間接修復) メタルインレー修復 特徴、適応症と禁忌症	講義	14 階教	石塚

				臨床術式と補助 製作方法とその特徴		室	
7	11/14	金	1	保存修復学各論②（間接修復） セラミックインレー修復、コンポジット レジンインレー修復 特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助 製作方法とその特徴 合着・接着と修復物の仕上げ、研磨	講義	14 階 教 室	石塚
8	11/21	金	1	保存修復学各論③（変色歯への対応） ベニア修復、歯の漂白法 分類、特徴、適応症と禁忌症 臨床術式と補助	講義	14 階 教 室	石塚

科目名	歯周病学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※齋藤 淳 ※杉戸 博記		
ナンバリング	B0415-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師である教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行う。		

1. 教科の特徴

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○	○				○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士として実施する歯周病に係る歯科予防処置を理解するために、歯周治療の考え方に関する基本的な知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯周組織の構造と機能を説明する。(10%)
- 2) 歯周病の発症機序と進行を説明する。(10%)
- 3) 歯周病の症状を説明する。(10%)
- 4) 歯周病の分類を説明する。(10%)
- 5) 歯周病の原因を説明する。(10%)
- 6) 歯周病の流れを説明する。(10%)
- 7) 歯周基本治療の目的と内容を説明する。(10%)
- 8) 歯周外科治療の目的と内容を説明する。(10%)
- 9) メインテナンスとSPTを説明する。(10%)
- 10) 歯周治療における歯科衛生士の役割と業務を説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法： 講義
- 2) 能動的方法： ディスカッション（講義中に指名して回答を求める）
- 3) 媒体： 講義プリント、教科書、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義時に、講義内容に関するディスカッションを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回に行う講義内容項目に該当する教科書を読み、学修ポイント「おぼえよう」を把握しておく。(10分)
- 2) 事後学修
講義プリント等の見直しを行い、該当する教科書の章末練習問題「やってみよう」を行う。(10分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
各回の講義時に、講義内容に関するディスカッションを行う。

7. 教科書

沼部幸博、齋藤 淳、梅田 誠 編集主幹	歯科衛生士講座 歯周病学 第6版	永末書店
------------------------	------------------	------

8. 参考図書

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第1版	医歯薬出版
村上伸也、申 基喆、齋藤 淳、山田 聡 編	臨床歯周病学 第3版	医歯薬出版
沼部幸博、梅田 誠、齋藤 淳、山本松男 編集主幹	ザ・ペリオドントロジー 第4版	永末書店

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	10/2	木	1	【歯周病学概論】 歯周病の現状	講義	14階教室	杉戸
2	10/6	月	4	【歯周病学総論】 正常な歯周組織の構造と機能			
3	10/9	木	1	歯周病の発症機序と進行 歯周病の病因、リスクファクター 歯周病の分類、症状 歯周病と全身疾患との関連 (ペリオドンタルメディシン)			
4	10/23	木	1	【歯周病学各論】 歯周治療の流れ 歯周病の検査、診断 歯周病の予後の判定 歯周病の治療計画の立案	講義	14階教室	齋藤
5	10/30	木	1	歯周基本治療 意義・目的 内容 プラークコントロール スクーリング・ルートプレーニング 歯周ポケット搔爬 その他 再評価	講義	14階教室	杉戸

6	11/6	月	1	歯周外科治療 目的、要件	講義	14階教室	杉戸
7	11/13	月	1	歯周外科治療後の創傷治癒 歯周外科治療に用いる器具 組織付着療法 歯周ポケット搔爬術、 新付着術、 フラップ手術 歯周組織再生療法 組織再生誘導法、 増殖因子等を用いた再生療法 切除療法 歯肉切除術、 歯肉弁根尖側移動術、 歯槽骨の処置 歯周形成手術 有茎弁歯肉移植術 (歯肉移動術)、 遊離軟組織移植術、 小帯切除術、 口腔前庭拡張術 根分歧部病変の処置 原因、分類、検査、処置方針 処置法 歯根の保存療法、 歯根の分割抜去 (切断除去) 療法			
8	11/17	月	4	口腔機能回復治療 目的、処置法 メンテナンス/SPT 意義・目的、実施内容、移行時期 メンテナンスとSPTの違い 実施間隔 (リコール) 薬物療法 使用薬剤とその目的 投与方法 (局所的/全身的投与) (局所薬物配送システムを含む) 口臭 口臭症の国際分類、検査法、治療法	講義	14階教室	杉戸

科目名	歯科補綴学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※関根秀志, ※野本俊太郎, ※四ツ谷護		
ナンバリング	B0416-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院等での勤務経験を活かし、現場に即した教育を行っている。		

1. 教科の特徴

補綴とは、歯・歯列・顎骨・顔面の一部あるいはすべての欠損を人工物で補い、低下または失われた機能（咀嚼、嚥下、構音）と、口元および顔貌の審美性（見た目）を改善・回復することである。これに用いる人工物を「補綴装置」といい、補綴装置を口の中あるいは顔面の装着する治療を「補綴歯科治療」という。「歯科補綴学」とは、このような治療を考究する学問のことである。この歯科治療学Ⅲ（歯科補綴学）の履修により、補綴歯科治療を受けた患者に対して、歯科疾患の予防および口腔衛生の向上を図り、正常な咀嚼・嚥下機能により個人の健康を増進させ、健康づくりを支援できる能力を確実なものとする（ディプロマポリシー1）。またあわせて、医療、介護の部分においても、医師、看護師などの多職種と協調して歯科保健医療が提供できる能力を確実なものとする（ディプロマポリシー3）。

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○	○	○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

適切な口腔保健指導および円滑な歯科診療補助、正常な咀嚼・嚥下機能により個人の健康を増進させ健康づくりを支援、医師や看護師などの多職種と協調した歯科保健医療、を行うために、補綴治療に関する基礎的な知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 補綴歯科治療の目的を概説する。（4%）
- 2) 歯の欠損に伴う生理的变化を説明する。（4%）
- 3) 補綴装置の種類とその特徴を概説する。（5%）
- 4) 補綴歯科治療における咬合と歯列にかかわる基本的な用語を概説する。（5%）
- 5) 口腔機能の特徴を説明する。（4%）
- 6) 顎関節の構造と機能を説明する。（4%）
- 7) 口腔内の検査を説明する。（4%）

- 8) 画像検査の種類と特徴を説明する。（4%）
- 9) クラウン・ブリッジ治療の特徴を概説する。（4%）
- 10) クラウン・ブリッジ治療の流れに沿った器材を準備できる列挙する。（4%）
- 11) クラウン・ブリッジ治療の患者への説明と指導が実施できる（4%）
- 12) クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応が説明する。（4%）
- 13) 全部床義歯治療の特徴を説明する。（4%）
- 14) 全部床義歯治療の流れに沿った器材を準備できる列挙する。（4%）
- 15) 全部床義歯治療の患者への説明と指導が実施できる（4%）
- 16) 全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応が説明する。（4%）
- 17) 部分床義歯治療の特徴を概説する。（4%）
- 18) 部分床義歯治療の流れに沿った器材を準備できる列挙する。（4%）
- 19) 部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる内容を列挙する。（4%）
- 20) 部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明する。（4%）
- 21) 顎顔面補綴治療の特徴を概説する。（2%）
- 22) 構音・嚥下機能の補綴治療の特徴を概説する。（2%）
- 23) 顎関節症と歯ぎしりの治療の特徴を概説する。（2%）
- 24) スポーツ外傷の特徴を概説する。（2%）
- 25) 睡眠時無呼吸症候群の治療を概説する。（2%）
- 26) 補綴歯科治療における器材管理の概要を説明する。（4%）
- 27) 歯科技工士との連携を説明する。（4%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的な方法：
 - 講義
- 2) 能動的な方法：
 - ディスカッション
- 3) 媒体：
 - 教科書、スライド、配布資料

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
 - 各回の講義内で、無作為に学生を指名して質問して解答させる。
- 2) 総括的評価：
 - 定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述で評価する（100%）

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書 P 2～P11 P26～28 を読んでおく (15分)
- 第2回：教科書 P29～P47 を読んでおく (15分)
- 第3回：教科書 P48～P67 を読んでおく (15分)
- 第4回：教科書 P68～P78 P12～16 を読んでおく (15分)
- 第5回：教科書 P78～P88 を読んでおく (15分)
- 第6回：教科書 P88～P93 を読んでおく (15分)
- 第7回：教科書 P95～P108 を読んでおく (15分)
- 第8回：教科書 P109～P114 P16～ P18 を読んでおく (15分)
- 第9回：教科書 P114～P131 を読んでおく (15分)
- 第10回：教科書 P131～P141 を読んでおく (15分)
- 第11回：教科書 P141～P146 P18～P23 を読んでおく (15分)
- 第12回：教科書 P146～P161 を読んでおく (15分)
- 第13回：教科書 P161～P174 を読んでおく (15分)
- 第14回：教科書 P209～P219 を読んでおく (15分)
- 第15回：教科書 P220～P225 を読んでおく (15分)

2) 事後学修

- 第1回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第2回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第3回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第4回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第5回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第6回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第7回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第8回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第9回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第10回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第11回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第12回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第13回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第14回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)
- 第15回：教科書, 配布資料を再確認し, 重要なポイントを確認する (10分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修： 各回の講義内で, 無作為に学生を指名して当日の講義に関する質問を解答さ

せ, 事前学修の確認をする.

事後学修： 次回の講義開始時に, 無作為に学生を指名して前回の授業に関する質問を解答させ, その理解度と事後学修の確認をする.

7. 教科書

(一社)全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学(第1版)	医歯薬出版
---------------------	----------------------	-------

8. 参考図書

(公社)日本補綴歯科学会 編	歯科補綴学専門用語集 (第6版)	医歯薬出版 https://www.hotetsu.com/files/f664/pword_v6.pdf
----------------	------------------	--

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として, 授業の開始から20分経過までを遅刻とし, それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には, 欠席扱いとする.

ただし, 交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には, 証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること.

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	9/29	月	1	I. 補綴歯科治療の基礎知識 1. 補綴治療の概要 ① 補綴とは ② 補綴歯科治療の意義と目的 ③ 歯の欠損に伴う生理的变化 ⑤ 補綴歯科治療における 歯科衛生士の役割	講義	14階教室	関根
2	10/6	月	1	I. 補綴歯科治療の基礎知識 2. 補綴歯科治療の基礎知識 ① 歯列と咬合 ② 補綴学的基準平面 ③ 口腔の機能 ④ 顎関節の構造・機能と病態	講義	14階教室	野本
3	10/20	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 1. 補綴歯科治療における検査 ① 医療面接と診察 ② 口腔内の検査 ③ 画像検査 ④ 咬合と顎口腔機能の検査	講義	14階教室	野本
4	10/27	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 2. クラウン・ブリッジ治療 ① クラウン・ブリッジ治療の概要	講義	14階教室	野本
5	11/10	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 2. クラウン・ブリッジ治療 ② クラウン・ブリッジ治療の流れ と診療の補助	講義	14階教室	野本
6	11/17	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 2. クラウン・ブリッジ治療 ② クラウン・ブリッジ治療の流れ と診療の補助	講義	14階教室	野本

7	12/1	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 2. クラウン・ブリッジ治療 ③ クラウン・ブリッジ治療に 関連する併発症とその対応	講義	14階教室	野本
8	12/8	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ① 全部床義歯治療の概要	講義	14階教室	四ツ谷
9	12/8	月	4	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ② 全部床義歯治療の流れと 診療の補助	講義	14階教室	四ツ谷
10	12/15	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ③ 全部床義歯治療に関連する 併発症とその対応	講義	14階教室	四ツ谷
11	12/15	月	4	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ④ 部分床義歯治療の概要	講義	14階教室	四ツ谷
12	12/22	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ⑤ 部分床義歯治療の流れと 診療の補助	講義	14階教室	四ツ谷
13	12/22	月	4	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 3. 有床義歯治療 ⑥ 部分床義歯治療に関連する 併発症とその対応	講義	14階教室	四ツ谷

14	1/19	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 5. 特殊な口腔内装置を用いる治療 ① 顎顔面補綴治療 ② 構音・嚥下機能の補助治療 ③ 顎関節症と歯ぎしりの治療 ④ スポーツ外傷の予防 ⑤ 睡眠時無呼吸症候群の 歯科的治療	講義	14 階 教 室	四ツ谷
15	1/26	月	1	II. 補綴歯科治療の実際と 歯科衛生士の役割 6. 補綴歯科治療における器材の管理 ① 器具・器材別滅菌, 消毒, 洗浄保管 ② 歯科技工士との連携	講義	14 階 教 室	関根

科目名	歯科衛生学概論	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※鳥山佳則		
ナンバリング	B0501-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	鳥山（歯科医師）は厚生労働省に長年勤務し、歯科衛生士法などに精通している。		

1. 教科の特徴

歯科衛生学概論は、4つのディプロマポリシーをすべて含み、歯科衛生士になるための第一歩を学修する科目である。歯科衛生士は歯科衛生士法を根拠とする国家資格であり、歯科衛生士の業務の理解には、まず、歯科衛生士法を正しく理解することが必要である。また、地域包括ケアシステムが推進される中、多職種との協働には、各々の職種の専門性を理解することが必要であり、そのことで歯科衛生士の専門性への理解がより深まる。

法律の条文の解説など堅苦しい内容も、理解しやすいように、オリジナルテキストで学修する。要所要所で演習シートの作成・発表を行い、能動的な学修を行う。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○		○			○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

多職種連携、地域包括ケアシステムに対応できる歯科衛生士になるために、歯科衛生士法および多職種の専門性に関連した基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 超高齢社会における歯科衛生士の役割について説明する。(5%)
- 2) 患者さんの立場と歯科衛生士の立場を説明する。(3%)
- 3) 歯科衛生士法の成り立ち、業務について説明する。(26%)
- 4) 歯科衛生士の登録、免許証の交付について説明する。(10%)
- 5) 歯科衛生士の義務について説明する。(10%)
- 6) 歯科衛生士と医療倫理について説明する。(10%)
- 7) 歯科医師法と歯科技工士法について説明する。(8%)
- 8) 医療関係職種について説明する。(20%)
- 9) 福祉関係職種について説明する。(8%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
演習 ・与えられた課題についてシートに記入し、指名された者は口頭発表する。
・試験問題形式により知識を整理・定着させる。
- 3) 媒体：
オリジナルテキスト、教科書、演習

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
プレテスト、ポストテスト
- 2) 総括的評価：
筆記試験（100%） 正誤+空欄補充+多肢選択（合計70%）、論述（30%）

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回の内容で示したオリジナルテキストの該当箇所を通読する。(15分)
- 2) 事後学修
講義内容を振り返り、重要箇所を確認する。
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第2回から第7回、第9回から第11回、第13回は、プレテスト、ポストテスト（第1回、8回、12回、14回、15回は、演習のため、プレテスト、ポストテストは実施しない。）

7. 教科書

鳥山佳則	歯科衛生学概論 2025	オリジナルテキスト
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 保健・医療・福祉の制度 第1版第3刷	医歯薬出版

8. 参考図書

なし

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/10	木	3	シラバス説明 演習 演習シート「歯科衛生士の専門性」を作成・発表する。	講義 演習	14 階 教室	鳥山
2	4/17	木	3	超高齢社会と歯科衛生士 (オリジナルテキスト①) ・超高齢社会における歯科衛生士の役割を説明する。	講義	14 階 教室	鳥山
3	4/24	木	3	患者さんの立場と歯科衛生士の立場 (オリジナルテキスト②) ・患者さんの立場と歯科衛生士の立場の違いを説明する。	講義	14 階 教室	鳥山
4	4/25	金	3	歯科衛生士法 1 (オリジナルテキスト③1-45) ・歯科衛生士法の成り立ちを説明する。 ・歯科衛生士法の目的を説明する。 ・歯科予防処置を説明する。 ・歯科診療の補助を説明する。 ・歯科保健指導を説明する。	講義	14 階 教室	鳥山
5	5/15	木	3	歯科衛生士法 2 (オリジナルテキスト③49-86) ・免許の申請と登録の手続きを説明する。 ・名簿の訂正の手続きを説明する。 ・法律、政令、省令の違いを説明する。	講義	14 階 教室	鳥山
6	5/23	金	1	歯科衛生士法 3 (オリジナルテキスト③87-125、③-2) ・業務従事届を説明する。 ・欠格事由を説明する。 ・受験資格、受験手続を説明する。 ・守秘義務を説明する。 ・業務記録を説明する。 ・指定登録/指定試験機関を説明する。	講義	14 階 教室	鳥山

7	5/29	木	3	歯科衛生士と医療倫理 (オリジナルテキスト④) ・インフォームド・コンセントを説明する。 ・ジュネーブ宣言、リスボン宣言、ヘルシンキ宣言を説明する。 ・個人情報保護を説明する。	講義	14階教室	鳥山
8	6/5	木	3	演習 歯科衛生士法および医療倫理に関する演習問題に回答し、知識を整理定着する。	演習 講義	14階教室	鳥山
9	6/12	木	3	歯科医師法 (オリジナルテキスト⑤) 演習 ・演習シート「応招義務」を作成・発表する。 講義 ・歯科医師法を説明する。	演習 講義	14階教室	鳥山
10	6/19	木	3	歯科技工士法 (オリジナルテキスト⑥) ・歯科技工士法を説明する。 医療関係職種 1 (オリジナルテキスト⑦) ・医療関係職種を説明する。	講義	14階教室	鳥山
11	6/26	木	3	医療関係職種 2 (オリジナルテキスト⑦) ・医療関係職種を説明する。	講義	14階教室	鳥山
12	7/3	木	3	演習 ・演習シート(医療関係職種、歯科衛生士の専門性)を作成・発表する。	演習	14階教室	鳥山
13	7/10	木	3	福祉関係職種 (オリジナルテキスト⑧) ・福祉関係職種を説明する。	講義	14階教室	鳥山

14	7/17	木	3	総復習 1 講義内容全般について演習問題に解答し、知識を整理定着する。	演習 講義	14階教室	鳥山
15	9/4	木	3	総復習 2 講義内容全般について演習問題に解答し、知識を整理定着する。	演習 講義	14階教室	鳥山

科目名	歯科疾患予防論	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※多田美穂子、※永井由美子、※岩澤菜々恵		
ナンバリング	B0502-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

健康づくりの観点から口腔の健康が全身の健康につながるという社会の認識の高まりにより、疾病が生じる前の予防行動の大切さが社会的に広まってきている。

歯科疾患予防論は、歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進する目的で、情報収集・整理・分析とニーズの判断、計画、実践、評価を実施していくために必要な専門的予防法の知識を学ぶ教科である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題解決力	⑧専門的実践能力
					○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

個人の口腔の健康を維持・増進を支援するために、う蝕と歯周疾患の病因を理解し、その予防方法の基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 正常な歯と歯周組織の構造を説明する。（5％）
- 2) 歯の付着物、沈着物を説明する。（5％）
- 3) 口腔衛生状態の指標を説明する。（3％）
- 4) プラークコントロールの目的と方法を説明する。（2％）
- 5) う蝕の病因を説明する。（3％）
- 6) う蝕予防の概念を説明する。（3％）
- 7) う蝕の指数を説明する。（2％）
- 8) う蝕活動性試験の臨床的意義・目的を説明する。（4％）
- 9) う蝕活動性試験の実施方法を説明する。（2％）
- 10) う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を列挙する。（3％）
- 11) フッ化物応用の安全性を説明する。（1％）
- 12) フッ化物による急性中毒への対応法を説明する。（2％）
- 13) う蝕予防のプロフェッショナルケアの術式を説明する。（5％）

- 14) う蝕予防のホームケアを説明する。（5％）
- 15) 小窩裂溝充填法の意義を説明する。（1％）
- 16) 小窩裂溝充填法の種類を列挙する。（2％）
- 17) 小窩裂溝充填法の手順を説明する。（2％）
- 18) 歯周疾患の病因と病態を説明する。（7％）
- 19) 歯周疾患のリスクファクターを説明する。（7％）
- 20) 歯周疾患の検査方法を説明する。（8％）
- 21) 歯石除去の方法と使用器具の特徴を説明する。（12％）
- 22) 歯周組織への洗浄、消毒の目的と方法を説明する。（3％）
- 23) 歯面研磨の目的と方法を説明する。（6％）
- 24) 歯面清掃研磨器の目的と種類、方法を説明する。（3％）
- 25) 予防処置時のポジションを説明する。（4％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
プレテスト、ポストテスト、ディスカッション、演習
- 3) 媒体：
教科書 参考図書 配布資料（プリント）PowerPoint

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
次週講義前にポストテストを実施。また、講義内のディスカッションにおいて、学生の理解度を把握する。この両者を平常点として評価する。
- 2) 総括的評価：
定期試験 記述式、多肢選択式による出題を行い、評価する。（90％）
平常点（10％）

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修（各15～30分）
第1～15回：各回の内容項目に記載してある教科書ページを読んでおくこと。
- 2) 事後学修（各15～30分）
第1～15回：講義内容の重要なポイントを配布プリントや教科書を利用して、講義中に記載した内容を再確認して、講義ノートを作成する。
ポストテストの結果からポイントを再確認する。

3) 事前学修・事後学修の評価

第1～15回：講義内で実施するポストテストにて評価（形式的評価）を行う。
提出された質問に回答、コメントする。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 第2版 歯科予防処置論・歯科保健指導論	医歯薬出版
--------------------	----------------------------------	-------

8. 参考図書

E・M・ウィルキンス 著／遠藤圭子、中垣晴男、西真紀子、眞木吉信、松井恭平、山根 瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス歯科衛生士の臨床原著第11版	医歯薬出版
荒川浩久、尾崎哲則、神原正樹、三宅達郎 編著	歯科衛生士テキスト 口腔衛生学第3版 一口腔保健統計を含むー	学建書院
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯周病学	医歯薬出版
沼部幸博、齋藤 淳、梅田 誠	歯科衛生士講座 歯周病学 (第5版)	永末書店
一般財団法人 日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会 編	フッ化物応用の科学	一般財団法人 口腔保健協会
社会保険研究所	う蝕予防の実際 フッ化物局所応用 実施マニュアル	日本口腔衛生 学会フッ化物 応用委員会

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/14	月	2	SBOs : 1)、2) <u>教科書 P16～22 28～32 16～25 28～32 132～142</u> 正常な歯と歯周組織の構造を説明する。 歯の付着物、沈着物を説明する。 ①口腔細菌 ②プラーク(口腔バイオフィルム) ③歯石 ④着色 ⑤食物残渣 ⑥マテリアアルバ ⑦ペリクル	講義	14 階 教室	多田 岩澤
2	4/21	月	2	SBOs : 3)、4) <u>教科書 P126～130</u> ・口腔衛生状態の指数を説明する。 ①Plaque Control Record(PCR) ②OHI ③OHI-S ④PDI ⑤PHP <u>教科書 P222～233</u> プラークコントロールの目的と方法を説明する。 ① 目的 ② ホームケア ③ プロフェッショナルケア	講義	14 階 教室	岩澤 多田
3	4/28	月	2	SBOs : 5)、6)、7) <u>教科書 P2～4 32～38 134～136 140～152</u> ・う蝕の病因を説明する。 ① 宿主因子 ② 微生物因子 ③ 食餌因子 ・う蝕の予防概念を説明する。 ・う蝕の指数: DMF、def、dmf	講義	14 階 教室	多田
4	5/12	月	2	SBOs : 8)、9) <u>教科書 P140～152</u> カリエスリスクテスト(う蝕活動性試験)の意義、使用方法を説明する。 カリエスリスク評価を概説する。	講義	14 階 教室	多田

5	5/19	月	2	SB0 s : 10)、11)、12) <u>教科書 P206～217 231～234</u> う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明する。 フッ化物応用の安全性と急性中毒への対処法 ① プロフェッショナルケア 溶液の種類、術式、安全性	講義	14階教室	多田
6	5/26	月	2	SB0 s : 10)、13) <u>教科書 P217～231 234～236</u> う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。 ② ホームケア 種類、方法 ・カリエスリスクに応じた予防方法を説明する。	講義	14階教室	多田
7	6/2	月	2	SB0 s : 15)、16)、17) <u>教科書 P236～242</u> う蝕予防における小窩裂溝填塞法（フィッシャーシーラント）を説明する。 ① 適応歯 ② 填塞剤の種類と特徴 ③ 術式	講義	14階教室	多田
8	6/9	月	2	SB0 s : 18)、19) <u>教科書 P37～43・79・350～355</u> 1. 歯周疾患の原因と病態を説明する。 ① 歯周病について ② 歯肉炎と歯周炎について 2. 歯周疾患のリスクファクターを説明する。 ① 成人期の口腔内の特徴 ② プラークリテンションファクター	講義	14階教室	永井

9	6/16	月	2	SB0 s : 20)、21) <u>教科書 P144～153</u> 1. 歯周疾患の検査項目を説明する。 ① 歯周ポケット測定 ② 歯の動揺度 ③ 口臭 2. 歯周疾患 ① PMA Index ② 歯周疾患指数 PI ③ 歯肉炎指数 GI ④ GB Count ⑤ 地域歯周疾患指数 CPI	講義	14階教室	永井
10	6/23	月	2	SB0 s : 20)、21) <u>教科書 P185～186 190～201</u> 歯石除去の方法と使用器具の特徴を説明する。(1) ① スケーラーの種類 ② 手用スケーラーの種類と構成 ③ 手用スケーラーの操作方法	講義	14階教室	永井
11	6/30	月	2	SB0 s : 20)、21) <u>教科書 P186～201</u> 歯石除去の方法と使用器具の特徴を説明する。(2) ① 手用スケーラーの把持方法 ② ポジション	講義	14階教室	永井
12	7/7	月	2	SB0 s : 20)、21) <u>教科書 P209～220</u> 歯石除去の方法と使用器具の特徴を説明する。(3) ① パワースケーラーの種類 ② 使用時の注意事項 ③ 操作方法	講義	14階教室	永井

13	7/14	月	2	<p>SBO s : 22)、23)、24)</p> <p><u>教科書 P222～227</u></p> <p>1. 歯周組織への洗浄、消毒の目的と方法を説明する。</p> <p>① イリゲーション</p> <p>2. 歯面研磨の目的と方法を説明する。</p> <p>① 歯面研磨の目的</p> <p>② 歯面研磨剤</p> <p>③ 使用器材と操作方法</p> <p>④ 操作時の注意事項</p>	講義	14階教室	永井岩澤
14	9/1	月	2	<p>SBO s : 23)、24)</p> <p><u>教科書 P222～227</u></p> <p>3. 歯面清掃研磨器の使用目的と種類、方法を説明する。</p> <p>① エアブレーション</p> <p>② ソニックブラシシステム</p>	講義	14階教室	永井岩澤
15	9/8	月	2	<p>SBO s : 25)</p> <p><u>教科書 P187～201</u></p> <p>予防処置時のポジションを説明する。</p> <p>① 部位別のポジション</p> <p>② スケーリングの基本操作</p>	講義 演習	14階教室・実験室	永井多田岩澤

科目名	小児歯科学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※新谷誠康、※櫻井敦朗、※辻野啓一郎、※本間宏実		
ナンバリング	B0503-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として成長発育系・小児歯科臨床の勤務経験を有する教員が、その実務経験を十分に活かして小児歯科学の講義を行なうことで、学問的かつ実践的知識を短期大学生に習得させることができる。		

1. 教科の特徴

- 1) 歯科衛生士として小児の歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力を育む。
- 2) 少子高齢化が進むなかで、おろそかにされがちな小児の健康増進に対応する。
- 3) 専門職として多職種と協働して小児の歯科保健医療を提供する能力を育む。
- 4) 成長発育の過程にある小児の歯科保健を通して、地域社会の様々な場に対応し健全な口腔器官の育成にあたることのできる能力を育む。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○	○	○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士として小児歯科臨床におけるチーム診療を適切に行うために、小児期の口腔疾患および異常に関する知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 小児の心身の成長・発達を説明する。（10～15％）
- 2) 顎・顔面の成長過程を説明する。（10～15％）
- 3) 歯列・咬合の成長過程を説明する。（10～15％）
- 4) 歯の発育と異常を説明する。（10～15％）
- 5) 小児期の口腔疾患と治療法を説明する。（10～15％）
- 6) 小児の齲蝕予防の考え方を説明する。（10～15％）
- 7) 小児患者への対応法を説明する。（10～15％）
- 8) 小児患者の歯科保健指導と健康づくり支援に必要な知識と技能を説明する。（10～15％）
- 9) 障害の概念、種類と障害児の歯科的特徴を説明する。（10～15％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的の方法：
講義
- 2) 能動的の方法：
ディスカッション
- 3) 媒体：
教科書、スライド、講義資料プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（100％）

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書1～3 ページを読んでおく。（10分）
 第2回：教科書4～18 ページを読んでおく。（10分）
 第3回：教科書19～25 ページを読んでおく。（10分）
 第4回：教科書122～147 ページを読んでおく。（10分）
 第5回：教科書148～163 ページを読んでおく。（10分）
 第6回：教科書26～42 ページを読んでおく。（10分）
 第7回：教科書43～50 ページを読んでおく。（10分）
 第8回：教科書51～61 ページを読んでおく。（10分）
 第9回：教科書62～73 ページを読んでおく。（10分）
 第10回：教科書74～92 ページを読んでおく。（10分）
 第11回：教科書93～121 ページを読んでおく。（10分）
 第12回：教科書164～184 ページを読んでおく。（10分）
 第13回：教科書185～193 ページを読んでおく。（10分）
 第14回：教科書194～227 ページを読んでおく。（10分）
 第15回：教科書228～242 ページを読んでおく。（10分）

2) 事後学修

- 第1～15回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。（15分）

3) 事前学修・事後学修の評価

- 事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
 事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

編集主幹 新谷誠康	歯科衛生士講座 小児歯科学 第2版	永末書店
-----------	----------------------	------

8. 参考図書

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 小児歯科 第2版	医歯薬出版
------------------------------	-----------------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/1	水	1	1. 小児歯科学とは SB0s : 1), 8)	講義	14 階 教 室	新谷
2	10/8	水	1	2. 心身の発育 SB0s : 1)	講義	14 階 教 室	辻野
3	10/15	水	1	4. 歯の発育と異常 SB0s : 4)	講義	14 階 教 室	本間
4	10/22	水	1	12. 小児歯科における局所麻酔法 13. 小児の歯冠修復 SB0s : 5)	講義	14 階 教 室	辻野
5	10/29	水	1	14. 歯内療法 SB0s : 5)	講義	14 階 教 室	辻野
6	11/5	水	1	3. 頭蓋と顎の成長発育 SB0s : 1), 2)	講義	14 階 教 室	辻野
7	11/12	水	1	5. 歯列および咬合の発育と異常 SB0s : 3)	講義	14 階 教 室	本間
8	11/19	水	1	6. 歯科口腔保健管理 SB0s : 8)	講義	14 階 教 室	本間

9	11/26	水	1	7. 小児の歯科的対応 SB0s : 7)	講義	14 階 教室	本間
10	12/3	水	1	8. 小児の歯科疾患 SB0s : 5)	講義	14 階 教室	櫻井
11	12/10	水	1	9. 口腔機能発達不全症 10. 小児歯科診療の基本 11. 診察・検査 SB0s : 5), 7), 8)	講義	14 階 教室	櫻井
12	12/17	水	1	15. 外科的処置 16. 外傷の処置 SB0s : 5)	講義	14 階 教室	本間
13	12/24	水	1	17. 咬合誘導 SB0s : 5)	講義	14 階 教室	辻野
14	1/14	水	1	18. う蝕の予防処置と進行抑制 19. リコール (定期健診) SB0s : 5), 6), 8)	講義	14 階 教室	櫻井
15	1/21	水	1	20. 障害児の歯科治療 SB0s : 9)	講義	14 階 教室	櫻井

科目名	スペシャルニーズ歯科学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※福田謙一、※太田雄一郎、※加藤栄助、※國奥有希		
ナンバリング	B0504-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として総合病院や診療所等での実務経験のある教員による、通常の歯科治療の施行が困難なスペシャルニーズ患者への歯科における対応や顔面領域の疼痛への治療に対する補助について講義を行う。		

1. 教科の特徴

障害などによって社会生活に障壁のある患者さんや通常の歯科治療の施行が困難なスペシャルニーズ患者への歯科における対応について学習する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○				○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生士として、スペシャルニーズ患者に対する歯科診療補助行為と歯科保健指導を適切に行うために以下の2つを一般目標とする。

- 1) 様々な障害の病態、能力不全を理解し、歯科治療を安全に施すうえで考慮しなければならない基本的知識を修得する。
- 2) 口腔顔面領域の特殊な疼痛疾患や感覚障害、運動神経麻痺の病態や心理状態を理解するために必要な歯科臨床における基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 障害の概念、種類とそれぞれの障害疾患の特徴を説明する(25%)
- 2) それぞれの障害疾患の歯科的特徴を説明する(25%)
- 3) 障害者の対応法を説明する(15%)
- 4) 障害者に対する歯科保健指導と健康づくり支援に必要な知識と技能を説明する(15%)
- 5) 障害者の行動調整法を説明する(15%)
- 6) 痛みとその管理について説明する(5%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的な方法：講義中の討論
- 3) 媒体：教科書、講義資料

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の授業における重要なポイントを把握するため、小テストを行う
- 2) 総括的評価：
講義内容の理解度を筆記試験にて評価する(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
第1回：教科書1-12ページを読んでおく(15分)
- 2) 事後学修
第1回：講義資料から重要事項をリストアップする(15分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第1回：事前学修 講義当日の開始時にプレテストで確認する
事後学修 次回講義の開始時にポストテストを行う

7. 教科書

一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科	医歯薬出版
-----------------------	-----------------	-------

8. 参考図書

緒方克也、柿木保明 編集	歯科衛生士講座 障害者歯科学	永末書店
--------------	----------------	------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	12/11	木	4	障害の概念を説明できる (障害の概念、ノーマライゼーション、国際障害分類)	講義	14階教室	加藤
2	12/15	月	3	障害の種類とそれぞれの障害疾患の特徴を説明できる。 精神発達・心理的発達と行動の障害	講義	14階教室	太田
3	12/22	月	3	薬を使用した行動調整を理解する 痛みの概念と除痛法を理解する 侵害受容性疼痛(歯髄炎など)発生の仕組みを理解する	講義	14階教室	福田
4	1/8	木	4	障害の種類とそれぞれの障害疾患の特徴を説明できる。 精神発達・心理的発達と行動の障害(2)	講義	14階教室	加藤
5	1/19	月	3	障害の種類と歯科の特徴を説明できる。 (神経・運動障害)	講義	14階教室	太田
6	1/22	木	4	行動調整、健康支援、障害者の歯科治療を説明できる。	講義	14階教室	加藤
7	1/26	月	3	障害の種類と歯科の特徴を説明できる。 (感覚障害、音声言語障害、精神および行動の障害)	講義	14階教室	國奥
8	1/26	月	4	口腔顔面領域の痛みの種類や治療を理解する。 神経や筋肉の痛みを理解する。 1年のまとめ	講義	14階教室	國奥

科目名	高齢者歯科学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※上田 貴之・※竜 正大・※中島純子・※高野智史・※太田 緑		
ナンバリング	B0505-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

高齢者歯科学は、高齢者の歯科治療だけではなく、高齢期の口腔機能管理などを通じて、食べる機能、話す機能の低下を防ぐことで、全身の健康を守り、寝たきり予防し、健康長寿に歯科から支える学問である。高齢者の歯科保健・医療・福祉の分野における科学と技術を学ぶことで本学のディプロマポリシーに掲げる歯科衛生士を育成する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○	○	○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

高齢者に対する歯科衛生士業務を適切に実施するために必要な知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 高齢者を取り巻く社会を説明する。(10%)
- 2) 加齢の科学を説明する。(10%)
- 3) 高齢者における口腔領域の疾患を説明する。(10%)
- 4) 全身状態の把握と対応を説明する。(10%)
- 5) 高齢者歯科医療の場を説明する。(10%)
- 6) 口腔衛生管理を説明する。(10%)
- 7) 摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明する。(10%)
- 8) 介護保険における歯科衛生士の役割を説明する。(10%)
- 9) 高齢者の口腔機能の評価と管理を説明する。(10%)
- 10) オーラルフレイルと口腔機能低下症を説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的な方法：講義
- 2) 能動的な方法：ポストテスト
- 3) 媒体：スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：客観試験（各回授業終了時）、レポート
- 2) 総括的評価：筆記試験（100%）

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回で教科書の関連する章の「おぼえよう」の項目を読んでおく。(10分)
- 2) 事後学修
各回で教科書の関連する章の「やってみよう」の問題を再確認する。(15分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
事前学習：講義中に確認テストを行う。
事後学習：教科書の「やってみよう」の問題を回答する。

7. 教科書

森戸光彦 編集主幹	歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第4版	永末書店
上田貴之 編著	診療室ではじめよう！口腔機能管理と栄養指導 第2版	永末書店

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学	医歯薬出版
-----------------	------------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時／本館8階 老年歯科補綴学講座医局

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	9/30	火	1	①高齢社会を説明できる。 1. 高齢社会における歯科衛生士の役割 2. 口腔健康管理 3. 社会環境	講義	14階教室	高野
2	10/7	火	1	① 高齢社会を説明できる。 4. 高齢者のための社会保障制度 5. 地域包括ケアシステム	講義	14階教室	上田
3	10/14	火	1	②加齢の科学を説明できる。 1. 加齢と老化 2. 各組織、各器官の老化 3. 身体機能の老化 4. 精神・心理的变化	講義	14階教室	上田
4	10/21	火	1	②加齢の科学を説明できる。 5. 老化による口腔内の形態変化 6. 老化による口腔機能の変化	講義	14階教室	上田
5	10/28	火	1	③高齢者の歯科医療を説明できる。 1. 患者本人と取り巻く環境の把握	講義	14階教室	高野
6	11/4	火	1	③高齢者の歯科医療を説明できる。 2. 配慮が必要な患者への対応	講義	14階教室	高野
7	11/11	火	1	④生活機能を低下させる疾患・症候を説明できる。 1. 生活機能とその評価 2. 生活機能を低下させる全身状態と疾患	講義	14階教室	高野
8	11/18	火	1	④生活機能を低下させる疾患・症候を説明できる。 2. 生活機能を低下させる全身状態と疾患 3. 生活機能の低下と介護	講義	14階教室	高野

9	11/25	火	1	⑤通院困難者の病態と対応を説明できる。 1. 歯科訪問診療	講義	14階教室	太田
10	12/2	火	1	⑤通院困難者の病態と対応を説明できる。 2. 栄養管理・食生活指導	講義	14階教室	太田
11	12/9	火	1	⑤通院困難者の病態と対応を説明できる。 3. 医療・介護技術 4. 服薬管理	講義	14階教室	竜
12	12/16	火	1	⑥高齢者の摂食嚥下障害への対応を説明できる 1. 摂食嚥下障害	講義	14階教室	中島
13	12/23	火	1	⑥高齢者の摂食嚥下障害への対応を説明できる。 1. 摂食嚥下障害 2. リスク管理	講義	14階教室	中島
14	1/13	火	1	⑦口腔健康管理を説明できる。 1. 歯科衛生過程(歯科衛生ケアプロセス) 2. 高齢者の問題抽出のためのアセスメント 3. 高齢者への口腔衛生管理	講義	14階教室	竜
15	1/20	火	1	⑦口腔健康管理を説明できる。 4. 高齢者への口腔機能管理 5. 高齢者への食生活指導 6. 高齢者への健康教育 *総括	講義	14階教室	上田

科目名	実習Ⅰ（歯科予防処置）	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※多田美穂子、※永井由美子、※杉戸博記、※岩澤菜々恵		
ナンバリング	B0507-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した実習を行っている。		

1. 教科の特徴

健康づくりの観点から口腔の健康が全身の健康につながるという社会の認識の高まりにより問題が生じてからの対応ではなく、予防を心がけて行動することの大切さが広まっている。

対象者の歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために、歯科疾患予防論を受講の上、十分な技能を身につけて、実践する専門的処置を学ぶ教科である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実習能力
	○		○	○	○		○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯周疾患とう蝕の予防処置を行うために必要な知識、技能および態度を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯科予防処置に使用する器具器材の用途を説明する。（2%）
- 2) 口腔内検査項目に合わせて、使用する器材と操作方法を組み合わせる。（2%）
- 3) 模型上で歯周ポケット測定する。（6%）
- 4) 術部に応じたポジションで予防処置を実施する。（8%）
- 5) 機械的スクレーラーを操作する。（15%）
- 6) 手用スクレーラーを操作する。（20%）
- 7) 歯面研磨（PMTc）に使用する器具器材を選択する。（2%）
- 8) 模型上で歯面研磨を実施する。（5%）
- 9) 歯周ポケット洗浄・貼薬の操作方法を模型上で実施する。（2%）
- 10) スクレーラーのシャープニングに使用する砥石を選択する。（2%）
- 11) 各種スクレーラーに適した砥石でシャープニングを実施する。（6%）
- 12) カリエスリスクテストを実施する。（3%）
- 13) カリエスリスクテストの結果を判定する。（2%）

- 14) フッ化物歯面塗布法を模型上で実施する。（5%）
- 15) 小窩裂溝充填塞法を模型上で実施する。（5%）
- 16) フッ化物局所応用法の洗口法、歯磨剤を応用する。（5%）
- 17) 各手技の修得のために自己研鑽に努める（10%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的な方法：
 - 講義 示説
- 2) 能動的な方法：
 - シミュレーション（顎模型・マネキン）、ロールプレイ
- 3) 媒体：
 - 教科書、参考図書、PowerPoint、配布資料（プリント）、実習器具・器材一式
 - 各自の歯科疾患予防論授業ノート

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
 - ・ディスカッション・ポストテスト・レポート課題の提出についてフィードバックする。
 - ・顎模型による実技操作チェックを行いフィードバックする。（平常点）
- 2) 総括的評価：
 - ・顎模型を用いたスクレーリング実技試験で評価する。（50%）
 - ・平常点：ポストテスト・レポート課題の提出状況で評価する。（50%）

5. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
 - 第1～30回：（各15分）
 - ・各回の内容項目について歯科疾患予防論で行ったポストテスト内容を再確認する。
 - ・関連する教科書のページを確認する。
- 2) 事後学修
 - 第1～30回：（各15～20分）
 - ・実習内容について、歯科疾患予防論で配布されたプリントや講義ノートと教科書を確認する。
 - ・オフィスアワーを活用し実技で不足している点を自主練習で補う。
- 3) 事前学修・事後学修の評価
 - 第1～30回：実習中にディスカッションする。

6. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	医歯薬出版
--------------------	------------------------------	-------

7. 参考図書

E・M ウィルキンス 著/遠藤圭子、中垣晴男、西 真紀子、眞木吉信、松井恭平、山根瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス 歯科衛生士の臨床原著 11 版	医歯薬出版
荒川浩久、尾崎哲則、神原正樹、三宅達郎 編著	歯科衛生士テキスト 口腔衛生学 第 3 版—口腔保健統計を含む—	学建書院
一般財団法人 日本口腔衛生学会 フッ化物応用委員会 編	フッ化物応用の化学	一般財団法人 口腔保健協会
全国歯科衛生士教育協議会監修	歯科衛生学シリーズ 歯周病学	医歯薬出版
沼部幸博、齋藤 淳、梅田 誠	歯科衛生士講座 歯周病学 (第 5 版)	永末書店

8. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時まで

9. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1 2	9/30 10/1	火 水	3 4	【ガイダンス 歯科疾患予防論の復習】 SBOs 1) 2) 3) 4) ・実習で使用する器材の名称 ・歯周組織の構造 ・術部に応じたポジショニング ・インスツルメントの把持 ・ミラーテクニック ・歯周疾患の検査項目と方法 ・プローブの操作方法の確認 ・歯周ポケット測定 プローブを正しく把持 歯軸方向に操作 15~25g の圧で操作 ウォーキングストローク 歯根面の状態を把握 数値を読み取る	講義 示説 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
3 4	10/7 10/8	火 水	3 4	SBOs 3) 4) 5) 6) 10) 11) 17) ・顎模型上 ・歯周ポケット測定実施 シックルタイプスクレーラー操作 正しい姿勢・服装 術部に合わせたポジション 改良執筆状把持でスクレーラーを把持 指示された部位に適したスクレーラーの 選択 シックルタイプスクレーラー 4 原則に沿って操作 スクレーラーシャープニングの目的 砥石の種類・使用用途 各種スクレーラーに適した砥石を選択 シャープニング実施 (シックルタイプ)	示説 実習	西 棟 5 階 実 習 室	永井 杉戸 岩澤
5 6	10/14 10/15	火 水	3 4	SBOs 3) 4) 5) 6) 7) 8) 17) ・シックルタイプスクレーラー操作 正しい姿勢・服装 術部に合わせたポジション 改良執筆状把持でスクレーラーを把持 指示された部位に適したスクレーラーの 選択 ・機械的スクレーラー 正しい姿勢・服装 術部に合わせたポジション 機械的スクレーラーの準備 スクレーラーの把持	示説 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤

				操作時固定点を求める チップを歯面に適合 適切な側方圧でスクーリング 適切なポジションからバキューム操作 ・歯面研磨 目的と方法の確認 模型上で機械的歯面研磨操作			
7 8	10/21 10/22	火 水	3 4	SBO s 4) 5) 6) 7) 8) 17) ・シックルタイプスクーラー操作 正しいスクーラーの選択 刃部を歯面に適合 適切な側方圧 歯軸方向に操作 手指固定 ・キュレットタイプスクーラーの操作 スクーリング操作の原則	示説 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
9 10	10/28 10/29	火 水	3 4	SBO s 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 17) 全顎歯周組織検査 (プロービング) 顎模型上で歯肉縁上歯石のスクーリング 13-23 (唇側) スクーリング ・シックルタイプスクーラー ・キュレットスクーラーの操作 ・歯面研磨 チェックポイント ①正しい姿勢・服装 ②術部に合わせたポジション ③スクーラーを適切に把持 ④指示された部位に適したスクーラー ⑤操作時の固定点 ⑥スクーラーの選択 ⑦刃部を歯面に適合 ⑧適切な側方圧 ⑨正しい方向に操作	示説 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
11 12	11/4 11/5	火 水	3 4	SBO s 4) 5) 6) 7) 8) 17) 顎模型上で歯肉縁上歯石のスクーリング 33-43 スクーリング ・機械的スクーラー (超音波スクーリング) ・シックルタイプスクーラー ・キュレットスクーラーの操作 ・歯面研磨 チェックポイント ①正しい姿勢・服装 ②術部に合わせたポジション ③スクーラーを適切に把持 ④指示された部位に適したスクーラー	示説 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤

				⑤操作時の固定点 ⑥スクーラーの選択 ⑦刃部を歯面に適合 ⑧適切な側方圧 ⑨正しい方向に操作			
13 14	11/11 11/12	火 水	3 4	SBO s 4) 5) 6) 7) 8) 17) 顎模型上で歯肉縁上・縁下スクーリング 14-17 44-47 スクーリング ・機械的スクーラー (超音波スクーラー) ・シックルタイプスクーラー ・キュレットタイプスクーラー ・歯面研磨 チェックポイント ①正しい姿勢・服装 ②術部に合わせたポジション ③スクーラーを適切に把持 ④指示された部位に適したスクーラー ⑤操作時の固定点 ⑥スクーラーの選択 ⑦刃部を歯面に適合 ⑧適切な側方圧 ⑨正しい方向に操作	示説 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
15 16	11/18 11/19	火 水	3 4	SBO s 4) 5) 6) 7) 8) 17) 顎模型上で歯肉縁上・縁下スクーリング を実施する 実習24-27 34-37 スクーリング ・機械的スクーラー(エアスクーラー) ・シックルタイプスクーラー ・キュレットタイプスクーラー ・歯面研磨 チェックポイント ①正しい姿勢・服装 ②術部に合わせたポジション ③スクーラーを適切に把持 ④指示された部位に適したスクーラー ⑤操作時の固定点 ⑥スクーラーの選択 ⑦刃部を歯面に適合 ⑧適切な側方圧 ⑨正しい方向に操作	示説 実習	14 階 実 験 室	

17	11/25	火	3 4	SBO s 4) 5) 6) 7) 8) 17) 顎模型上で歯肉縁上・縁下スクレーリング を実施する	示説 実習	14 階 実 験 室	
18	11/26	水		実習13-23 (口蓋側) スクレーリング ・シックルタイプスクレーラー ・キュレットタイプスクレーラー ・歯面研磨 (全顎) バックポジション (ミラーテクニック) 顎模型上で歯肉縁上・縁下スクレーリング を実施する チェックポイント ①正しい姿勢・服装 ②術部に合わせたポジション ③スクレーラーを適切に把持 ④指示された部位に適したスクレーラー ⑤操作時の固定点 ⑥スクレーラーの選択 ⑦刃部を歯面に適合 ⑧適切な側方圧 ⑨正しい方向に操作			
19	12/2	火	3 4	SBO s 7) 8) 9) 17) 顎模型上で歯肉縁上・縁下スクレーリング を実施する (総合)	示説 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
20	12/3	水		チェックポイント ①正しい姿勢・服装 ②術部に合わせたポジション ③スクレーラーを適切に把持 ④指示された部位に適したスクレーラー ⑤操作時の固定点 ⑥スクレーラーの選択 ⑦刃部を歯面に適合 ⑧適切な側方圧 ⑨正しい方向に操作 ・歯周ポケット内の洗浄 使用する薬品の成分・管理を挙げる 各種洗浄方法を実施できる			
21	12/9	火	3 4	SBO s 7) 8) 9) 10) 11) 17) ・顎模型上で歯周ポケット内の洗浄を実施 各種洗浄方法を実施できる ・スクレーラーシャープニングの目的 ・砥石の種類・使用用途 ・各種スクレーラーに適した砥石を選択 ・シャープニングを実施 (キュレット)	示説 実習	西 棟 5 階 実 習 室	永井 杉戸 岩澤
22	12/10	水					

23	12/16	火	3	SBO s 4) 5) 9) 10) 歯周病のリスクファクター 歯周治療のメンテナンス <u>※AB班 3・4限で交代して実習する。</u>	示説 実習	14 階 教 室	杉戸
24	12/16	火	4	SBO s 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 17) ・根分岐部の検査 ファーケーションプローブの操作方法 <u>※AB班 3・4限で交代して実習する。</u> 実技 模擬試験	講義	14 階 実 験 室	永井 岩澤
25	12/24	水	3	SBO s 12) 13) カリエスリスクテストを実施できる。 カリエスリスクテストの結果を判定す る。 <u>※AB班 1/14と交代して実習する。</u>	示説 実習	14 階 実 験 室 ・ 教 室	多田 杉戸 永井 岩澤
27	1/14	水	3	SBO s 15) 17) 小窩裂溝填塞法を模型上で実施する。 <u>※AB班 12/24と交代して実習する。</u>	示説 実習	14 階 実 験 室 ・ 教 室	多田 杉戸 永井 岩澤
29	1/21	水	3	SBO s 14) 16) 17) フッ化物歯面塗布法を模型上で実施す る。 フッ化物局所応用法の洗口法、歯磨剤 を応用する。 <u>※AB班 3・4限で交代して実習する。</u>	示説 実習	14 階 実 験 室 ・ 教 室	多田 杉戸 永井 岩澤

科目名	実習Ⅱ（歯科診療補助論）	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※多田美穂子、※有友たかね、※古澤成博、※吉田隆、※中田悠、 ※エーサン・ピシヤール		
ナンバリング	B0509-1A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した実習を行っている。		

1. 教科の特徴

歯科衛生士の三大業務のひとつである歯科診療補助は、歯科医師の指示のもとに歯科衛生士が行う相対的歯科医行為である。臨床歯科医学のさまざまな治療や処置において確かなアシスタントワークを行うために、歯科衛生士として必要な技能・態度を修得する科目である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付けてください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実務能力
			○	○	○		○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

診療の補助を実施するために、治療の流れ、必要な器具・材料の名称、取り扱いおよび診療における補助動作の基本的知識のもと技能・態度を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯科診療の補助業務範囲を説明する。(5%)
- 2) 歯科診療の流れを説明する。(3%)
- 3) 歯科用ユニットの取り扱いを実施する。(3%)
- 4) 基本診査用具の使用目的を説明する。(3%)
- 5) 綿花の取り扱いを実施する。(2%)
- 6) 基本診査用具の受け渡しを実施する。(3%)
- 7) 口腔内バキュームの使用目的を説明する。(3%)
- 8) 口腔内バキュームの基本操作を実施する。(5%)
- 9) 保存修復治療時のトレーセッティングを実施する。(3%)
- 10) アルジネート印象材の練和を実施する。(5%)
- 11) アルジネート印象材のトレーへの盛り付けを実施する。(3%)
- 12) アルジネート印象材を使用して概形印象採得を実施する。(3%)

- 13) 寒天・アルジネートの連合印象採得の診療補助を実施する。(2%)
- 14) 歯肉圧排を実施する。(2%)
- 15) シリコーンゴム印象材の連合印象採得の診療補助を実施する。(2%)
- 16) 石膏模型の作製をする。(3%)
- 17) 合着用セメントの取り扱いをする。(5%)
- 18) 仮着用セメントの取り扱いを実施する。(5%)
- 19) 窩洞に仮封を実施する。(3%)
- 20) 歯周外科器材の取り扱いを実施する。(3%)
- 21) 歯周外科治療時のトレーセッティングを実施する。(5%)
- 22) ラバーダム防湿法を実施する。(5%)
- 23) 接着性レジンセメント取り扱いを実施する。(2%)
- 24) 歯科放射線撮影時の位置づけを実施する。(3%)
- 25) 画像検査（パノラマ撮影、デンタル撮影）の読み取りを実施する。(3%)
- 26) 医療安全について説明する。(2%)
- 27) スタンダードプリコーション沿った行動を実施する。(2%)
- 28) 共同動作において術者に配慮する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的な方法： 講義
- 2) 能動的な方法： ポストテスト、ディスカッション、実習
- 3) 媒体： 教科書、参考図書 PowerPoint プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：

講義終了後、ポストテストを実施し、次週講義でフィードバックを実施し、ディスカッションにて学生の理解度を把握する。

実習、ディスカッション等への積極的参加、課題提出を平常点として評価する。
- 2) 総括的評価：

定期試験 記述式、多肢選択式による出題を行い、評価する。(40～45%)

実技試験 (40～45%)

平常点 (10～15%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修

第1～30回：2コマ続きの実習であり、各回の実習内容項目に記載してある。

教科書ページを参考に、配布プリントを仕上げて来ること。(30分)
- 2) 事後学修

第1～30回：講義内容を再度確認し、重要なポイントを配布プリントや教科書で(20分)確認する。

実習中にフィードバックを受けた内容やポストテストを再確認する。

3) 事前学修・事後学修の評価

第1～30回：事前学習用プリント課題の評価(形成的評価)を行う。

7. 教科書

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	医歯薬出版
一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科機器	医歯薬出版

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科材料	医歯薬出版
竹澤保政 監修	イラストと写真でわかる 歯科材料の基礎 第3版	永末書店
一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論	医歯薬出版
古澤成博 齋藤隆史 菅野亜紀ほか	歯科衛生士講座 保存修復学・歯内療法学	永末書店
沼部幸博 齋藤淳 梅田 誠 編集	歯科衛生士講座 歯周病学 第5版	永末書店
ICHG 研究会ほか編	新・歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1 2	9/30 10/1	火 ・ 水	3 4	歯科診療補助論 第1, 3章P2～6, 50～56 歯科機器 第2章P6～19 第4章P61～63 ・歯科診療の補助の範囲を説明できる。 ・基本的歯科治療の流れを説明できる。 ・チェアユニットの名称と取り扱いができる。 ・基本診査用具の名称と使用目的、把持法を説明できる。 ・綿花の取扱いを実施できる。	講義 実習	14階教室 ・ 5階実習室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
3 4	10/7 10/8	火 ・ 水	3 4	歯科診療補助論 第3章 P63～77 共同動作 ・歯科用チェアユニットの取り扱いができる。 ・歯科診療の共同動作を説明できる。 ・バキュームテクニックを実施できる。 ・スリーウェイシリンジテクニックが実施できる。 ・フォーハンデッドデンティストリーに基づく器具の受け渡しができる。	講義 実習	14階実習室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
5 6	10/14 10/15	火 ・ 水	3 4	歯科診療補助論 第4章 P111～120 歯科機器 第4章 P86～91 P118～124 保存修復時の診療補助 ・直接修復の種類と術式、使用器材を説明できる。 ・間接修復の種類と術式、使用器材を説明できる。 ・保存修復治療時に使用する器材の取り扱いができる。(切削・研磨用器具 含) ・歯間分離、歯肉排除、隔壁法の種類と方法を説明できる。 ・隔壁用機器のマトリックスバンドを顎模型へ装着できる。	講義	14階教室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン

7	10/21	火	3	歯科診療補助論 第5章 P192~202	講義	5 階 実 習 室	有友 多田 古澤 吉田 中田 エーサン
8	10/22	水	4	歯科材料 P43~48 印象採得1 ・印象材の種類、用途、使用用途を説明できる。 ・アルジネート印象材を練和できる。 ・アルジネート印象材を全顎トレーへ盛り付けることができる。			
9	10/28	火	3	歯科診療補助論 第5章 P192~204	講義	5 階 実 習 室	有友 多田 古澤 吉田 中田 エーサン
10	10/29	水	4	歯科材料P43~50 歯科機器P112~116 印象採得2 ・アルジネート印象材を全顎トレーへ盛り付けることができる。 ・全顎用トレーの試適ができる。 (ユーティリティワックスの使用法) ・概形印象採得をファントームで実施できる。 印象採得3 ・連合印象採得(寒天・アルジネート)の手順(片顎トレー)をファントームで実施できる。			
11	11/4	火	3	歯科診療補助論 第5章P204~213	講義	5 階 実 習 室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
12	11/5	水	4	第3章P106~109 歯科材料 P50~53 歯科機器 P116、117 印象採得4 ・合成ゴム質印象材の種類、用途、取扱いを説明できる。 ・歯肉圧排に必要な器材を説明できる。 ・歯肉圧排を顎模型で実施できる。 ・連合印象採得(シリコーンゴム質印象材)の手順を実施できる。 印象採得5 ・その他の印象材 モデリングコンパウンドの取扱いを説明できる。 酸化亜鉛ユーージノール印象材の取扱いを説明できる。			

13	11/11	火	3	歯科診療補助論 第5章 P214~221	講義	5 階 実 習 室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
14	11/12	水	4	P251~253 歯科材料 P59~71 石膏模型作製法 ・石膏の種類、用途、取扱いを説明できる。 ・硬石膏を用いて、模型作製ができる。 ・ワックスの種類、用途を説明できる。			
15	11/18	火	3	歯科診療補助論 第5章 P222~235	講義	5 階 実 習 室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
16	11/19	水	4	歯科材料 P72~79、P84、85 歯科用セメント取扱い1 ・合着用セメントの種類、用途、取扱い、使用器具を説明できる。 ・合着用セメントの練和が実施できる。			
17	11/25		3	歯科診療補助論 第5章 P240~250	講義	5 階 実 習 室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
18	11/26		4	歯科材料 P108~119 歯科用セメント取扱い2 ・仮着用セメントの種類、用途、取扱い、使用器具を説明できる。 ・仮着用セメントが使用できる。 ・仮封用セメントの種類、用途、取扱い、使用器具を説明できる。 ・仮封用セメントが使用できる。 ・二重仮封が実施できる。			
19	12/2		3	歯科診療補助論 第4章 P133~137	講義	14 階 教 室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
20	12/3		4	歯科機器 第4章 P103~111 歯周外科治療の診療補助 ・歯周外科手術の種類と術式、使用器材を説明できる。 ・局所麻酔器材、メス、縫合器の取扱いができる。			
21	12/9		3	歯科診療補助論 第3章 P99~105	講義	14 階 実 験 室	有友 多田 古澤 吉田 中田 エーサン
22	12/10		4	歯科機器 第4章 P88~93 歯科診療補助 ・ラバーダム防湿の種類と装着の手順を説明できる。 ・ファントームでラバーダム防湿を装着できる。			

23 24	12/17	水	3 4	歯科診療補助論 第5章 P223～235 ・ 歯科材料 第4章 P85～89 臨床の現場から (I) ・ 接着性レジンセメントの種類と用途を説明できる。	講義	14 階 教 室 ・ 実 験 室	村松 多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
25 26	12/23	火	3 4	・ アルジネート印象材を練和できる ・ アルジネート印象材を全顎トレーへ盛り付けることができる。 ・ 保存修復の術式に必要な器具・器材を説明できる。 ・ 歯周外科の術式に必要な器具・器材を説明できる。	講義	14 階 教 室 ・ 実 験 室	有友 多田 古澤 吉田 中田 エーサン
27 28	2026 1/13	火	3 4	・ 合着用セメント、仮封・仮着用セメントの種類、用途、取扱い、使用器具を説明できる。 ・ 合着用セメント、仮封・仮着用セメントの練和が実施できる。 ・ バキュームテクニック復習 ・ フォーハンデッドデンティストリーに基づく器具の受け渡しができる。	講義	14 階 教 室 ・ 実 験 室	多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン
29 30	1/20	火	3 4	歯科診療補助論 第2章 P7～12 P18～21 ・ 感染予防対策、医療安全について説明できる(身支度、グローブ、マスクの装着) ・ 手指消毒を手順に沿って実施できる。 ・ スタンダードプリコーションに沿ったPPEを整えることができる。 ・ デンタルフィルムの位置づけが実施できる。	講義 演習	14 階 教 室 ・ 実 験 室	歯科放射 線科 小高 多田 有友 古澤 吉田 中田 エーサン

科目名	歯科保健指導論	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※江口貴子、※菅野亜紀		
ナンバリング	B0601-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、対象者の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援するために必要な各ライフステージにおける一般的特徴や歯科衛生の意義および口腔疾患の特徴を講義している。		

1. 教科の特徴

本教科は、対象者の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力を習得するため、各ライフステージにおける一般的特徴や歯科衛生の意義および口腔疾患の特徴を学習する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○	○				○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

対象者に健康づくり支援を行うために、各ライフステージの特徴を理解し、口腔衛生管理や生活習慣の指導に必要な基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 口腔衛生管理に使用する用具について説明する。(5～10%)
- 2) 各ライフステージの一般的特徴、口腔内の特徴を説明する。
- 3) 各ライフステージにおける望ましい歯科保健行動について説明する。
- 4) 各ライフステージに適した歯科保健指導内容(口腔衛生管理・生活習慣・食生活)を説明する。
- 5) 各ライフステージの特徴に合った必要な栄養素とその摂取基準を説明する。
- 6) 特別な配慮を要する患者の口腔衛生管理について説明する。(10～15%)
- 7) 禁煙指導について説明する。(10～15%)
- 8) 自分自身の全身状況と口腔内状況を踏まえ、自分自身の生活習慣を考察する。(5～10%)

(55%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的な方法：講義
- 2) 能動的な方法：プレテスト、ポストテスト、PBL、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、スライド、プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：

講義実施時にプレテスト、ポストテストを行う。
提出物の内容を評価する。

2) 総括的評価：

定期試験については、講義中に指示した範囲で行い、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(90%)
なお、中間試験については、シラバスに記載した範囲で行い、評価する。(10%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修(教科書指定のページを読んでおくこと・各10分程度)

- 第1回：Ⅰ編1章
- 第2～4回：Ⅲ編4章
- 第5回：Ⅳ編妊産婦期
- 第6回：Ⅳ編乳幼児期
- 第7回：Ⅳ編学齢期、青年期
- 第8回：Ⅳ編成人期
- 第9回：指定範囲を復習すること
- 第10回：Ⅳ編高齢期
- 第11回：Ⅳ編要介護高齢者
- 第12回：Ⅳ編大規模災害被災者、Ⅲ編4章ストレスマネジメント
- 第13回：Ⅲ編4章喫煙者に対する指導
- 第14、15回：食事バランスガイドについての厚生労働省のHPを確認する。

2) 事後学修(各10分程度)

- 第1～15回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。

3) 事前学修・事後学修の評価

- 事前学習：第1～13回：講義当日にプレテストを行う。
第14～15回：提出物をもって評価する。
- 事後学習：第1～13回：
次回講義時に事前学習のプレテストとともにポストテストを行う。
第14回：提出物をもって評価する。
第15回は次回講義がないため、事後評価は行わない。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版	医歯薬出版
--------------------	------------------------------------	-------

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導 (第2版)	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と	医歯薬出版

	代謝	
E・Mウィルキンス 著/遠藤圭子、中垣晴男、西真紀子、真木吉信、松井恭平、山根 瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス歯科衛生士の臨床 原著 第11版	医歯薬出版
文部科学省	学校歯科保健参考資料「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり	社団法人 日本学校歯科医学会

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	9/29	月	3	科目の概要について説明 国家試験出題基準や他科目との関連 歯科保健指導の概要 歯科保健指導の定義について 個人と集団 健康とは 定義やヘルスプロモーション ハイリスクアプローチ ポピュレーションアプローチ	講義	14階教室	江口
2	10/6	月	3	口腔清掃方法について1 歯ブラシ・歯磨剤・補助的清掃用具・ 口腔ケア用品(歯ブラシや電動歯ブラシ、 歯磨剤、デンタルフロスの構造、種類、 使用目的等について説明) SBOs1)	講義	14階教室	江口
3	10/20	月	3	口腔清掃方法について2 歯ブラシ・歯磨剤・補助的清掃用具・ 口腔ケア用品(小歯ブラシや歯間ブラシ、 舌ブラシ、染めだし剤の構造、種類、使 用目的について説明) SBOs1)	講義	14階教室	江口
4	10/27	月	3	口腔清掃方法について 電動歯ブラシ SBOs1)	講義	14階教室	江口
5	11/10	月	3	ライフステージ別歯科保健指導1 妊産婦期：妊娠期および授乳期を含む出 産前後の女性 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科 保健行動・栄養、食事摂取基準について SBOs2、3、4、5)	講義	14階教室	江口
6	11/17	月	3	ライフステージ別歯科保健指導2 新生児期～幼児期：出生から5歳 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯 科保健行動・栄養、食事摂取基準につい て SBOs2、3、4、5)	講義	14階教室	江口
7	12/1	月	3	ライフステージ別歯科保健指導3 学齢期～青年期：6歳～29歳 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯 科保健行動・栄養、食事摂取基準につい て SBOs2、3、4、5)	講義	14階教室	江口
8	12/8	月	3	ライフステージ別歯科保健指導4 成人期：30歳～64歳 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯 科保健行動・栄養、食事摂取基準につい	講義	14階教室	江口

				てSBOs2、3、4、5)			
9	12/15	月	2	配慮を要する者への指導 ：大規模災害被災者 生活習慣指導、食・生活習慣改善 ストレスマネジメント SBOs6)	講義	14 階 教室	江口
10	12/18	木	4	ライフステージ別歯科保健指導 5-① 高齢期：65歳以上 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯 科保健行動・栄養、食事摂取基準につ いてSBOs2、3、4、5)	講義	14 階 教室	菅野
11	12/22	月	2	ライフステージ別歯科保健指導 5-② 要介護高齢者 一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯 科保健行動・栄養、食事摂取基準につ いてSBOs2、3、4、5)	講義	14 階 教室	菅野
12	1/15	木	4	回数 1～6 のまとめ、中間試験	講義	14 階 教室	江口
13	1/19	月	2	禁煙指導 喫煙の害と依存性について 禁煙のステージと支援について SBOs7)	講義	14 階 教室	菅野
14	1/19	月	4	食生活指導について 1 ：自分たちの食生活状況を知り、骨密 度や咀嚼状況を踏まえ、望ましい食生活 を考える SBOs8)	講義	14 階 教室	菅野 江口
15	1/26	月	2	食生活指導について 2 症例検討 食支援について食事内容(形態、量、回 数)や咀嚼の仕方・回数を踏まえ考察する SBOs8)	講義	14 階 教室	菅野 江口

科目名	歯科衛生統計学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※杉原直樹		
ナンバリング	B0602-1B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

歯科衛生統計学は、医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的な知識の根幹となり、歯科衛生士として公衆衛生活動および福祉活動を実践するために必須である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
	○					○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生教育並びに歯科保健指導を実施するために、衛生統計の基礎的知識、歯科疾患の指数、および統計資料の活用法を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯科衛生統計学を概説する。(10%)
- 2) 疫学の定義、目的、研究デザインを列挙し、説明する。(10%)
- 3) EBM（根拠に基づく医療）を概説する(10%)。
- 4) 歯科保健調査における情報の性質および情報の取集方法について説明する。(10%)
- 5) 有病と罹患を説明し、集計方法を説明する。(10%)
- 6) 歯科疾患の指数を列挙し、集計方法を説明する。(30%)
- 7) 歯科に関連のある国家統計調査を列挙し、概説する。(20%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方略：講義
- 2) 能動的方略：プレテスト・ポストテスト、ディスカッション
- 3) 媒体：教科書、参考図書、プリント、コンピュータ画像

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
プレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(90%)
課題の提出状況、授業の出欠状況、日常的な授業の取組状況などを評価する。(10%)

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

- 第1回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第2回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第3回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第4回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第5回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第6回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第7回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第8回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）

2) 事後学修

- 第1回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第2回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第3回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第4回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第5回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第6回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第7回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第8回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み 3 保健情報統計学	医歯薬出版
杉原直樹、福田雅臣、川戸貴 行、小松崎 明、有川量崇 監 修	口腔衛生学 2024	一世出版

8. 参考図書

一般財団法人 厚生労働統計協会	国民衛生の動向・厚生 の指標 2024/2025	厚生労働統計 協会
--------------------	--------------------------------	--------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階衛生学研究室

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	11/20	木	4	(1) 歯科衛生統計と疫学 歯科衛生統計とは 歯科衛生統計の目標 歯科衛生統計で用いられる情報 疫学	講義	14 階 教 室	杉原
2	11/25	火	2	(2) 疫学と臨床疫学およびE BM 疫学(前回からの続き) 臨床疫学とE BM(根拠に基づく医療)	講義	14 階 教 室	杉原
3	12/2	火	2	(3)スクリーニング検査と保健統計の基本 スクリーニング検査 保健情報の収集 標本抽出	講義	14 階 教 室	杉原
4	12/9	火	2	(4) - 1 歯科疾患の指数 I (う蝕の指数) 指標と指数 一般衛生統計で用いられる主な指数 有病と罹患 齲蝕の指数 齲蝕の検出基準 齲蝕の疫学的特性 DMF を用いた指数 RID index (齲蝕増量指数) 齲蝕抑制率	講義	14 階 教 室	杉原
5	12/16	火	2	(4)-2 科疾患の指数 II (歯周疾患の指数) 歯周疾患の検出基準 歯周疾患の疫学的特性 歯周疾患の指数 PMA Index GI (Gingival Index) GBI (Gingival Bleeding Index) CPI (CommunityPeriodontal Index) PI (Periodontal Index) PDI (Periodontal Disease Index) GB count (Gingival Bone Count)	講義	14 階 教 室	杉原

6	12/23	火	2	(4) - 3 歯科疾患の指数Ⅲ (歯口清掃状態の指数) OHI (Oral Hygiene Index) OHI-S (Simplified Oral Hygiene Index)	講義	14階教室	杉原
7	1/13	火	2	(4) - 4 歯科疾患の指数Ⅳ (口腔清掃状態と歯のフッ素症の指数) 口腔清掃状態の指数 PCR (Plaque Control Record) PHP (Patient Hygiene Performance) PII (Plaque Index) 歯のフッ素症の指数 CFI (地域フッ素症指数)	講義	14階教室	杉原
8	1/20	火	2	(5) 国家統計調査 国家統計調査の種類 歯科疾患実態調査 学校保健統計調査 国民健康・栄養調査 患者調査	講義	14階教室	杉原